

多治見市人権に関する市民意識調査

報告書

平成26年1月

岐阜県多治見市

目 次

第Ⅰ章 調査概要

1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	回収結果	1
4	報告書の見方	1
5	標本誤差	1

第Ⅱ章 調査結果の要約

1	人権全般についての意識	3
2	女性の人権についての意識	4
3	子どもの人権についての意識	5
4	高齢者の人権についての意識	6
5	障がい者の人権についての意識	6
6	同和問題についての意識	7
7	アイヌの人々の人権についての意識	8
8	外国人の人権についての意識	8
9	感染症患者等（エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者）の 人権についての意識	9
10	刑を終えて出所した人の人権についての意識	9
11	犯罪被害者とその家族の人権についての意識	10
12	インターネットによる人権侵害についての意識	11
13	人権教育・人権啓発の方法について	11

第Ⅲ章 調査結果

1	調査対象者の属性	13
1-1	性別	13
1-2	年齢	13
1-3	家族構成	14
1-4	職業	14

2	人権全般について	15
2-1	関心のある人権問題（問5）	15
2-2	人権侵害をされた経験（問6）	18
2-3	差別をされた経験（問7）	21
2-4	人権侵害を受けた場合の対応（問8）	24
3	女性の人権について	27
3-1	女性の人権問題についての関心の度合い（問9）	27
3-2	「男女共同参画推進条例」について（問10）	28
3-3	女性の人権問題について特に問題だと思うこと（問11）	29
3-4	女性の人権を守るために必要なこと（問12）	33
4	子どもの人権について	35
4-1	子どもの人権問題についての関心の度合い（問13）	35
4-2	「子どもの権利に関する条例」について（問14）	36
4-3	子どもの人権問題について特に問題だと思うこと（問15）	37
4-4	子どもの人権を守るために必要なこと（問16）	40
5	高齢者の人権について	42
5-1	高齢者の人権問題についての関心の度合い（問17）	42
5-2	高齢者の人権問題について特に問題だと思うこと（問18）	43
5-3	高齢者の人権を守るために必要なこと（問19）	46
6	障がい者の人権について	49
6-1	障がい者の人権問題についての関心の度合い（問20）	49
6-2	障がい者の人権問題について特に問題だと思うこと（問21）	50
6-3	障がい者の人権を守るために必要なこと（問22）	53
7	同和問題について	55
7-1	同和問題についての関心の度合い（問23）	55
7-2	同和問題について特に問題だと思うこと（問24）	56
7-3	同和問題についての諸課題（問25）	59
7-4	同和問題を解決するために必要なこと（問26）	61

8	アイヌの人々の人権について	63
8-1	アイヌの人々の人権問題についての関心の度合い(問27)	63
8-2	アイヌの人々の人権問題について特に問題だと思うこと(問28)	64
8-3	アイヌの人々の人権を守るために必要なこと(問29)	67
9	外国人の人権について	69
9-1	外国人の人権問題についての関心の度合い(問30)	69
9-2	外国人の人権問題について特に問題だと思うこと(問31)	70
9-3	外国人の人権を守るために必要なこと(問32)	73
10	感染症患者等(エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者)の人権について	75
10-1	感染症患者等の人権問題についての関心の度合い(問33)	75
10-2	感染症患者等の人権問題について特に問題だと思うこと(問34)	76
10-3	感染症患者等の人権を守るために必要なこと(問35)	79
11	刑を終えて出所した人の人権について	81
11-1	刑を終えて出所した人の人権問題についての関心の度合い(問36)	81
11-2	刑を終えて出所した人とのつきあい(問37)	82
11-3	刑を終えて出所した人の人権を守るために必要なこと(問38)	85
12	犯罪被害者とその家族の人権について	87
12-1	犯罪被害者とその家族の人権問題についての関心の度合い(問39)	87
12-2	犯罪被害者とその家族の人権問題について特に問題だと思うこと(問40)	88
12-3	犯罪被害者とその家族の人権を守るために必要なこと(問41)	91
13	インターネットによる人権侵害について	93
13-1	インターネットによる人権侵害についての関心の度合い(問42)	93
13-2	インターネットによる人権侵害について特に問題だと思うこと(問43)	94
13-3	インターネットによる人権侵害を解決するために必要なこと(問44)	97
14	人権教育・人権啓発の方法について	99
14-1	人権問題の理解を深め、意識を高める取組み(問45)	99
14-2	人権を尊重しあうための今後の市民の取組みについて(問46)	102
14-3	人権侵害に対する相談や救済について必要なこと(問47)	105
第IV章 自由意見の要約		
	自由意見	108
資料 調査票		114

第 I 章 調查概要

1 調査目的

本調査は、人権尊重に対するご意見をいただき、市民一人ひとりの人権が尊重されるまちの実現をめざして来年度改訂する「多治見市人権施策推進指針」と、今後の人権施策の検討資料とする。

2 調査設計

- | | |
|----------|-----------------|
| (1) 調査地域 | 多治見市 |
| (2) 調査対象 | 多治見市在住の20歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出方法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査時期 | 平成25年10月 |

3 回収結果

- | | |
|----------------|--------------|
| (1) 発送数 | 2,000通 |
| (2) 返却数 | 6通 |
| (3) 有効発送数 | 1,994通 |
| (4) 回収数 (回収率) | 981通 (49.2%) |
| 無効回答数 | 0通 |
| (5) 未回収 (返却含む) | 1,019通 |

4 報告書の見方

- (1) nは、質問に対する集計対象総数で、割合算出の基準です。
- (2) 割合は、nに対する各項目（選択肢）の百分率（%）で小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。そのため割合の合計が100.0%にならないこともあります。
- (3) 一人の回答者が2つ以上回答することができる質問では、比率算出の基数は回答者（N=981）の合計としました。

5 標本誤差

市民意識調査を実施する場合、本来は全市民を対象とすることが望ましいですが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果（全数調査の結果に近い調査結果）を得ることになります。今回は多くの市民の協力により981人から回答を得ました。

この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるかは、アンケート調査結果に対する標本誤差を算定し、検証できます。

統計学的には、標本誤差が3%以下であれば精度の高い調査結果であるとしています。

標本誤差が3%ということは、調査結果が母集団の真値に対しプラス・マイナス3%の範囲にあるということです。

標本誤差 σ は次の式で算定されます。

$$\sigma = \kappa \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

記号の説明

記号	項目	内容
σ	標本誤差	上記による
M	母集団	全人口数：115,230人（平成25年4月1日現在）
n	有効回収数	981人
κ	信頼度による定数	信頼度95%の時、1.96
p	結果の比率	50%の時が最も大きな値となる

標本誤差算定結果

結果の比率	50%：50%	40%：60%	30%：70%	20%：80%	10%：90%
標本誤差 (%)	3.12	3.05	2.86	2.49	1.87

標本誤差の算定結果は、最もバラツキが大きくなる回答比率の50%：50%で3.12%でした。

この結果、今回の調査結果は、精度の高い調査に近い結果（全数調査の結果に近い調査結果）を得ることができました。

第Ⅱ章 調査結果の要約

1 人権全般についての意識

前回との差での増減項目数は、「その他」、「無回答」の項目を除外している。

- 現在特に関心のある人権問題については、「高齢者の人権問題」(40.2%)が最も多く、次いで「子どもの人権問題」(32.9%)、「インターネット等による人権問題」(27.6%)、「女性の人権問題」(26.8%)の順となっている。「障がい者の人権問題」は前回3番目であったが、今回は5番目となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が10項目となっている。増加項目では、「インターネット等による人権問題」が4.5%増加している。減少項目では、「高齢者の人権問題」が14.2%、「子どもの人権問題」が7.0%減少している。減少した2項目は、関心の高さでは、1番目、2番目であり、関心の集中からやや分散傾向が見られる。

性別の特性では、「女性の人権問題」で「女性」(37.3%)が「男性」(13.1%)を、24.2%上回る結果となっている。

年代別の特性では、「高齢者の人権問題」では20歳代から40歳代は比較的低く、50歳代からは飛躍的に増加している。「女性の人権問題」及び「子どもの人権問題」は、年齢が高くなるに従い低下している。

今回新設した「東日本大震災に起因する人権問題」は関心の多い順で6位、「人身取引問題」は10位で比較的関心の高い人権問題となっている。

- 人権侵害を受けた内容については、「人権侵害を感じたことがない」(35.4%)の割合が最も高く、次いで「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」(25.8%)、「職場における差別待遇」(17.2%)となっている。

性別の特性では、「セクシュアル・ハラスメント」が8.6%「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」が6.7%、「職場における差別待遇」が4.9%、女性が男性より高くなっている。

年代別の特性では、20歳代、30歳代で「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」の割合が高くなっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が3項目となっている。増加項目では、「いじめ、虐待」が3.0%増加し、減少項目では、「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」が2.4%減少している。

- 差別をされた経験については、「差別をされたことはない」(41.9%)の割合が最も高く、次いで「学歴・出身校」(12.0%)、「年齢」(11.1%)の順となっているが、無回答の割合も16.0%と高い。

性別の特性では、「性別」が12.5%、「年齢」が8.9%、女性が男性より高くなっている。

年代別の特性では、20歳代で「性別」・「容姿」、30歳代で「職業」、40歳代で「学歴・出身校」の割合が高くなっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が8項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、「年齢」が2.8%増加し、減少項目では、「差別をされたことはない」が2.6%減少している。

- 人権侵害を受けた際の対応については、「家族に相談をする」(43.7%)の割合が最も高く、次いで「友人に相談をする」(32.4%)、「黙って我慢をする」(26.4%)、「相手に抗議をする」(24.5%)となっている。

性別の特性では、「家族に相談をする」が29.2%、「友人に相談をする」が19.1%、女性が男性より高くなっている。「相手に抗議をする」が17.7%、「県や市役所など公的機関に相談する」が9.0%、男性が女性より高くなっている。性別により対応方法に違いがでている。

年代別の特性では、20歳代で「家族に相談をする」・「友人に相談をする」、30歳代で「相手に抗議をする」、70歳以上で「県や市役所など公的機関に相談する」の割合が他の年代と比べ高くなっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、「警察に相談をする」が1.7%増加し、減少項目では、「県や市役所など公的機関に相談する」が2.5%減少している。

2 女性の人権についての意識

- 多治見市における「男女共同参画推進条例」については、「名称も知らない」が44.1%と最も多く、「名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が41.0%、「内容はある程度知っている」が9.5%の順となっており、「内容を知っている」と「内容はある程度知っている」を合わせた「男女共同参画推進条例」の認知度は、1割という結果となっている。

前回との差をみると、「名称も知らない」が2.3%減少しているが、他項目には変化がない。

- 特に問題があると思うこととしては、「家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」が42.6%と最も多く、次いで「職場において、採用や昇進・昇格などで男女の待遇に差があること」が29.9%、「男は仕事、女は家庭」など性別による固定的な役割分担意識があること」が23.3%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が5項目となっている。増加項目では、「セクシュアル・ハラスメントや、夫またはパートナーからの暴力を受けること」が2.6%、「ストーカー行為や痴漢行為を受けること」が2.3%、「家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」が1.7%増加し、減少項目では、「売春・買春・援助交際があること」が4.3%、「メディアにおいて、伝えたい内容に関係なく女性の水着姿やヌードなどを使用していること」が1.8%減少している。

- 女性の人権を守るために必要なことについては、「家庭生活と職場の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」が43.0%と最も多く、次いで「職場において、採用や昇進・昇格などの男女の待

遇の差をなくす」が25.9%、「家庭・地域において、慣習、しきたりや性別による固定的な役割分担意識を男女平等の観点から見直す」が18.6%となっており、問題があると思うこと、必要なことの質問においても、職場に関する回答の割合が多い。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、「家庭生活と職場の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」が5.4%、「女性への暴力などの犯罪防止と取締りを強化する」が1.6%、「学校教育や生涯学習の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる」が1.4%増加している。減少項目では、「男女平等意識を確立するための啓発活動を推進する」が3.0%、「家庭・地域において、慣習、しきたりや性別による固定的な役割分担意識を男女平等の観点から見直す」が2.6%減少している。前回との差はあまりない。

3 子どもの人権についての意識

- 多治見市における「子どもの権利に関する条例」については、「名称も知らない」が45.2%、「名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が39.2%、「内容はある程度知っている」が9.8%の順となっており、「内容を知っている」と「内容はある程度知っている」を合わせた「子どもの権利に関する条例」の認知度は、1割という結果となっている。

前回との差をみると、「名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が2.3%減少し、「内容を知っている」が1.1%増加しているが、大きな変化はない。

- 特に問題があると思うこととしては、「子ども同士のいじめ（携帯電話やインターネットを使用したいじめを含む）」が70.2%と最も多く、次いで「親による子どもへの暴力や虐待」が44.0%、「子どもを成績や学歴だけで判断すること」が23.3%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が3項目となっている。増加項目では、「親による子どもへの暴力や虐待」が7.7%、「学校での教員による体罰や差別的な扱い」が6.7%増加している。減少項目では、「子どもを成績や学歴だけで判断すること」が9.9%、「子どもの進路の選択などで、子ども自身の意思を無視すること」が6.1%減少している。

- 子どもの人権を守るために必要なことについては、「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」が39.3%と最も多く、次いで「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、三者が連携して活動に取り組む」が33.9%、「教員など指導者の資質を高める」が25.2%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が4項目となっている。増加項目では、「教員など指導者の資質を高める」が5.6%、「子どもの人権に関する相談体制を充実させる」が2.7%、「子どもの人権を守るための啓発活動を推進する」が1.0%増加している。減少項目では、「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」が4.8%、「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、三者が連携して活動に取り組む」が4.1%減少している。

4 高齢者の人権についての意識

- 特に問題があると思うこととしては、「経済的に自立が困難なこと」が41.2%と最も多く、「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」が40.1%、「悪徳商法の被害が多いこと」が28.8%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が4項目となっている。増加項目では、「悪徳商法の被害が多いこと（振り込め詐欺を含む）」が2.8%、「わからない」が1.5%増加している。減少項目では、「高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること」が3.9%、「病院や養護施設での扱いが悪いこと」が3.4%減少している。

- 高齢者の人権を守るために必要なことについては、「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実し、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」が58.7%、「高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する」が38.6%、「高齢者が知識や経験を生かして活躍できるよう、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす」が24.8%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が3項目となっている。増加項目では、「高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する」が5.9%、「高齢者と他の世代との交流を促進する」が1.8%増加している。減少項目では、「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実し、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」が4.9%、「高齢者の人権に関する相談体制を充実させる」が1.7%、「高齢者をねらった犯罪の防止に努め、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる」が0.1%減少している。

5 障がい者の人権についての意識

- 特に問題があると思うこととしては、「就労の機会が少ないこと」が42.2%と最も多く、次いで「道路の段差や駅の建物の階段など外出に支障があること」が35.0%、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと」が21.7%となっている。

前回との比較では、「特に問題だと思わない」が大きく減少している。

前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が4項目となっている。増加項目では、「就労の機会が少ないこと」、「わからない」、「差別的な発言や行動を受けること」が3.3%増加している。減少項目では、「特に問題だと思わない」が18.8%、「障がい者の生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」が5.5%減少している。

- 障がい者の人権を守るために必要なことについては、「障がい者が安心して外出できるよう建物の設備や公共交通機関を改善する」が41.0%と最も多く、「障がい者の就労機会を確保する」が40.8%、「障がい者が必要とする福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」が30.7%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、「障がい者の就労機会を確保する」が4.0%増加している。減少項目では、「障がい者が安心して外

出できるよう建物の設備や公共交通機関を改善する」が3.9%、「障がい者の人権に関する相談体制を充実させる」が2.6%、「障がい者が必要とする福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」が1.2%減少している。

6 同和問題についての意識

- 特に問題があると思うこととしては、「わからない」が29.4%と最も多く、「同和問題についての理解や認識が十分でないこと」が23.1%、「差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書込みを含む）」が19.5%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が5項目となっている。増加項目では、「差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書込みを含む）」が2.5%、「えせ同和行為（同和問題を口実にして会社や官公庁などに不当な要求をする行為）」、「就職・職場での差別・不利な扱い」、「同和問題についての理解や認識が十分でないこと」が1.5%増加している。減少項目では、「特に問題だと思わない」が2.3%、「わからない」、「地域の付き合いでの差別・不利な扱い」が2.1%減少している。

- 自分の子どもが同和地区出身者と結婚するとした場合の対応については、「わからない」が33.7%と最も多く、次いで「こだわりはあるが、子どもの意思を尊重する」が29.0%、「同和地区の人であるかないかは関係なく祝福する」が23.5%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。項目別には「わからない」が4.3%、「同和地区の人であるかないかは関係なく祝福する」が1.1%増加している。「こだわりはあるが、子どもの意思を尊重する」が5.2%、「絶対に結婚を認めない」が1.4%減少している。

- 同和問題解決のために必要なことについては、「わからない」が30.0%と最も多く、次いで「学校教育、生涯学習を通じて、人権を大切にす教育・啓発活動を積極的に行う」が24.8%、「同和地区のことや差別のことなど口にださないで、そっとしておけば自然になくなる」が13.8%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、「学校教育、生涯学習を通じて、人権を大切にす教育・啓発活動を積極的に行う」が3.4%増加している。減少項目では、「同和地区のことや差別のことなど口にださないで、そっとしておけば自然になくなる」が3.1%、「同和地区の生活環境をよくする」が2.3%、「特に必要だと思わない」が2.0%減少している。

7 アイヌの人々の人権についての意識

- 特に問題があると思うこととしては、「わからない」が41.2%と最も多く、次いで「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」が36.4%、「独自の文化や保存、伝承が図られていない」が15.0%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が5項目となっている。増加項目では、「わからない」が1.3%、「独自の文化や保存、伝承が図られていない」が1.1%増加している。減少項目では、「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」が5.0%、「結婚問題での周囲の反対」が1.8%、「住宅、生活環境など生活水準が低い」が1.1%減少している。

- アイヌの人々の人権を守るために必要なことについては、「わからない」が42.7%と最も多く、「アイヌの人々の独自の文化や伝統について認識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が37.7%、「アイヌの人のための人権に関する相談体制を充実させる」が13.3%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が4項目となっている。増加項目では、「わからない」が3.7%増加している。減少項目では、「アイヌの人々のための人権に関する相談体制を充実させる」が3.1%、「アイヌの人々の就職の機会を確保する」が2.9%、「特に必要だと思うことはない」が1.9%減少している。

8 外国人の人権についての意識

- 特に問題があると思うこととしては、「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと」が34.5%と最も多く、「宗教や慣習が違うことで、地域社会に受け入れられにくいこと」が26.8%、「わからない」が22.8%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が1項目、減少した項目が8項目となっている。増加項目では、「差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書込みを含む）」が4.1%増加している。減少項目では、「住宅を容易に借りることができない」が3.0%、「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと」が2.3%、「就職・職場での差別・不利な扱い」が1.2%減少している。

- 外国人の人権を守るために必要なことについては、「外国人のための日本語学習の機会や日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が31.8%、次いで「外国人のための適正な就労の場や賃金・労働条件の平等を確保する」が25.2%、「外国人に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が22.4%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、

「わからない」が2.5%増加している。減少項目では、「外国人のための相談体制を充実させる」が4.4%、「外国人のための日本語学習の機会や日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が2.4%、「特に必要だと思うことはない」が1.5%減少している。

9 感染症患者等(エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者) の人権についての意識

- 特に問題があると思うこととしては、「エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者についての理解や認識が十分でないこと」が47.6%と最も多く、次いで「感染症患者等であるというだけで世間から好奇または偏見の目で見られること」が39.3%、「社会復帰が困難であることや就職や職場などにおいて不利な扱いを受けること」が20.4%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が4項目となっている。増加項目では、「差別的な言動(インターネットを悪用した差別的な書込みを含む)」が3.7%、「わからない」が3.6%増加している。減少項目では、「感染症患者等であるというだけで世間から好奇または偏見の目で見られること」が6.2%、「エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者についての理解や認識が十分でないこと」が5.7%、「特に問題だと思うことはない」が1.5%減少している。

- 感染症患者等(エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者)の人権を守るために必要なことについては、「感染症に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が49.2%と最も多く、「感染症患者等が社会復帰しやすい環境づくりを確保する」が29.7%、「感染症患者等のための相談体制を充実させる」が18.9%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が5項目となっている。増加項目では、「わからない」が3.5%、「感染症患者等が社会復帰しやすい環境づくりを確保する」が2.8%増加している。減少項目では、「感染症患者等の生活支援や治療費を援助する」が7.5%、「特に必要だと思うことはない」が1.8%、「感染症患者等のための相談体制を充実させる」が1.5%減少している。

10 刑を終えて出所した人の人権についての意識

- 刑を終えて出所した人とのつきあいについては、「つきあいは変わらないが、いろいろ気をつけてつきあう」が41.7%、「わからない」が17.3%、「これまでと同じように親しくつきあっていく」が16.8%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が1項目となっている。増加項目では、「わからない」が2.4%、「表面上はつきあうが、できるだけつきあいを避けていく」が2.2%増加している。減少項目では、「つきあいは変わらないが、いろいろ気をつけてつきあう」が6.0%減少している。

- 刑を終えて出所した人の人権を守るために必要なことについては、「犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない」が47.7%と最も多く、次いで「刑を終えて出所した人が社会復帰しやすい環境づくりを確保する」が30.4%、「刑を終えて出所した人の就職の機会を確保する」が15.8%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が3項目となっている。増加項目では、「わからない」が3.9%、「刑を終えて出所した人に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が3.7%、「刑を終えて出所した人が社会復帰しやすい環境づくりを確保する」が0.7%増加している。減少項目では、「刑を終えて出所した人のための相談体制を充実させる」が5.1%、「犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない」が4.9%、「特に必要だと思うことはない」が0.8%減少している。

11 犯罪被害者とその家族の人権についての意識

- 特に問題があると思うこととしては、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなる」が61.8%と最も多く、「犯罪被害によって精神的なショックを受けること」が34.6%、「刑事裁判で必ずしも被害者の声が十分に反映されるわけではないこと」が19.5%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、「警察に相談しても期待どおりの結果が得られにくいこと」が3.8%増加している。減少項目では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなる」が1.8%、「犯罪被害によって経済的な負担を受けること」、「特に問題だと思うことはない」が1.3%減少している。

- 犯罪被害者とその家族の人権を守るために必要なことについては、「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」が53.6%、「捜査や刑事裁判において犯罪被害者とその家族に配慮した施策を講じる」が31.9%、「精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う」が28.0%の順となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が5項目となっている。増加項目では、「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」が5.2%、「捜査や刑事裁判において犯罪被害者とその家族に配慮した施策を講じる」が0.1%増加している。減少項目では、「犯罪被害者とその家族のために経済的支援を行う」、「犯罪被害者とその家族のための相談体制を充実させる」が2.4%、「特に必要だと思うことはない」が1.2%減少している。

12 インターネットによる人権侵害についての意識

- 特に問題があると思うこととしては、「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が53.4%と最も多く、次いで「個人情報などが流出していること」が40.2%、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること」が27.4%となっている。

前回との比較では、第1位は変わっていないが、前回第2位の「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること」が今回3位に、前回3位の「個人情報などが流出していること」が今回2位となっている。

前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が9.1%、「個人情報などが流出していること」が9.0%増加している。減少項目では、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること」が12.3%、「ネットポルノなど有害なホームページが存在すること」が2.4%、「加害少年の実名や顔写真等が掲載されること」が2.2%減少している。

- インターネットによる人権侵害解決のために必要なことについては、「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が63.8%と最も多く、次いで「プロバイダ等に対し情報の停止・削除を求める」が41.3%、「インターネット利用者に個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が22.8%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が4項目となっている。増加項目では、「インターネット利用者に個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が5.9%、「インターネットにより人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる」が0.6%増加している。減少項目では、「プロバイダ等に対し情報の停止・削除を求める」が6.3%、「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が2.1%、「わからない」が1.2%減少している。

13 人権教育・人権啓発について

- 人権意識を高めるための今後の取組みとしては、「学校での教育を充実する」が35.5%と最も多く、次いで「行政が啓発活動を積極的に行う」が31.7%、「人権侵害を受けた人への相談や支援を充実する」が22.0%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が6項目となっている。増加項目では、「学校での教育を充実する」が2.1%増加している。減少項目では、「行政が啓発活動を積極的に行う」が4.6%、「家庭での教育を充実する」が3.3%減少している。

- 人権を尊重するために市民一人ひとりが行動すべきこととしては、「人権に対する正しい知識を身につけること」が58.7%と最も多く、次いで「自分の権利ばかりでなく他人の権利を尊重すること」

が 52.6%、「因習や誤った固定概念にとらわれないこと」が 47.9%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が 3 項目、減少した項目が 5 項目となっている。増加項目では、「因習や誤った固定観念にとらわれないこと」が 3.5%、「わからない」が 1.8%増加している。減少項目では、「家庭内での家族の権利を大事にすること」が 9.0%、「自分の生活している地域の人々を大切にすること」が 5.9%、「自分の権利ばかりでなく他人の権利を尊重すること」が 3.0%減少している。

- 人権侵害に対する相談や救済で特に必要だと思うことについては、「人権侵害された際の適切な相談機関・窓口を広く周知する」が 46.0%と最も多く、次いで「人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う」が 37.7%、「相談員の資質向上や相談時間の拡大など、現在ある制度を充実する」が 25.8%となっている。

前回との比較では、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。

前回との差をみると、増加した項目が 2 項目、減少した項目が 5 項目となっている。増加項目では、「人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う」が 2.1%増加している。減少項目では、「相談員の資質向上や相談時間の拡大など、現在ある制度を充実する」が 3.6%、「人権啓発活動の中で、人権が侵害された時の対処の方法を学ぶ機会を増やす」が 1.5%減少している。

第三章 調查結果

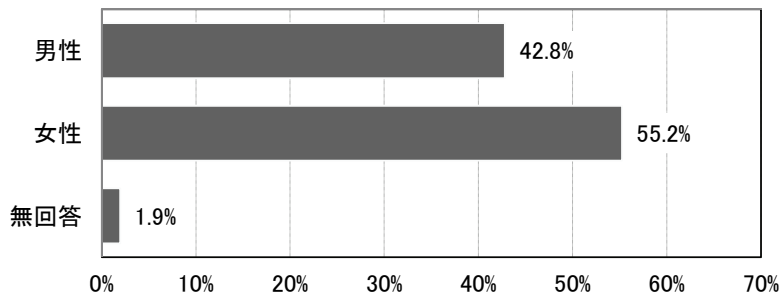
1 調査対象者の属性

1-1 性別

問1. あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)

◆「男性」が42.8%、「女性」が55.2%と、「女性」の割合が12.4ポイント高くなっている。

No.	項目	件	%
1	男性	420	42.8%
2	女性	542	55.2%
3	無回答	19	1.9%
	全体	981	100.0%

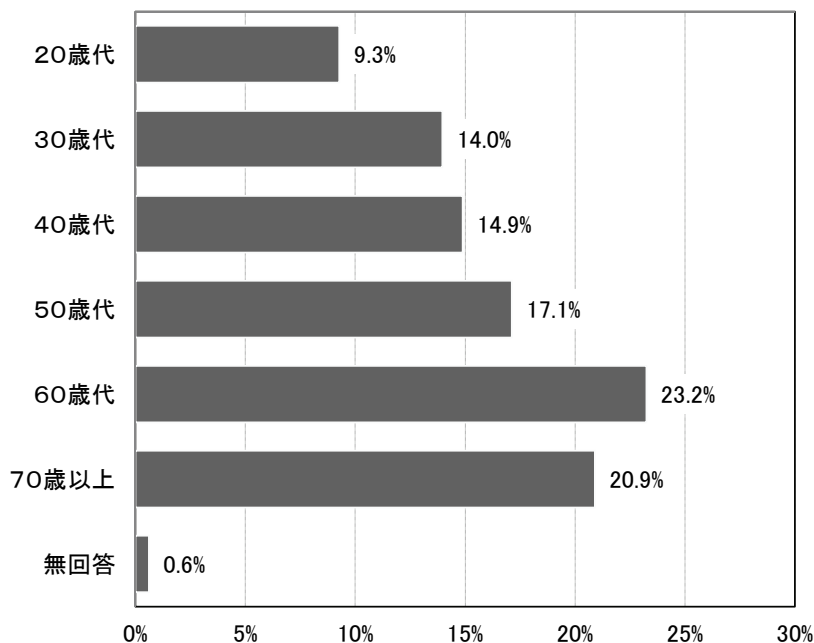


1-2 年齢

問2. あなたの年齢は次の中のどれですか。(〇は1つ)

◆「60歳代」が23.2%と最も多く、次いで「70歳以上」が20.9%、「50歳代」が17.1%、「40歳代」が14.9%と続いている。

No.	項目	件	%
1	20歳代	91	9.3%
2	30歳代	137	14.0%
3	40歳代	146	14.9%
4	50歳代	168	17.1%
5	60歳代	228	23.2%
6	70歳以上	205	20.9%
7	無回答	6	0.6%
	全体	981	100.0%

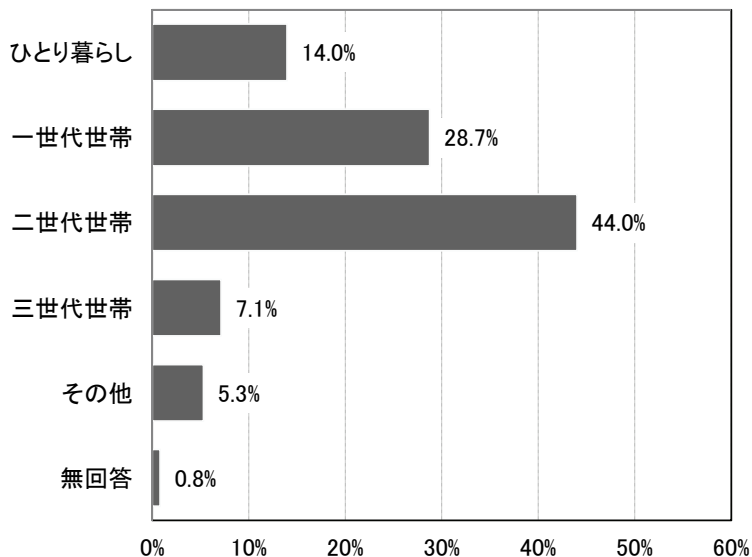


1-3 家族構成

問3. あなたの家族構成はどれですか。(〇は1つ)

- ◆「二世帯世帯（親とその子ども）」が44.0%と最も多く、次いで「一世代世帯（夫婦のみ）」が28.7%、「ひとり暮らし」が14.0%、「三世帯世帯（祖父・祖母と親とその子ども）」が7.1%の順となっている。

No.	項目	件	%
1	ひとり暮らし	137	14.0%
2	一世代世帯	282	28.7%
3	二世帯世帯	432	44.0%
4	三世帯世帯	70	7.1%
5	その他	52	5.3%
6	無回答	8	0.8%
全体		981	100.0%

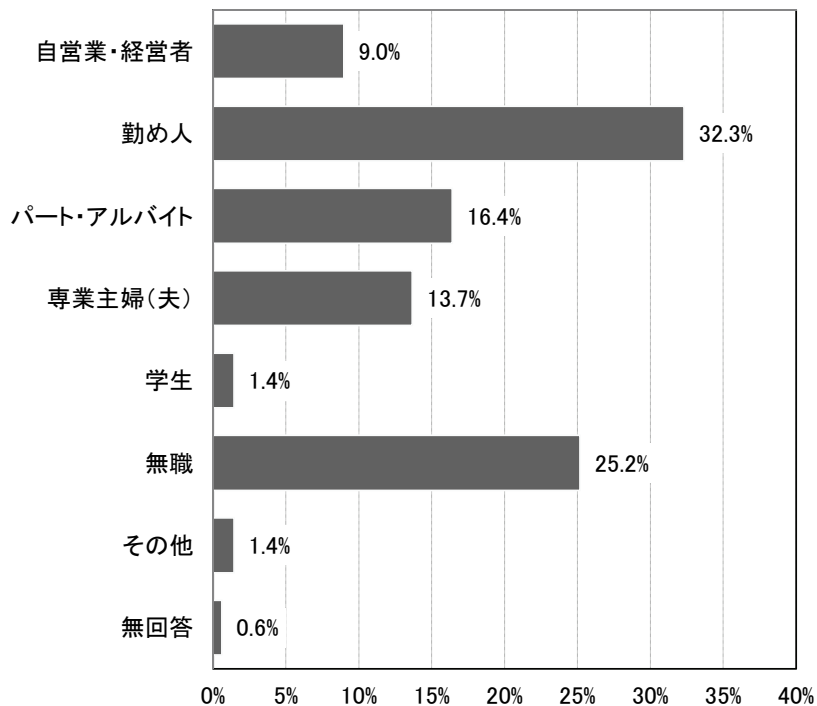


1-4 職業

問4. あなたの職業は何ですか。(〇は1つ)

- ◆「勤め人（役員、会社員、公務員など）」が32.3%と最も多く、次いで「無職」が25.2%、「パート・アルバイト（内職含む）」が16.4%、「専業主婦（夫）」が13.7%となっている。

No.	項目	件	%
1	自営業・経営者	88	9.0%
2	勤め人	317	32.3%
3	パート・アルバイト	161	16.4%
4	専業主婦（夫）	134	13.7%
5	学生	14	1.4%
6	無職	247	25.2%
7	その他	14	1.4%
8	無回答	6	0.6%
全体		981	100.0%



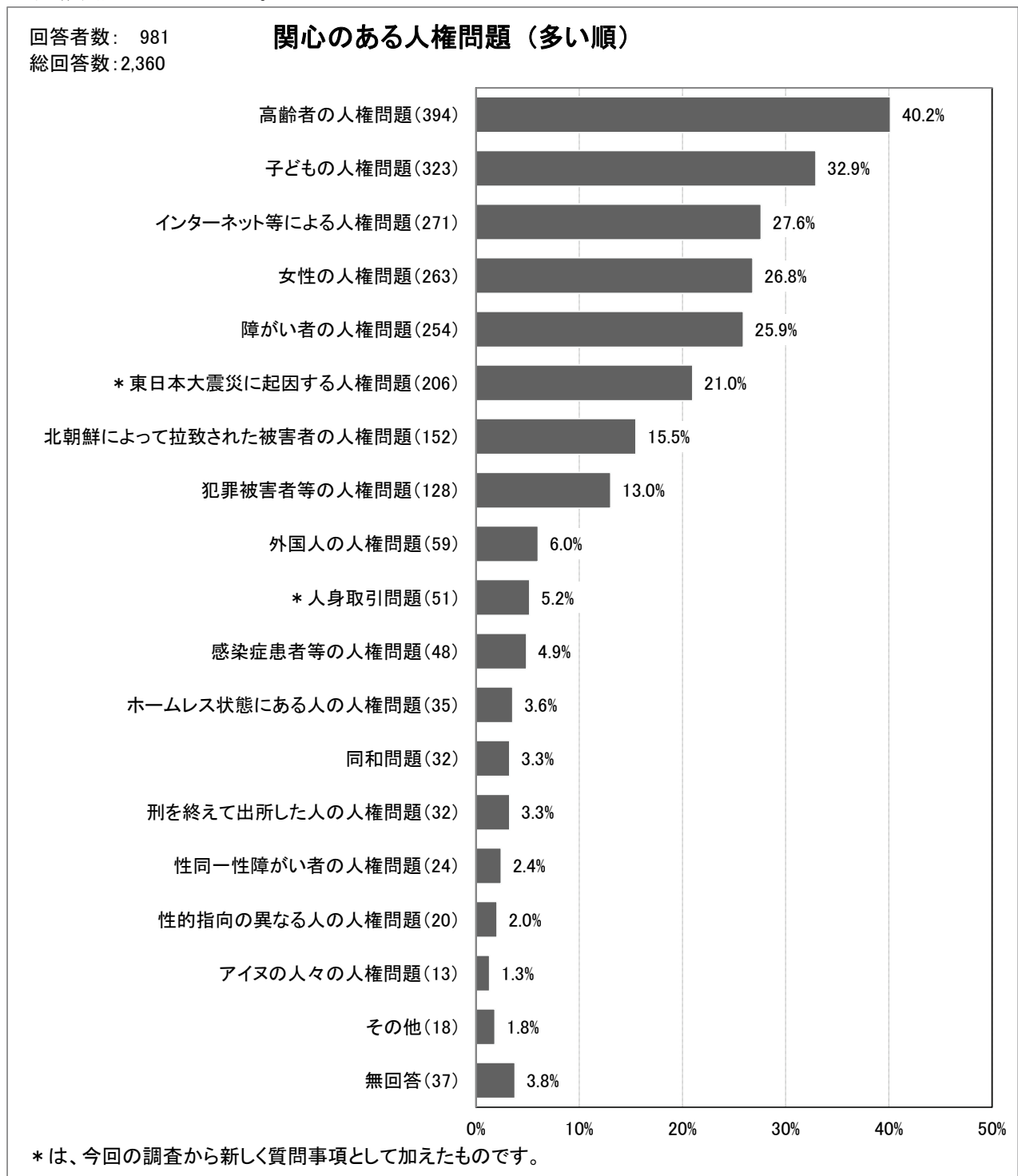
2 人権全般について

2-1 関心のある人権問題

問5. 以下のそれぞれの人権問題で、あなたが関心をもっている問題は何ですか。(〇は3つまで)

【全体】

- ◆「高齢者の人権問題」が40.2%と最も多く、次いで「子どもの人権問題」が32.9%、「インターネット等による人権問題」が27.6%の順となっている。
- ◆今回新設した「東日本大震災に起因する人権問題」は6位、「人身取引問題」は10位で比較的関心の高い人権問題となっている。



【性・年代別】

- ◆性別で見てみると、男性、女性ともに「高齢者の人権問題」と回答した人が最も多く、次いで男性は「子どもの人権問題」、女性は「女性の人権問題」となっている。続く第3位に多い項目については、男性で「インターネット等による人権問題」、女性で「子どもの人権問題」の割合が多くなっている。「女性の人権問題」の男性の順位は、第8位、「インターネット等による人権問題」の女性の順位は、第4位となっている。
- ◆年代別で見てみると、20歳代～30歳代は「子どもの人権問題」、40歳代は「インターネット等による人権問題」、50歳代は「障がい者の人権問題」、60歳代及び70歳以上は「高齢者の人権問題」がそれぞれ第1位となっている。20歳代及び40歳代では「高齢者の人権問題」上位5位に入っていない。年代により関心のある人権問題に差が見られる。

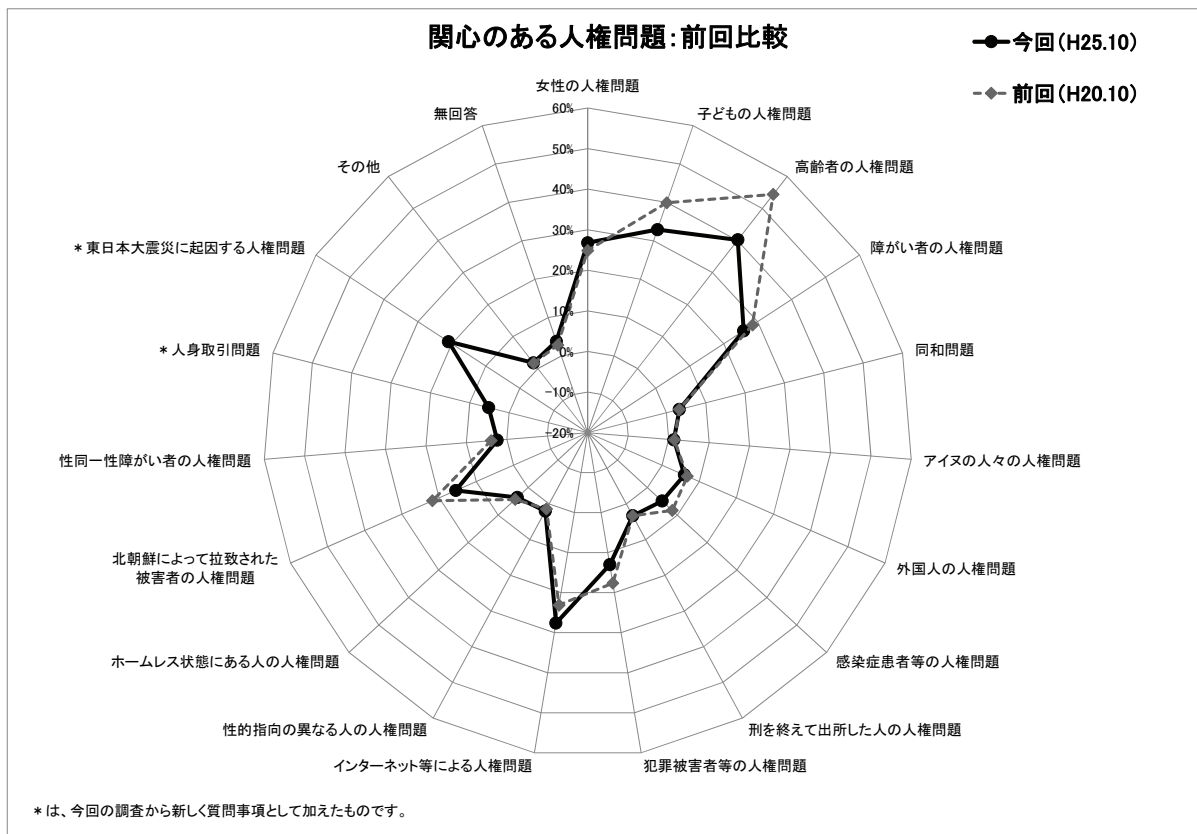
[上段:件、下段:%]

項目	区分	女性の人権問題	子どもの人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	同和問題	アイヌの人々の人権問題	外国人の人権問題	感染者、ハンセン病患者（エイズ、HIV、元感染者）の人権問題	刑を終えて出所した人	犯罪被害者等の人権問題
		件	件	件	件	件	件	件	件	件	件
全体 (n=981)	回答数	263	323	394	254	32	13	59	48	32	128
	回答率	26.8%	32.9%	40.2%	25.9%	3.3%	1.3%	6.0%	4.9%	3.3%	13.0%
男性 (n=420)	回答数	55	123	168	116	22	8	32	20	14	66
	回答率	13.1%	29.3%	40.0%	27.6%	5.2%	1.9%	7.6%	4.8%	3.3%	15.7%
女性 (n=542)	回答数	202	191	218	135	10	5	25	28	16	61
	回答率	37.3%	35.2%	40.2%	24.9%	1.8%	0.9%	4.6%	5.2%	3.0%	11.3%
20歳代 (n=91)	回答数	35	39	13	26	2	2	9	14	4	10
	回答率	38.5%	42.9%	14.3%	28.6%	2.2%	2.2%	9.9%	15.4%	4.4%	11.0%
30歳代 (n=137)	回答数	52	56	30	29	7	2	16	4	4	12
	回答率	38.0%	40.9%	21.9%	21.2%	5.1%	1.5%	11.7%	2.9%	2.9%	8.8%
40歳代 (n=146)	回答数	48	52	26	31	7	4	11	9	3	31
	回答率	32.9%	35.6%	17.8%	21.2%	4.8%	2.7%	7.5%	6.2%	2.1%	21.2%
50歳代 (n=168)	回答数	42	43	51	54	9	2	10	7	6	29
	回答率	25.0%	25.6%	30.4%	32.1%	5.4%	1.2%	6.0%	4.2%	3.6%	17.3%
60歳代 (n=228)	回答数	54	71	131	66	4	2	9	8	9	26
	回答率	23.7%	31.1%	57.5%	28.9%	1.8%	0.9%	3.9%	3.5%	3.9%	11.4%
70歳以上 (n=205)	回答数	30	60	142	47	3	1	3	5	6	19
	回答率	14.6%	29.3%	69.3%	22.9%	1.5%	0.5%	1.5%	2.4%	2.9%	9.3%
項目	区分	インターネット等による人権問題	性的指向の異なる人	ホームレス問題	北朝鮮による拉致問題	同性障がい者の人権問題	人身取引（性的目的）	東日本大震災に起因する人権問題	その他	無回答	総回答
		件	件	件	件	件	件	件	件	件	件
全体 (n=981)	回答数	271	20	35	152	24	51	206	18	37	2360
	回答率	27.6%	2.0%	3.6%	15.5%	2.4%	5.2%	21.0%	1.8%	3.8%	240.6%
男性 (n=420)	回答数	122	7	23	67	4	29	79	9	18	982
	回答率	29.0%	1.7%	5.5%	16.0%	1.0%	6.9%	18.8%	2.1%	4.3%	233.8%
女性 (n=542)	回答数	148	12	12	84	20	21	123	8	16	1335
	回答率	27.3%	2.2%	2.2%	15.5%	3.7%	3.9%	22.7%	1.5%	3.0%	246.3%
20歳代 (n=91)	回答数	35	4	3	7	5	7	10	1	0	226
	回答率	38.5%	4.4%	3.3%	7.7%	5.5%	7.7%	11.0%	1.1%	0.0%	248.4%
30歳代 (n=137)	回答数	42	2	3	9	9	8	26	3	2	316
	回答率	30.7%	1.5%	2.2%	6.6%	6.6%	5.8%	19.0%	2.2%	1.5%	230.7%
40歳代 (n=146)	回答数	59	5	6	17	4	6	33	2	4	358
	回答率	40.4%	3.4%	4.1%	11.6%	2.7%	4.1%	22.6%	1.4%	2.7%	245.2%
50歳代 (n=168)	回答数	50	3	3	22	3	7	30	8	8	387
	回答率	29.8%	1.8%	1.8%	13.1%	1.8%	4.2%	17.9%	4.8%	4.8%	230.4%
60歳代 (n=228)	回答数	58	2	8	53	2	11	56	0	8	578
	回答率	25.4%	0.9%	3.5%	23.2%	0.9%	4.8%	24.6%	0.0%	3.5%	253.5%
70歳以上 (n=205)	回答数	26	4	12	44	1	12	50	4	13	482
	回答率	12.7%	2.0%	5.9%	21.5%	0.5%	5.9%	24.4%	2.0%	6.3%	235.1%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】 差の大きい順

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
インターネット等による人権問題	27.6%	23.1%	4.5%
女性の権利問題	26.8%	24.9%	1.9%
性的指向の異なる人の人権問題	2.0%	1.4%	0.6%
同和問題	3.3%	3.3%	0.0%
刑を終えて出所した人の人権問題	3.3%	3.3%	0.0%
アイヌの人々の人権問題	1.3%	1.4%	-0.1%
ホームレス状態にある人の人権問題	3.6%	4.3%	-0.7%
外国人の人権問題	6.0%	6.8%	-0.8%
性同一性障がい者の人権問題	2.4%	3.9%	-1.5%
障がい者の人権問題	25.9%	28.5%	-2.6%
感染症患者等の人権問題	4.9%	8.3%	-3.4%
犯罪被害者等の人権問題	13.0%	17.6%	-4.6%
北朝鮮によって拉致された被害者の人権問題	15.5%	21.8%	-6.3%
子どもの人権問題	32.9%	39.9%	-7.0%
高齢者の人権問題	40.2%	54.4%	-14.2%
その他	1.8%	1.7%	0.1%
無回答	3.8%	2.8%	1.0%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・ スマホのアプリ 〈LINE〉 等によるいじめ・自殺
- ・ 労働者に対する人権問題
- ・ 働きながら育児中のシングルママ・パパ
- ・ モラルハラスメント等パワーバランス下の人権問題 (女性に限らない) 等

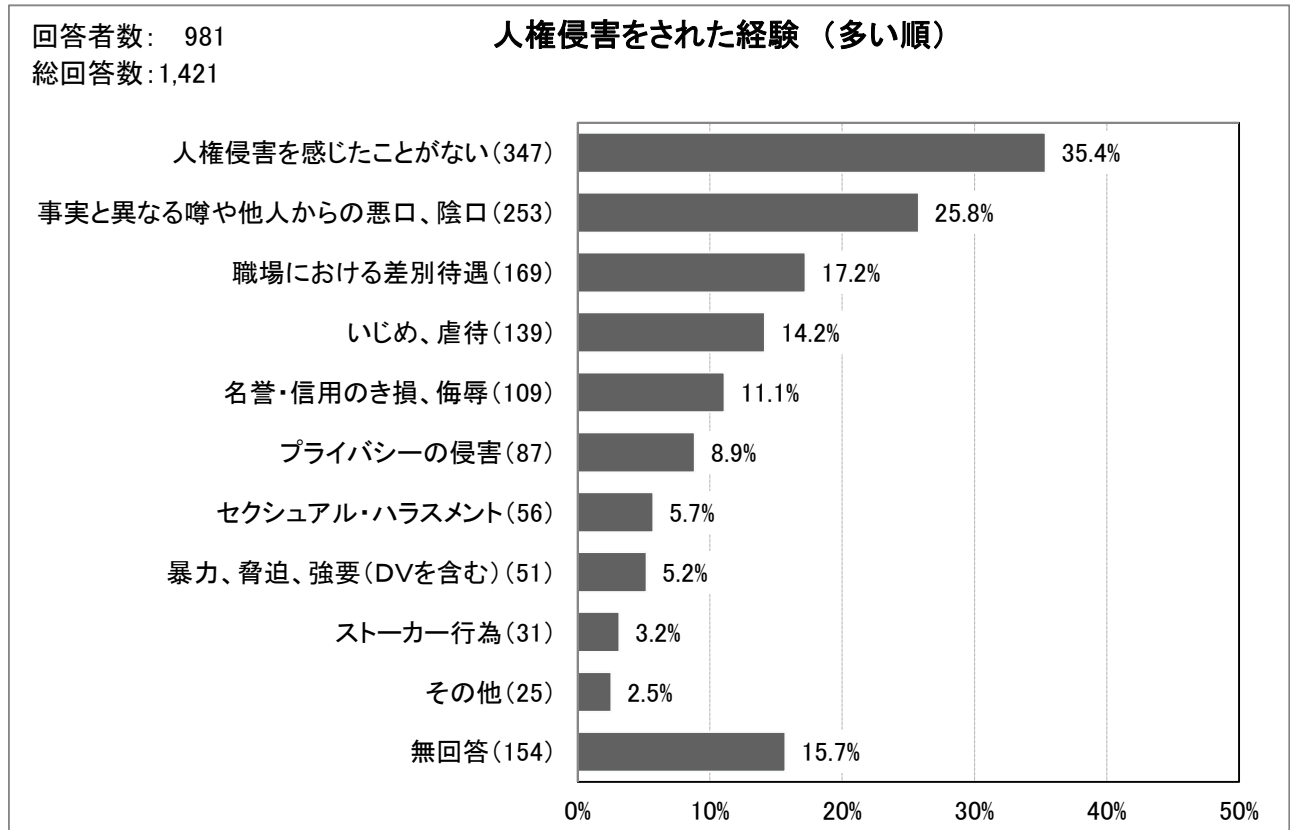
2-2 人権侵害をされた経験

問6. あなたは、これまでに以下の人権侵害を受けたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体】

- ◆「人権侵害を感じたことがない」が35.4%と最も多く、「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」が25.8%、「職場における差別待遇」が17.2%と続いている。

この上位3項目は、前回と同じである。



【性・年代別】

- ◆性別による特性はほぼ見られず、男性、女性ともに「人権侵害を感じたことがない」が最も多く、次いで「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」となっている。ただし、「人権侵害を感じたことがない」では男性が4.7%、「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」では女性が6.7%多くなっている。男性に比較して女性は平均化されている。

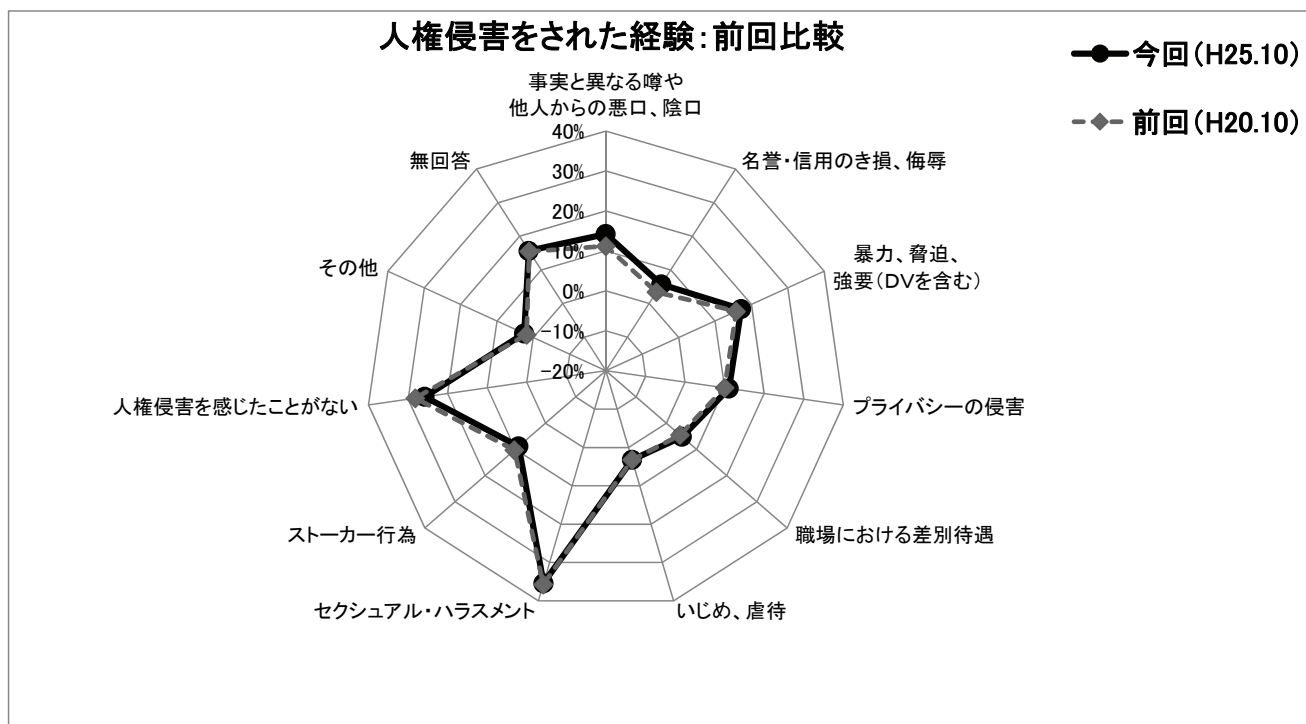
- ◆年代別で見ると、40歳代では「人権侵害を感じたことがない」と「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」が同率で最も多く、50歳以上では「人権侵害を感じたことがない」が最も多く、次いで「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」となっている。20・30歳代ではそれが逆転している。第3位は年代により差がでている。20～30歳では「いじめ・虐待」、40歳代では「いじめ・虐待」、「職場における差別待遇」が同率、50・60歳代では「職場における差別待遇」、70歳以上では「名誉・信用のき損、侮辱」となっている。

項目	区分	人権侵害を感じたこと がない	名誉・信用のき損、 侮辱	暴力、脅迫、強要 (DVを含む)	プライバシーの侵害	職場における差別待 遇	いじめ、虐待	セクシュアル・ハラ メント	ストーカー行為	人権侵害を感じたこ とがない	その他	無回答	総回 答
全体 (n=981)	回答数	253	109	51	87	169	139	56	31	347	25	154	1,421
	回答率	25.8%	11.1%	5.2%	8.9%	17.2%	14.2%	5.7%	3.2%	35.4%	2.5%	15.7%	144.9%
男性 (n=420)	回答数	92	44	21	34	62	54	4	5	160	10	80	566
	回答率	21.9%	10.5%	5.0%	8.1%	14.8%	12.9%	1.0%	1.2%	38.1%	2.4%	19.0%	134.8%
女性 (n=542)	回答数	155	62	28	51	107	82	52	26	181	15	69	828
	回答率	28.6%	11.4%	5.2%	9.4%	19.7%	15.1%	9.6%	4.8%	33.4%	2.8%	12.7%	152.8%
20歳代 (n=91)	回答数	34	8	9	7	14	24	9	4	29	0	5	143
	回答率	37.4%	8.8%	9.9%	7.7%	15.4%	26.4%	9.9%	4.4%	31.9%	0.0%	5.5%	157.1%
30歳代 (n=137)	回答数	43	18	7	14	28	33	14	6	42	4	10	219
	回答率	31.4%	13.1%	5.1%	10.2%	20.4%	24.1%	10.2%	4.4%	30.7%	2.9%	7.3%	159.9%
40歳代 (n=146)	回答数	37	20	15	18	35	35	11	8	37	2	22	240
	回答率	25.3%	13.7%	10.3%	12.3%	24.0%	24.0%	7.5%	5.5%	25.3%	1.4%	15.1%	164.4%
50歳代 (n=168)	回答数	48	14	9	16	31	19	12	5	64	2	25	245
	回答率	28.6%	8.3%	5.4%	9.5%	18.5%	11.3%	7.1%	3.0%	38.1%	1.2%	14.9%	145.8%
60歳代 (n=228)	回答数	58	30	6	22	47	21	8	4	85	5	35	321
	回答率	25.4%	13.2%	2.6%	9.6%	20.6%	9.2%	3.5%	1.8%	37.3%	2.2%	15.4%	140.8%
70歳以上 (n=205)	回答数	31	18	5	10	13	7	2	3	88	12	55	244
	回答率	15.1%	8.8%	2.4%	4.9%	6.3%	3.4%	1.0%	1.5%	42.9%	5.9%	26.8%	119.0%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が3項目となっている。

増加項目では、「いじめ、虐待」が3.0%、「セクシュアル・ハラスメント」が2.3%増加している。

減少項目では、「事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口」が2.4%、「プライバシーの侵害」が1.4%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
いじめ、虐待	14.2%	11.2%	3.0%
セクシュアル・ハラスメント	5.7%	3.4%	2.3%
職場における差別待遇	17.2%	15.8%	1.4%
名誉・信用のき損、侮辱	11.1%	10.0%	1.1%
暴力、脅迫、強要（DVを含む）	5.2%	4.5%	0.7%
ストーカー行為	3.2%	3.2%	0.0%
人権侵害を感じたことがない	35.4%	35.7%	-0.3%
プライバシーの侵害	8.9%	10.3%	-1.4%
事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口	25.8%	28.2%	-2.4%
その他	2.5%	1.8%	0.7%
無回答	15.7%	15.5%	0.2%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

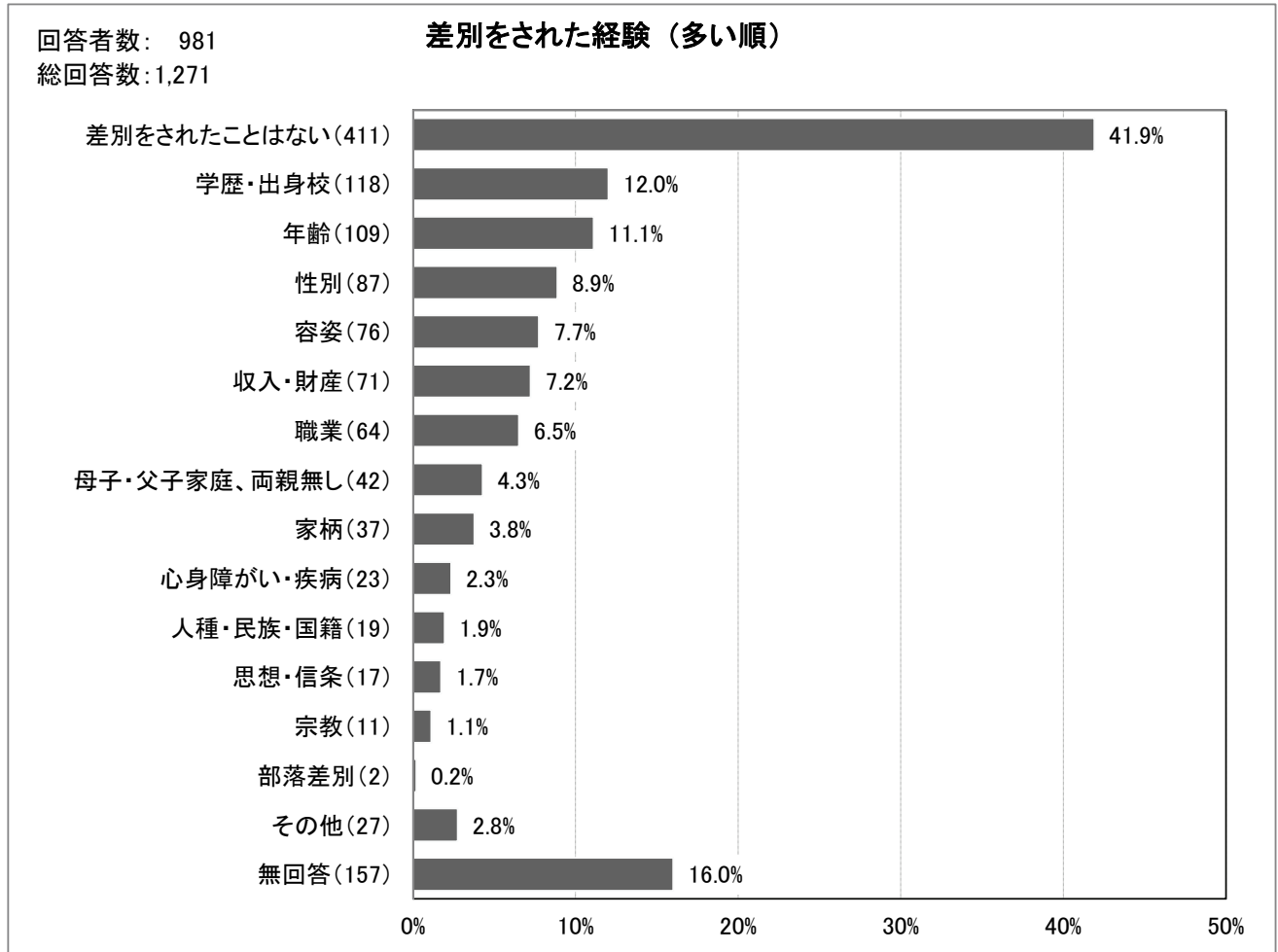
- ・近所の若者に毎夜嫌がらせをされる
- ・外国人を理由とする不採用
- ・給料差別
- ・子どもに障がいがあるため「職場における差別待遇」を感じた
- ・軽度のもの日常的にある
- ・町内でのいじめ 等

2-3 差別をされた経験

問7. また、あなたは差別をされたと思ったことはありますか。ある場合、それはどういった内容のものでしたか。(〇は3つまで)

【全体】

- ◆「差別をされたことはない」が41.9%と最も多く、次いで「学歴・出身校」が12.0%、「年齢」が11.1%となっている。



【性・年代別】

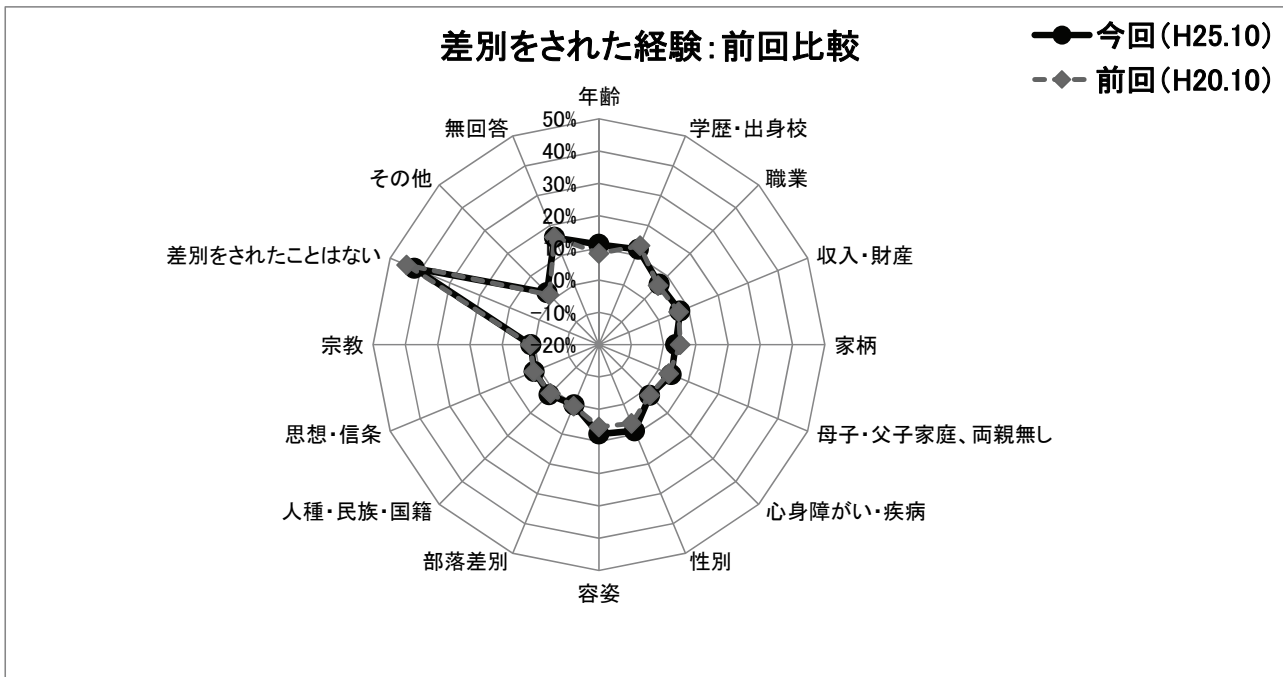
- ◆性別で見ると、男性、女性ともに、「差別をされたことはない」と回答した割合が最も多く、男性では「学歴・出身校」、「収入・財産」と続く。女性では「年齢」、「性別」と続いており、2位以下の項目において変化が見られた。「性別」が12.5%、「年齢」が8.9%、女性が男性より高くなっている。
- ◆年代別で見ると、各年代ともに「差別をされたことはない」と回答した割合が最も多い。次いで、20歳代では「性別」、30～40歳代では「学歴・出身校」、50・60歳代では「年齢」、70歳以上では「収入・財産」となっている。

項目	区分	年齢	学歴・出身校	職業	収入・財産	家柄	両親無し・父子家庭、	心身障がい・疾病	性別	容姿	部落差別
全体 (n=981)	回答数	109	118	64	71	37	42	23	87	76	2
	回答率	11.1%	12.0%	6.5%	7.2%	3.8%	4.3%	2.3%	8.9%	7.7%	0.2%
男性 (n=420)	回答数	26	54	30	35	20	11	12	8	21	0
	回答率	6.2%	12.9%	7.1%	8.3%	4.8%	2.6%	2.9%	1.9%	5.0%	0.0%
女性 (n=542)	回答数	82	62	32	35	17	30	11	78	53	2
	回答率	15.1%	11.4%	5.9%	6.5%	3.1%	5.5%	2.0%	14.4%	9.8%	0.4%
20歳代 (n=91)	回答数	10	8	4	4	2	2	4	17	14	0
	回答率	8.2%	6.6%	3.3%	3.3%	1.6%	1.6%	3.3%	13.9%	11.5%	0.0%
30歳代 (n=137)	回答数	11	24	15	6	4	11	3	15	15	0
	回答率	8.0%	17.5%	10.9%	4.4%	2.9%	8.0%	2.2%	10.9%	10.9%	0.0%
40歳代 (n=146)	回答数	19	27	9	10	9	6	2	23	12	0
	回答率	13.0%	18.5%	6.2%	6.8%	6.2%	4.1%	1.4%	15.8%	8.2%	0.0%
50歳代 (n=168)	回答数	24	19	14	15	8	7	3	19	12	1
	回答率	14.3%	11.3%	8.3%	8.9%	4.8%	4.2%	1.8%	11.3%	7.1%	0.6%
60歳代 (n=228)	回答数	33	28	14	23	11	11	10	10	19	0
	回答率	14.5%	12.3%	6.1%	10.1%	4.8%	4.8%	4.4%	4.4%	8.3%	0.0%
70歳以上 (n=205)	回答数	11	12	8	13	3	5	1	2	4	1
	回答率	5.4%	5.9%	3.9%	6.3%	1.5%	2.4%	0.5%	1.0%	2.0%	0.5%
項目	区分	国籍種・民族・	思想・信条	宗教	差別をなされた	その他	無回答	総回答			
全体 (n=981)	回答数	19	17	11	411	27	157	1,271			
	回答率	1.9%	1.7%	1.1%	41.9%	2.8%	16.0%	129.6%			
男性 (n=420)	回答数	7	9	6	211	15	77	727			
	回答率	2.6%	1.9%	1.2%	46.0%	2.9%	17.9%	124.0%			
女性 (n=542)	回答数	7	9	6	211	15	77	727			
	回答率	1.3%	1.7%	1.1%	38.9%	2.8%	14.2%	134.1%			
20歳代 (n=91)	回答数	5	4	2	36	3	7	122			
	回答率	4.1%	3.3%	1.6%	29.5%	2.5%	5.7%	134.1%			
30歳代 (n=137)	回答数	6	2	1	55	3	15	186			
	回答率	4.4%	1.5%	0.7%	40.1%	2.2%	10.9%	135.8%			
40歳代 (n=146)	回答数	4	2	1	53	6	18	201			
	回答率	2.7%	1.4%	0.7%	36.3%	4.1%	12.3%	137.7%			
50歳代 (n=168)	回答数	1	1	1	70	3	22	220			
	回答率	0.6%	0.6%	0.6%	41.7%	1.8%	13.1%	131.0%			
60歳代 (n=228)	回答数	3	3	3	89	5	37	299			
	回答率	1.3%	1.3%	1.3%	39.0%	2.2%	16.2%	131.1%			
70歳以上 (n=205)	回答数	0	4	3	106	7	56	236			
	回答率	0.0%	2.0%	1.5%	51.7%	3.4%	27.3%	115.1%			

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が8項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「年齢」が2.8%、「性別」が2.5%増加している。

減少項目では、「差別をされたことはない」が2.6%、「家柄」が1.4%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
年齢	11.1%	8.3%	2.8%
性別	8.9%	6.4%	2.5%
容姿	7.7%	5.5%	2.2%
母子・父子家庭、両親無し	4.3%	3.4%	0.9%
職業	6.5%	5.9%	0.6%
人種・民族・国籍	1.9%	1.3%	0.6%
収入・財産	7.2%	6.7%	0.5%
心身障がい・疾病	2.3%	2.2%	0.1%
思想・信条	1.7%	1.9%	-0.2%
宗教	1.1%	1.3%	-0.2%
部落差別	0.2%	0.6%	-0.4%
学歴・出身校	12.0%	13.2%	-1.2%
家柄	3.8%	5.2%	-1.4%
差別をされたことはない	41.9%	44.5%	-2.6%
その他	2.8%	1.8%	1.0%
無回答	16.0%	16.1%	-0.1%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

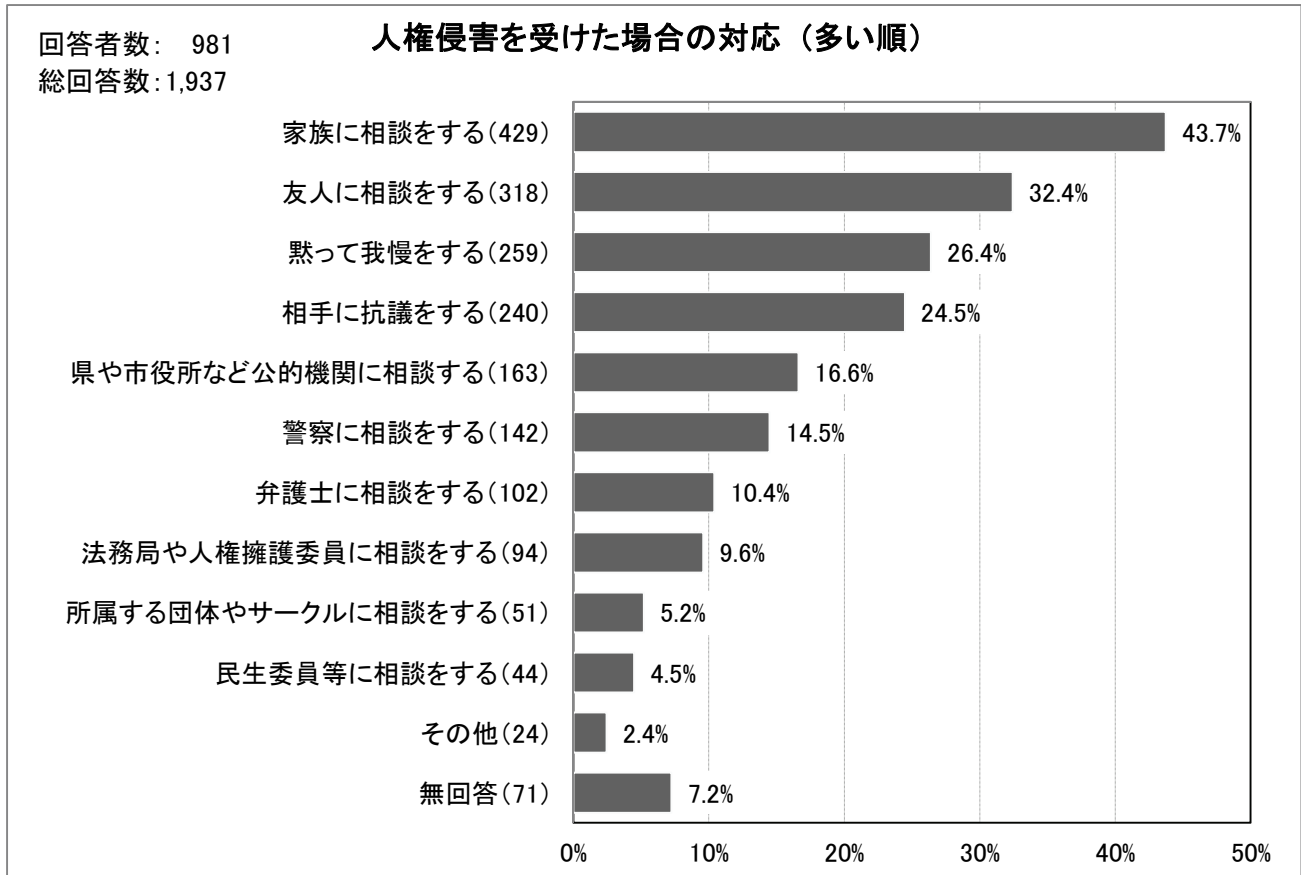
- ・職場で早くに結婚、妊娠したこと
- ・ホームレス時に
- ・子どもが障がい者
- ・会社での役職
- ・性格等
- ・会社内の仕事

2-4 人権侵害を受けた場合の対応

問8. もしも人権侵害を受けた場合、どのような対応をしますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体】

- ◆「家族に相談をする」が43.7%と最も多く、次いで「友人に相談をする」が32.4%、「黙って我慢をする」が26.4%の順となっている。



【性・年代別】

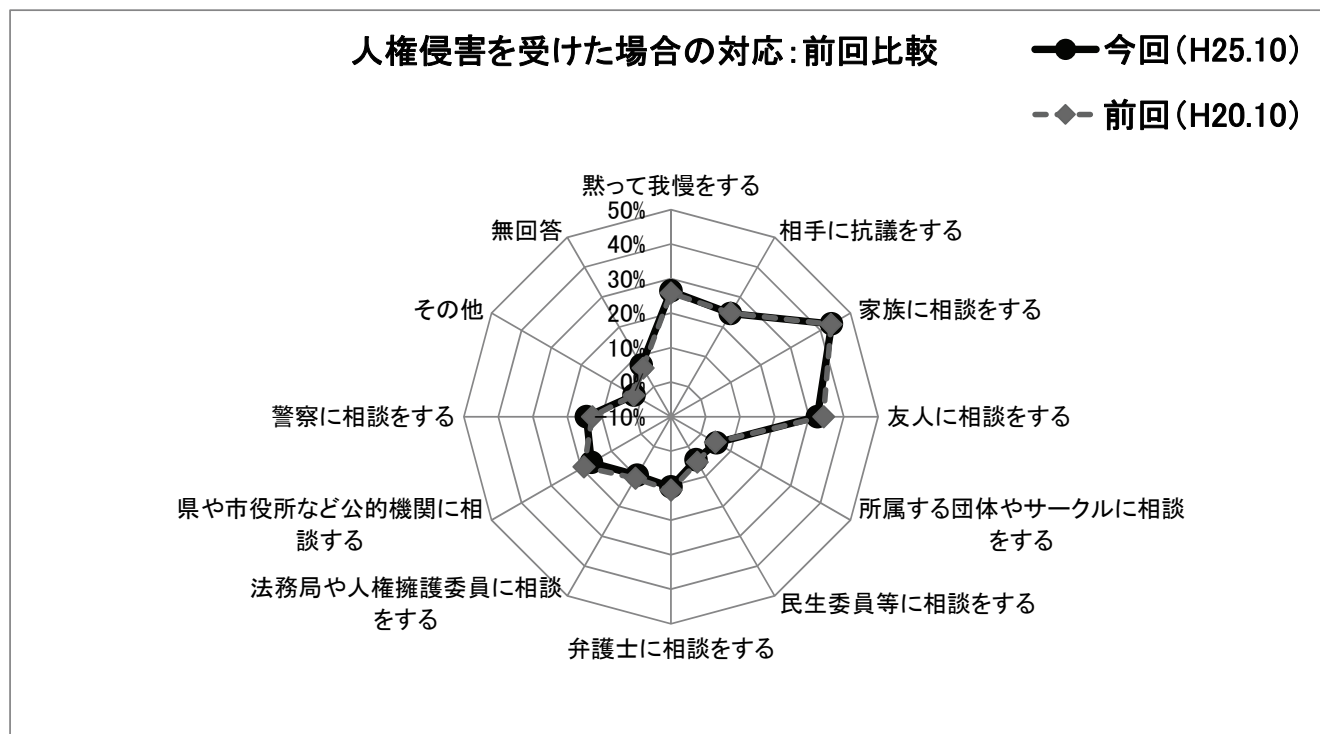
- ◆性別で見ると、男性では「相手に抗議をする」の割合が最も多く、女性では「家族に相談する」の割合がおおよそ6割を占め、最も多くなっている。次いで男性は「家族に相談する」、女性は「友人に相談する」の割合が多くなっている。
- ◆年代別で見ると、全年代で「家族に相談する」の割合が最も多い。次いで20～50歳代では「友人に相談する」の割合が多く、60歳代では「相手に抗議をする」、70歳以上では「県や市役所など公的機関に相談する」が多くなっている。

項目	区分	黙って我慢をする	相手に抗議をする	家族に相談をする	友人に相談をする	所属する団体やサークルに相談をする	民生委員等に相談をする	弁護士に相談をする	法務局や人権擁護委員に相談をする	的機関に相談する	警察に相談をする	その他	無回答	総回答
全体 (n=981)	回答数	259	240	429	318	51	44	102	94	163	142	24	71	1,937
	回答率	26.4%	24.5%	43.7%	32.4%	5.2%	4.5%	10.4%	9.6%	16.6%	14.5%	2.4%	7.2%	197.5%
男性 (n=420)	回答数	98	144	116	92	24	23	56	56	92	78	11	42	832
	回答率	23.3%	34.3%	27.6%	21.9%	5.7%	5.5%	13.3%	13.3%	21.9%	18.6%	2.6%	10.0%	198.1%
女性 (n=542)	回答数	155	90	308	222	27	20	45	38	70	63	13	25	1076
	回答率	28.6%	16.6%	56.8%	41.0%	5.0%	3.7%	8.3%	7.0%	12.9%	11.6%	2.4%	4.6%	198.5%
20歳代 (n=91)	回答数	34	22	60	46	5	2	3	3	8	12	2	1	198
	回答率	37.4%	24.2%	65.9%	50.5%	5.5%	2.2%	3.3%	3.3%	8.8%	13.2%	2.2%	1.1%	217.6%
30歳代 (n=137)	回答数	50	42	70	51	5	1	10	4	11	13	4	3	264
	回答率	36.5%	30.7%	51.1%	37.2%	3.6%	0.7%	7.3%	2.9%	8.0%	9.5%	2.9%	2.2%	192.7%
40歳代 (n=146)	回答数	42	34	64	63	9	3	14	10	15	17	3	5	279
	回答率	28.8%	23.3%	43.8%	43.2%	6.2%	2.1%	9.6%	6.8%	10.3%	11.6%	2.1%	3.4%	191.1%
50歳代 (n=168)	回答数	51	43	67	57	10	3	23	17	22	17	6	9	325
	回答率	30.4%	25.6%	39.9%	33.9%	6.0%	1.8%	13.7%	10.1%	13.1%	10.1%	3.6%	5.4%	193.5%
60歳代 (n=228)	回答数	56	68	104	58	12	10	30	30	51	41	3	17	480
	回答率	24.6%	29.8%	45.6%	25.4%	5.3%	4.4%	13.2%	13.2%	22.4%	18.0%	1.3%	7.5%	210.5%
70歳以上 (n=205)	回答数	26	30	62	42	10	24	22	30	56	41	5	34	382
	回答率	12.7%	14.6%	30.2%	20.5%	4.9%	11.7%	10.7%	14.6%	27.3%	20.0%	2.4%	16.6%	186.3%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「警察に相談をする」が1.7%、「黙って我慢をする」が0.6%増加している。

減少項目では、「県や市役所など公的機関に相談する」が2.5%、「友人に相談をする」が1.8%減少している。

項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
警察に相談をする	14.5%	12.8%	1.7%
黙って我慢をする	26.4%	25.8%	0.6%
所属する団体やサークルに相談をする	5.2%	4.8%	0.4%
家族に相談をする	43.7%	43.5%	0.2%
相手に抗議をする	24.5%	24.6%	-0.1%
民生委員等に相談をする	4.5%	5.2%	-0.7%
弁護士に相談をする	10.4%	11.3%	-0.9%
法務局や人権擁護委員に相談をする	9.6%	10.6%	-1.0%
友人に相談をする	32.4%	34.2%	-1.8%
県や市役所など公的機関に相談する	16.6%	19.1%	-2.5%
その他	2.4%	2.5%	-0.1%
無回答	7.2%	6.2%	1.0%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・ 侵害を受けた内容によって相談相手を考える
- ・ その内容の話題にならないように会話を操作する(差別を受けた後)
- ・ 精神科などの医療機関に相談
- ・ 労働組合に相談
- ・ 自分で対応します
- ・ 相談しても無駄 等

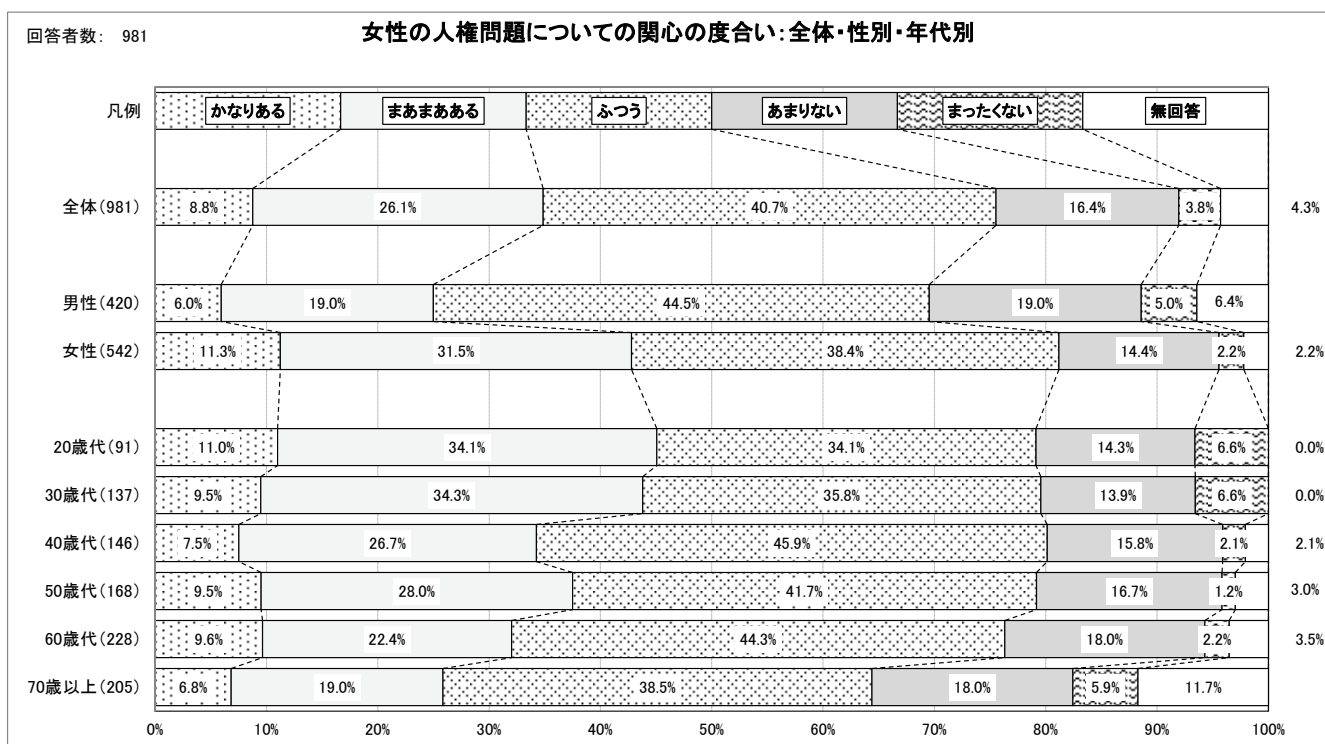
3 女性の人権について

3-1 女性の人権問題についての関心の度合い

問9. 女性の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体】

- ◆全体では、「ふつう」と回答した人が40.7%と最も多く、次いで「まあまあある」が26.1%、「あまりない」が16.4%となっている。



【前回との差】

- ◆前回との差をみると、「ふつう」が4.3%減少し、「まあまあある」が2.3%増加している。

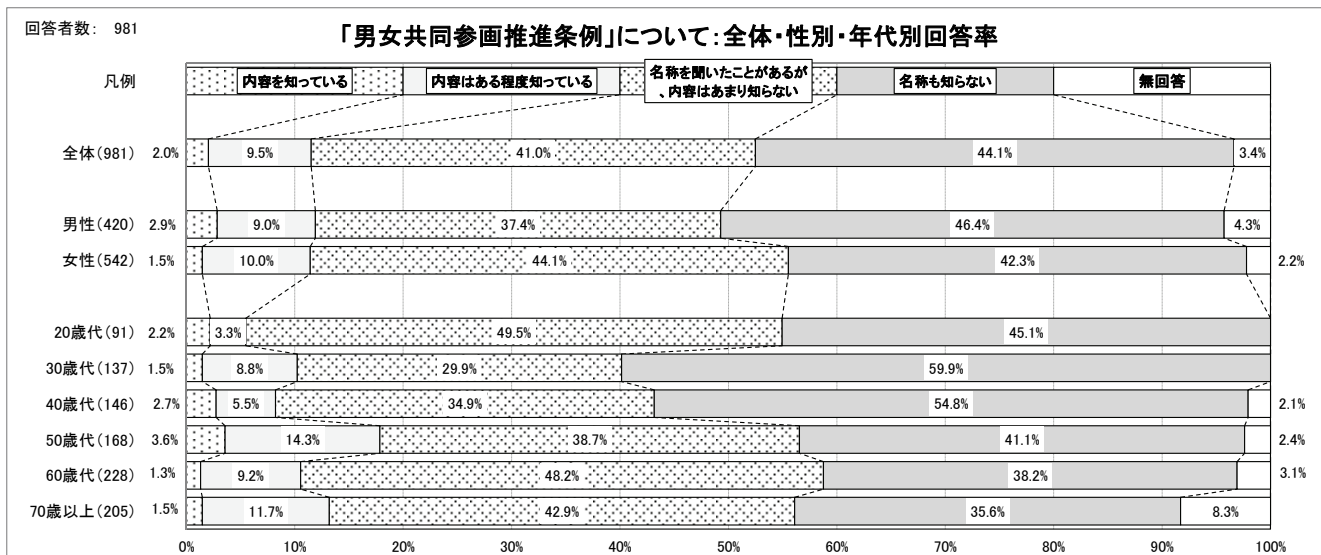
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	8.8%	8.2%	0.6%
2	まあまあある	26.1%	23.8%	2.3%
3	ふつう	40.7%	45.0%	-4.3%
4	あまりない	16.4%	16.5%	-0.1%
5	まったくない	3.8%	3.4%	0.4%
6	無回答	4.3%	3.1%	1.2%

3-2 「男女共同参画推進条例」について

問10. あなたは、多治見市が「男女共同参画推進条例」を制定していることを知っていますか。
(〇は1つ)

【全体】

◆全体では、「名称も知らない」が44.1%、「名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が41.0%、「内容はある程度知っている」が9.5%の順となっている。



【前回との差】

◆前回との差をみると、「名称も知らない」が2.3%減少しているが、他項目には変化がない。

NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	内容を知っている	2.0%	1.4%	0.6%
2	内容はある程度知っている	9.5%	8.6%	0.9%
3	名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない	41.0%	41.8%	-0.8%
4	名称も知らない	44.1%	46.4%	-2.3%
5	無回答	3.4%	1.9%	1.5%

【問9（女性の人権問題への関心）とのクロス集計】

◆問9（女性の人権問題についての関心の度合い）と問10のクロス集計では、問9の「かなりある」、「まあまあある」、「ふつう」では問10の「名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が最も多く、問9の「あまりない」、「まったくない」では問10の「名称も知らない」が最も多くなっている。
（女性の人権問題についての関心の度合い）と「男女共同参画推進条例」の認知度には、かなりの相関があることが見える。

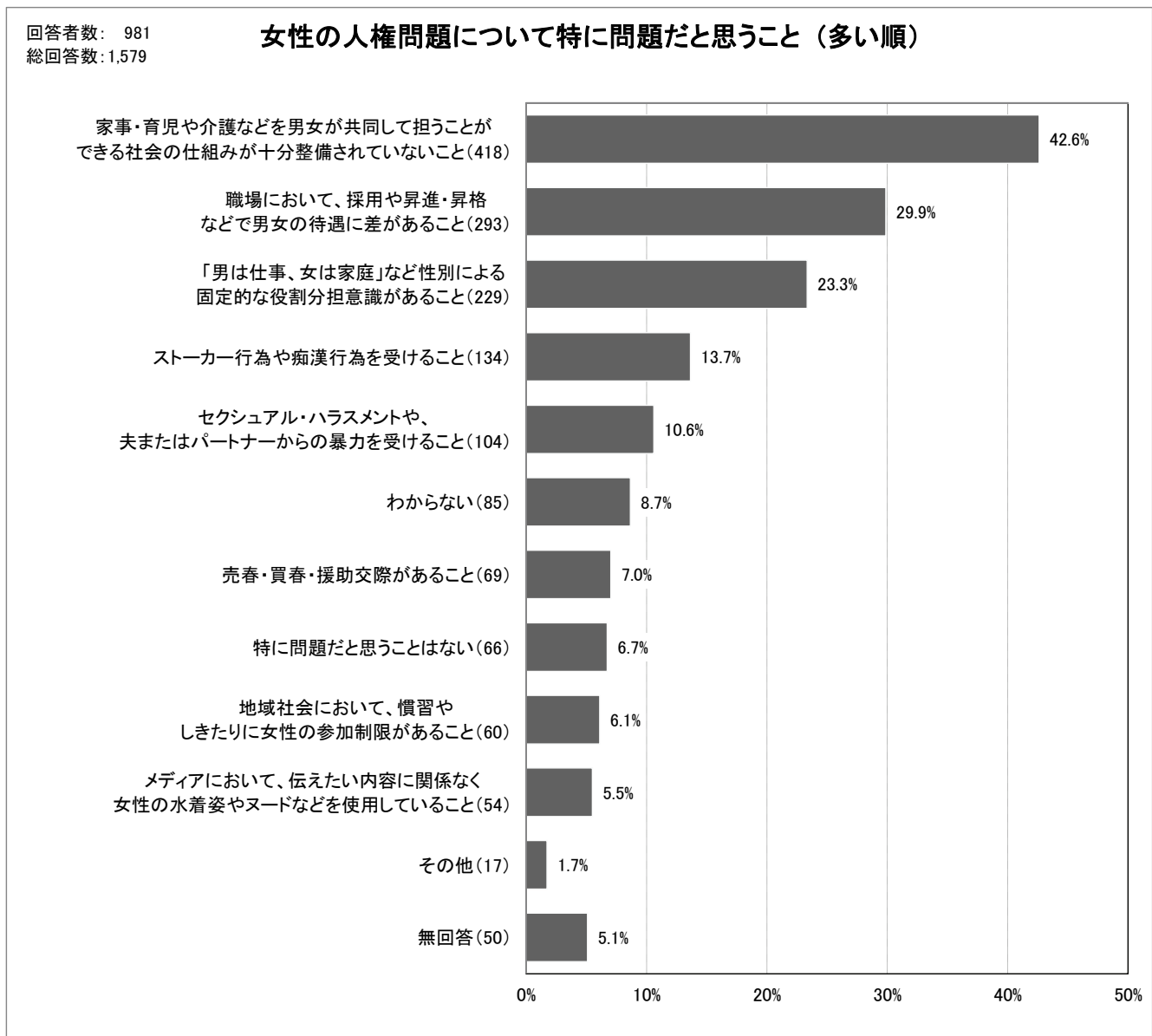
		問10「男女共同参画条例」の認知度				
		内容を知っている	内容はある程度知っている	名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない	名称も知らない	無回答
問9 関心の度合い	かなりある	7.0%	20.9%	40.7%	29.1%	2.3%
	まあまあある	1.6%	14.8%	49.2%	34.4%	0.0%
	ふつう	1.3%	7.5%	45.6%	45.4%	0.3%
	あまりない	1.2%	2.5%	28.6%	67.7%	0.0%
	まったくない	8.1%	5.4%	18.9%	67.6%	0.0%

3-3 女性の人権問題について特に問題だと思うこと

問11. 女性の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(〇は2つまで)

【全体】

◆全体では、「家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」が42.6%と最も多く、次いで「職場において、採用や昇進・昇格などで男女の待遇に差があること」が29.9%、「男は仕事、女は家庭」など性別による固定的な役割分担意識があること」が23.3%となっている。



【性・年代別】

◆性別で見ると、男女ともに「家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」が最も多く、次いで「職場において、採用や昇進・昇格などで男女の待遇に差があること」となっている。性別による大きな特性はあまり見られないが、「家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」においては、女性の割合が男性の割合よりも15.3%多くなっている。

◆年代別においても、性別とほぼ同様の結果が見られるが、70歳以上で「わからない」の割合が多くなっている。

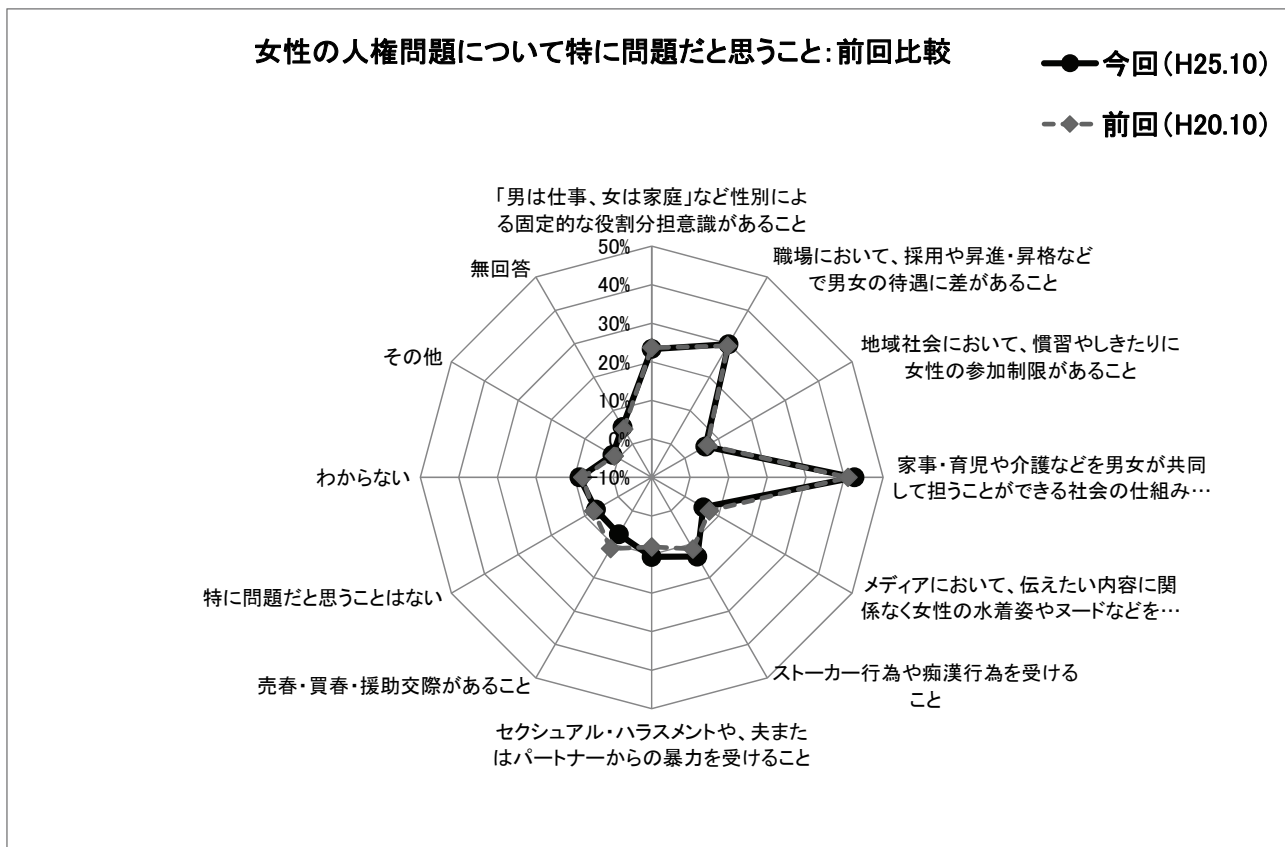
[上段：件、下段：%]

項目	区分	固	職	性	備	担	て	メ	ス	は	セ	売	特	わ	そ	無	総
		「男は仕事、女は家庭」など性別による一定的な役割、分担意識があること	場において、採用や昇進・昇格などで男女の待遇に差があること	域の参加制限があること、慣習やしきたりに女性	事・育児や介護などを男女が共同して担うことができないこと	家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができないこと	なく女性の水着姿やヌードなどを使用していること	トーカー行為や痴漢行為を受けること	パートナール・ハラスメントや、夫またはセクシュアルからの暴力を受けること	売春・買春・援助交際があること	特に問題だと思ふことはない	わからない	その他	無回答	総回答		
全体 (n=981)	回答数	229	293	60	418	54	134	104	69	66	85	17	50	1,579			
	回答率	23.3%	29.9%	6.1%	42.6%	5.5%	13.7%	10.6%	7.0%	6.7%	8.7%	1.7%	5.1%	161.0%			
男性 (n=420)	回答数	94	116	36	144	12	64	34	29	27	42	11	29	638			
	回答率	22.4%	27.6%	8.6%	34.3%	2.9%	15.2%	8.1%	6.9%	6.4%	10.0%	2.6%	6.9%	151.9%			
女性 (n=542)	回答数	131	172	23	269	39	70	68	40	37	40	6	18	913			
	回答率	24.2%	31.7%	4.2%	49.6%	7.2%	12.9%	12.5%	7.4%	6.8%	7.4%	1.1%	3.3%	168.5%			
20歳代 (n=91)	回答数	13	36	5	50	4	18	13	7	2	5	2	0	155			
	回答率	14.3%	39.6%	5.5%	54.9%	4.4%	19.8%	14.3%	7.7%	2.2%	5.5%	2.2%	0.0%	170.3%			
30歳代 (n=137)	回答数	37	53	5	76	6	15	16	6	4	6	3	1	228			
	回答率	27.0%	38.7%	3.6%	55.5%	4.4%	10.9%	11.7%	4.4%	2.9%	4.4%	2.2%	0.7%	166.4%			
40歳代 (n=146)	回答数	42	38	14	61	3	25	18	8	8	8	4	4	233			
	回答率	28.8%	26.0%	9.6%	41.8%	2.1%	17.1%	12.3%	5.5%	5.5%	5.5%	2.7%	2.7%	159.6%			
50歳代 (n=168)	回答数	42	51	7	73	7	19	23	18	15	9	4	5	273			
	回答率	25.0%	30.4%	4.2%	43.5%	4.2%	11.3%	13.7%	10.7%	8.9%	5.4%	2.4%	3.0%	162.5%			
60歳代 (n=228)	回答数	54	71	17	100	19	31	20	15	13	20	3	10	373			
	回答率	23.7%	31.1%	7.5%	43.9%	8.3%	13.6%	8.8%	6.6%	5.7%	8.8%	1.3%	4.4%	163.6%			
70歳以上 (n=205)	回答数	40	44	12	55	14	25	13	15	23	37	1	28	307			
	回答率	19.5%	21.5%	5.9%	26.8%	6.8%	12.2%	6.3%	7.3%	11.2%	18.0%	0.5%	13.7%	149.8%			

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が5項目となっている。

増加項目では、「セクシュアル・ハラスメントや、夫またはパートナーからの暴力を受けること」が2.6%、「ストーカー行為や痴漢行為を受けること」が2.3%、「家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」が1.7%増加している。

減少項目では、「売春・買春・援助交際があること」が4.3%、「メディアにおいて、伝えたい内容に関係なく女性の水着姿やヌードなどを使用していること」が1.8%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
セクシュアル・ハラスメントや、夫またはパートナーからの暴力を受けること	10.6%	8.0%	2.6%
ストーカー行為や痴漢行為を受けること	13.7%	11.4%	2.3%
家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと	42.6%	40.9%	1.7%
わからない	8.7%	7.9%	0.8%
職場において、採用や昇進・昇格などで男女の待遇に差があること	29.9%	29.4%	0.5%
「男は仕事、女は家庭」など性別による固定的な役割分担意識があること	23.3%	23.7%	-0.4%
地域社会において、慣習やしきたりに女性の参加制限があること	6.1%	6.7%	-0.6%
特に問題だと思うことはない	6.7%	7.4%	-0.7%
メディアにおいて、伝えたい内容に関係なく女性の水着姿やヌードなどを使用していること	5.5%	7.3%	-1.8%
売春・買春・援助交際があること	7.0%	11.3%	-4.3%
その他	1.7%	1.2%	0.5%
無回答	5.1%	4.5%	0.6%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

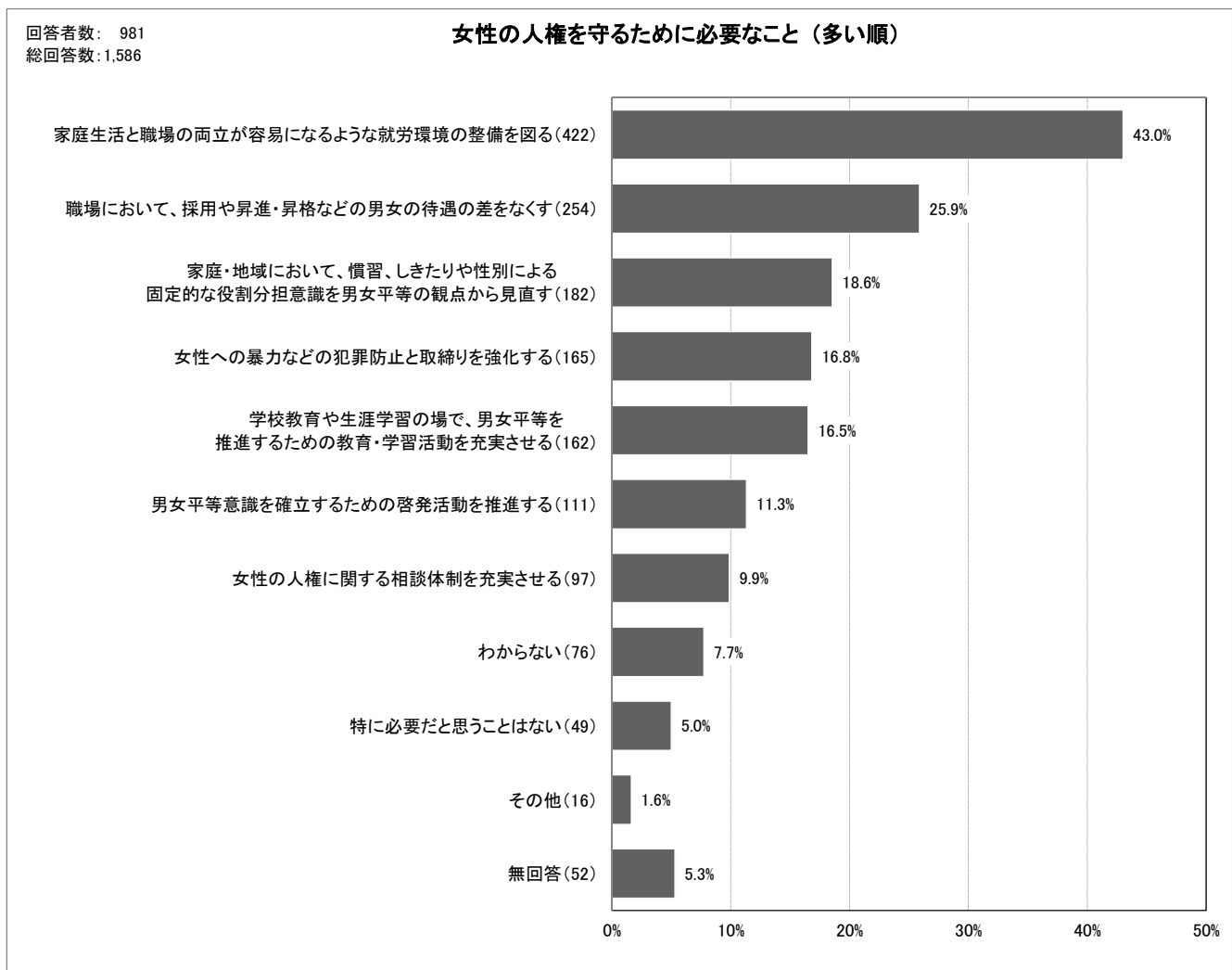
- ・女性の人権問題を特別取り上げる意味が分からない
- ・そもそも平等であると考えるため、差別する意味が分からない
- ・行き過ぎた権利運動であり、必要ない
- ・人権問題というよりも男性・女性のそれぞれの役割があると思う
- ・逆に女性の人権が強すぎることに
- ・都合のいい時だけ女性の人権をいう 等

3-4 女性の人権を守るために必要なこと

問12. 女性の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

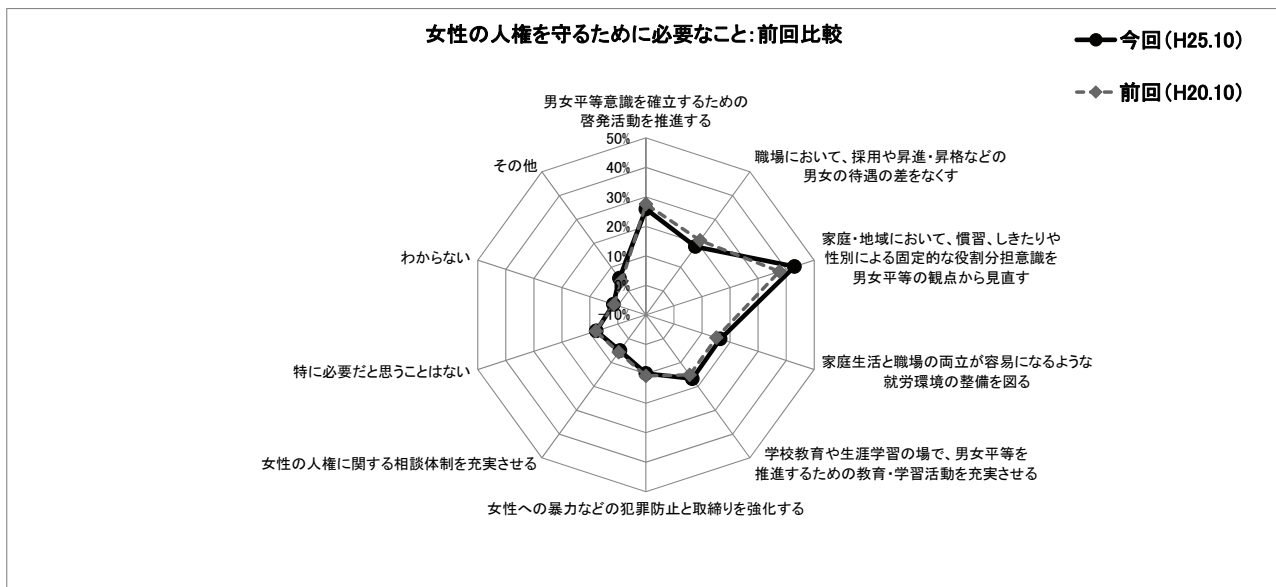
【全体】

◆全体では、「家庭生活と職場の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」が43.0%と最も多く、次いで「職場において、採用や昇進・昇格などの男女の待遇の差をなくす」が25.9%、「家庭・地域において、慣習、しきたりや性別による固定的な役割分担意識を男女平等の観点から見直す」が18.6%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「家庭生活と職場の両立が容易になるような就労環境の整備を図る」が5.4%、「女性への暴力などの犯罪防止と取締りを強化する」が1.6%、「学校教育や生涯学習の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる」が1.4%増加している。

減少項目では、「男女平等意識を確立するための啓発活動を推進する」が3.0%、「家庭・地域において、慣習、しきたりや性別による固定的な役割分担意識を男女平等の観点から見直す」が2.6%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
家庭生活と職場の両立が容易になるような就労環境の整備を図る	43.0%	37.6%	5.4%
女性への暴力などの犯罪防止と取締りを強化する	16.8%	15.2%	1.6%
学校教育や生涯学習の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる	16.5%	15.1%	1.4%
わからない	7.7%	7.9%	-0.2%
特に必要だと思うことはない	5.0%	5.7%	-0.7%
女性の人権に関する相談体制を充実させる	9.9%	10.7%	-0.8%
職場において、採用や昇進・昇格などの男女の待遇の差をなくす	25.9%	27.6%	-1.7%
家庭・地域において、慣習、しきたりや性別による固定的な役割分担意識を男女平等の観点から見直す	18.6%	21.2%	-2.6%
男女平等意識を確立するための啓発活動を推進する	11.3%	14.3%	-3.0%
その他	1.6%	1.4%	0.2%
無回答	5.3%	4.1%	1.2%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・男女平等でも、男子は男子、女子は女子の役割を守ることがいい
- ・産後、社会復帰しやすい環境
- ・女性も女性であることを利用しない
- ・体力的な違い、性別による違い等を考慮して女性・人材を守るべきだと思う 等

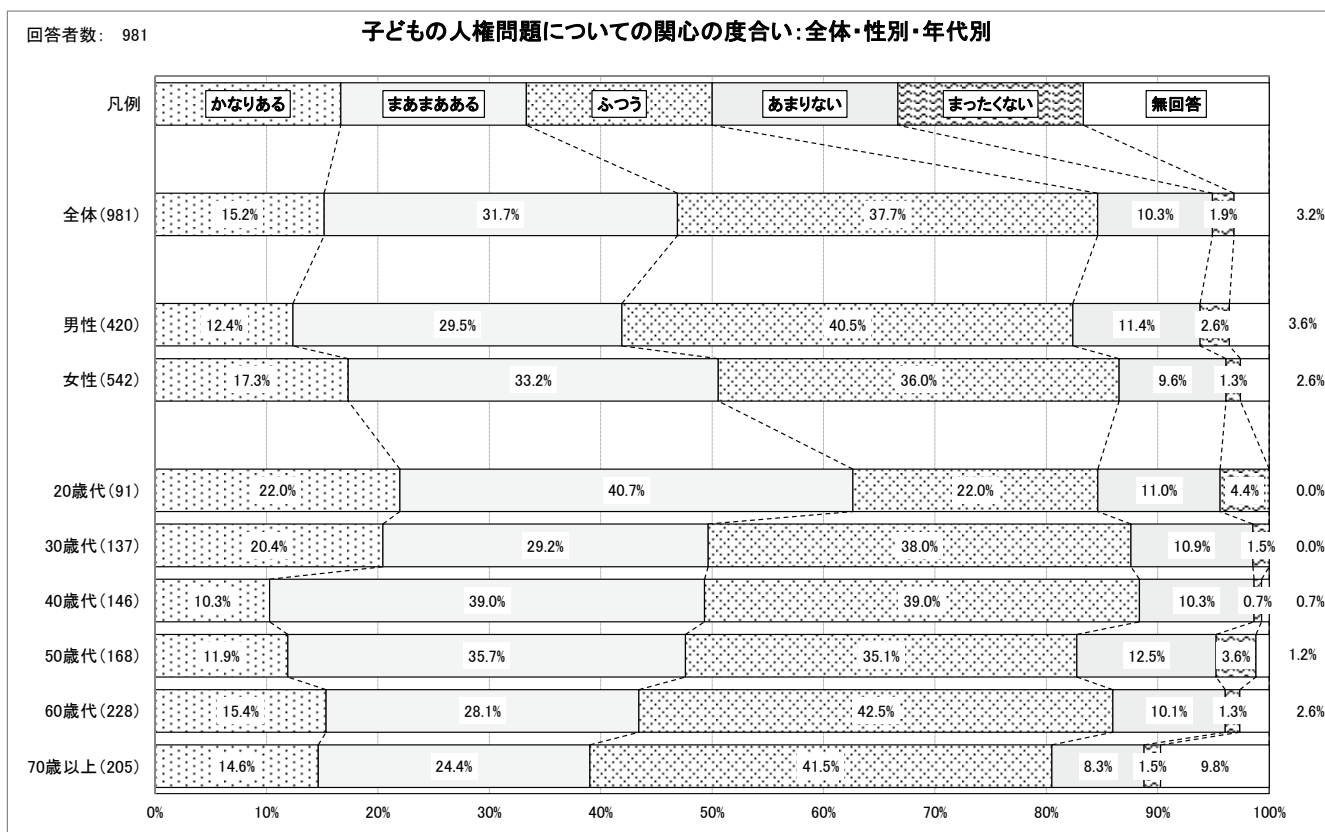
4 子どもの人権について

4-1 子どもの人権問題についての関心の度合い

問13. 子どもの人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

- ◆全体、性別では「ふつう」が最も多く、年代別では20、40、50歳代で「まあまあある」が最も多くなっている。



【前回との差】

- ◆前回との差をみると、「かなりある」、「ふつう」が1.9%減少し、「まあまあある」が1.5%増加しているが、大きな変化はない。

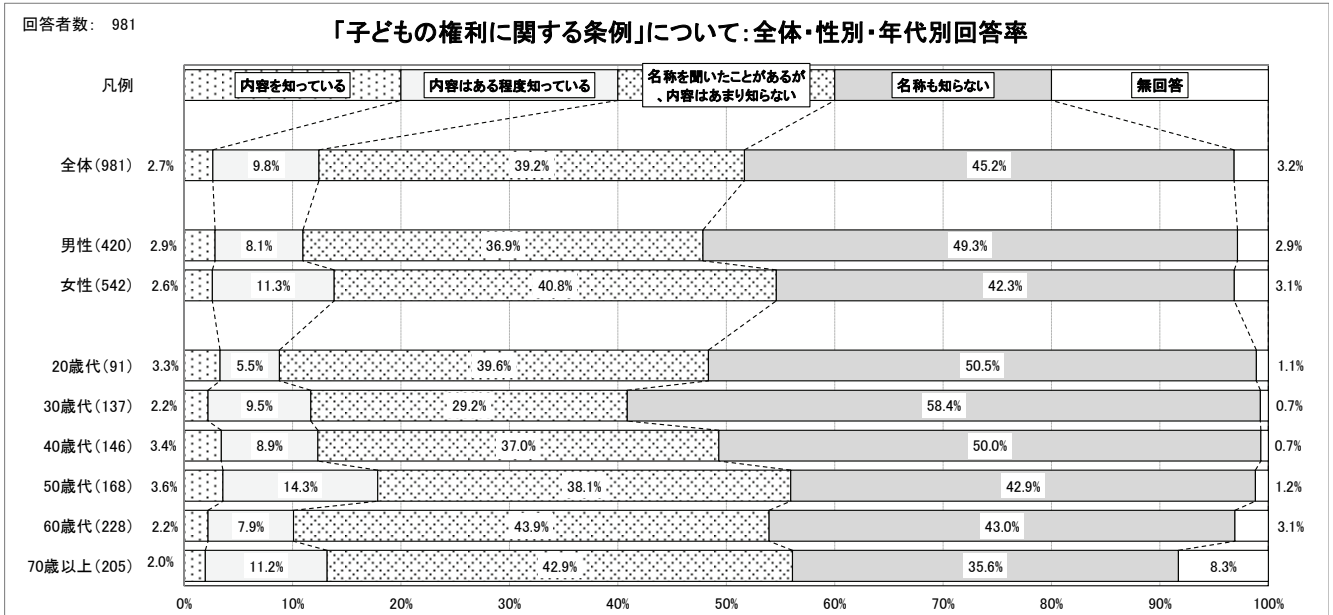
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	15.2%	17.1%	-1.9%
2	まあまあある	31.7%	30.2%	1.5%
3	ふつう	37.7%	39.6%	-1.9%
4	あまりない	10.3%	9.2%	1.1%
5	まったくない	1.9%	1.6%	0.3%
6	無回答	3.2%	2.3%	0.9%

4-2 「子どもの権利に関する条例」について

問14. あなたは、多治見市が「子どもの権利に関する条例」を制定していることを知っていますか。
(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

◆全体では、「名称も知らない」が45.2%、「名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が39.2%、「内容はある程度知っている」が9.8%の順となっている。



【前回との差】

◆前回との差をみると、「名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が2.3%減少し、「内容を知らない」が1.1%増加しているが、大きな変化はない。

NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	内容を知らない	2.7%	1.6%	1.1%
2	内容はある程度知っている	9.8%	10.1%	-0.3%
3	名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない	39.2%	41.5%	-2.3%
4	名称も知らない	45.2%	44.5%	0.7%
5	無回答	3.2%	2.4%	0.8%

【問13 (子どもの人権問題への関心) とのクロス集計】

◆問13 (子どもの人権問題についての関心の度合い) と問14 (「子どもの権利に関する条例」の認知度) のクロス集計をみると、かなり強い相関が見られる。

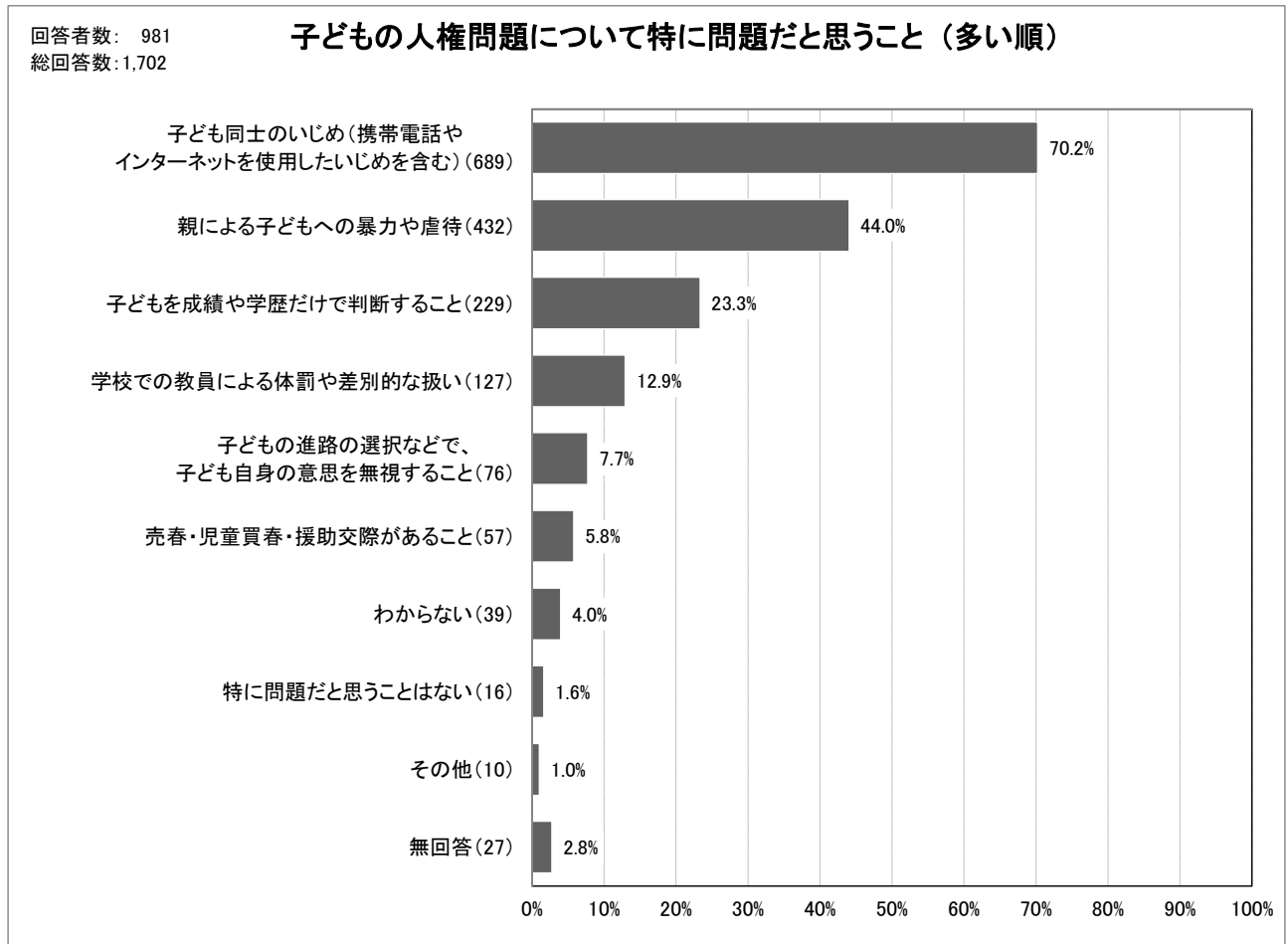
		問14 「子どもの権利に関する条例」の認知度				
		内容を知らない	内容はある程度知っている	名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない	名称も知らない	無回答
問13 関心の 度合い	かなりある	7.4%	21.5%	35.6%	32.2%	3.4%
	まあまあある	2.6%	15.4%	45.0%	37.0%	0.0%
	ふつう	1.6%	4.1%	43.2%	49.5%	1.6%
	あまりない	0.0%	0.0%	24.8%	75.2%	0.0%
	まったくない	0.0%	5.3%	10.5%	84.2%	0.0%

4-3 子どもの人権問題について特に問題だと思うこと

問15. 子どもの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(〇は2つまで)

【全体】

◆全体では、「子ども同士のいじめ（携帯電話やインターネットを使用したいじめを含む）」が70.2%と最も多く、次いで「親による子どもへの暴力や虐待」が44.0%、「子どもを成績や学歴だけで判断すること」が23.3%となっている。



【性・年代別】

◆性別で見ると、男女ともに「子ども同士のいじめ(携帯電話やインターネットを使用したいじめを含む)」が最も多く、次いで「親による子どもへの暴力や虐待」となっている。性別による大きな特性はあまり見られないが、「親による子どもへの暴力や虐待」においては、女性の割合が男性の割合よりも5.8%多くなっている。

◆年代別においても、性別とほぼ同様の結果がみられる。

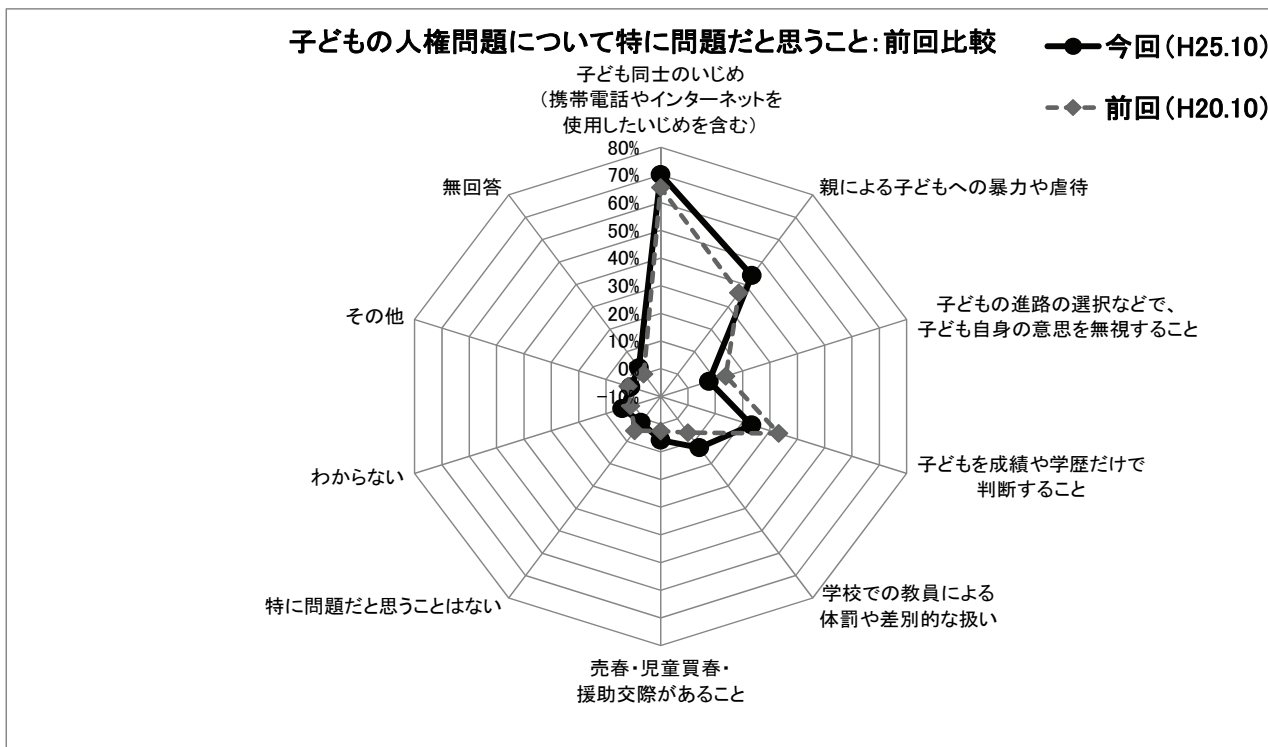
[上段：件、下段：%]

項目	区分	子ども同士のいじめ(携帯電話やインターネットを使用したいじめを含む)	親による子どもへの暴力や虐待	子どもの進路の選択などで、子ども自身の意思を無視すること	子どもを成績や学歴だけで判断すること	学校での教員による体罰や差別的な扱い	売春・児童買春・援助交際があること	特に問題だと思わないこと	わからない	その他	無回答	総回答
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数
全体 (n=981)	回答数	689	432	76	229	127	57	16	39	10	27	1,702
	回答率	70.2%	44.0%	7.7%	23.3%	12.9%	5.8%	1.6%	4.0%	1.0%	2.8%	173.5%
男性 (n=420)	回答数	289	173	37	87	59	21	8	17	5	13	709
	回答率	68.8%	41.2%	8.8%	20.7%	14.0%	5.0%	1.9%	4.0%	1.2%	3.1%	168.8%
女性 (n=542)	回答数	391	255	38	134	66	35	7	21	5	12	964
	回答率	72.1%	47.0%	7.0%	24.7%	12.2%	6.5%	1.3%	3.9%	0.9%	2.2%	177.9%
20歳代 (n=91)	回答数	71	48	10	16	14	5	2	1	0	0	167
	回答率	78.0%	52.7%	11.0%	17.6%	15.4%	5.5%	2.2%	1.1%	0.0%	0.0%	183.5%
30歳代 (n=137)	回答数	109	66	11	23	16	5	1	4	3	1	239
	回答率	79.6%	48.2%	8.0%	16.8%	11.7%	3.6%	0.7%	2.9%	2.2%	0.7%	174.5%
40歳代 (n=146)	回答数	109	69	11	23	17	6	3	6	4	1	249
	回答率	74.7%	47.3%	7.5%	15.8%	11.6%	4.1%	2.1%	4.1%	2.7%	0.7%	170.5%
50歳代 (n=168)	回答数	124	87	9	37	25	8	2	5	1	0	298
	回答率	73.8%	51.8%	5.4%	22.0%	14.9%	4.8%	1.2%	3.0%	0.6%	0.0%	177.4%
60歳代 (n=228)	回答数	167	88	14	65	33	14	1	7	2	7	398
	回答率	73.2%	38.6%	6.1%	28.5%	14.5%	6.1%	0.4%	3.1%	0.9%	3.1%	174.6%
70歳以上 (n=205)	回答数	106	70	21	64	22	19	7	16	0	16	341
	回答率	51.7%	34.1%	10.2%	31.2%	10.7%	9.3%	3.4%	7.8%	0.0%	7.8%	166.3%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が3項目となっている。

増加項目では、「親による子どもへの暴力や虐待」が7.7%、「学校での教員による体罰や差別的な扱い」が6.7%増加している。

減少項目では、「子どもを成績や学歴だけで判断すること」が9.9%、「子どもの進路の選択などで、子ども自身の意思を無視すること」が6.1%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
親による子どもへの暴力や虐待	44.0%	36.3%	7.7%
学校での教員による体罰や差別的な扱い	12.9%	6.2%	6.7%
子ども同士のいじめ (携帯電話やインターネットを使用したいじめを含む)	70.2%	65.5%	4.7%
売春・児童買春・援助交際があること	5.8%	2.5%	3.3%
わからない	4.0%	1.0%	3.0%
特に問題だと思うことはない	1.6%	5.3%	-3.7%
子どもの進路の選択などで、子ども自身の意思を無視すること	7.7%	13.8%	-6.1%
子どもを成績や学歴だけで判断すること	23.3%	33.2%	-9.9%
その他	1.0%	1.9%	-0.9%
無回答	2.8%	0.0%	2.8%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

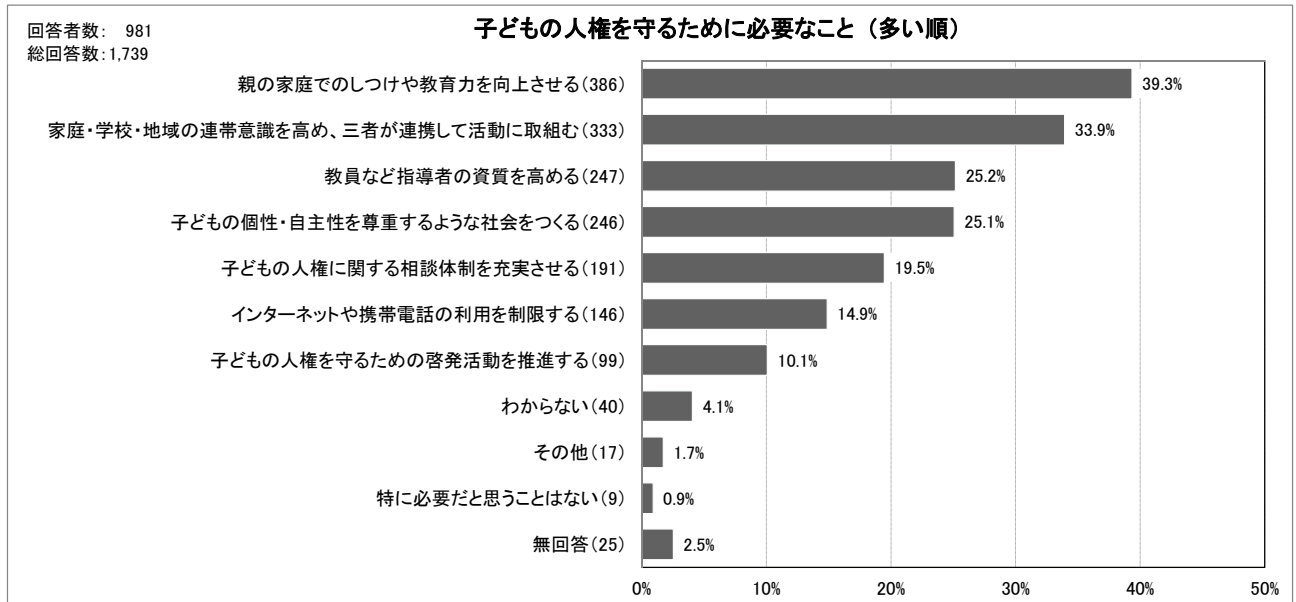
- ・障がい児の環境が整っていない
- ・家庭の収入の差により教育に格差が生じること
- ・公立の幼稚園・小学校・中学校・高校、私立の幼稚園・小学校・中学校・高校との教育面や資金面での格差
- ・教員の指導が不足 ・大人による子どもへの暴力虐待 ・親の意識改革 等

4-4 子どもの人権を守るために必要なこと

問16. 子どもの人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

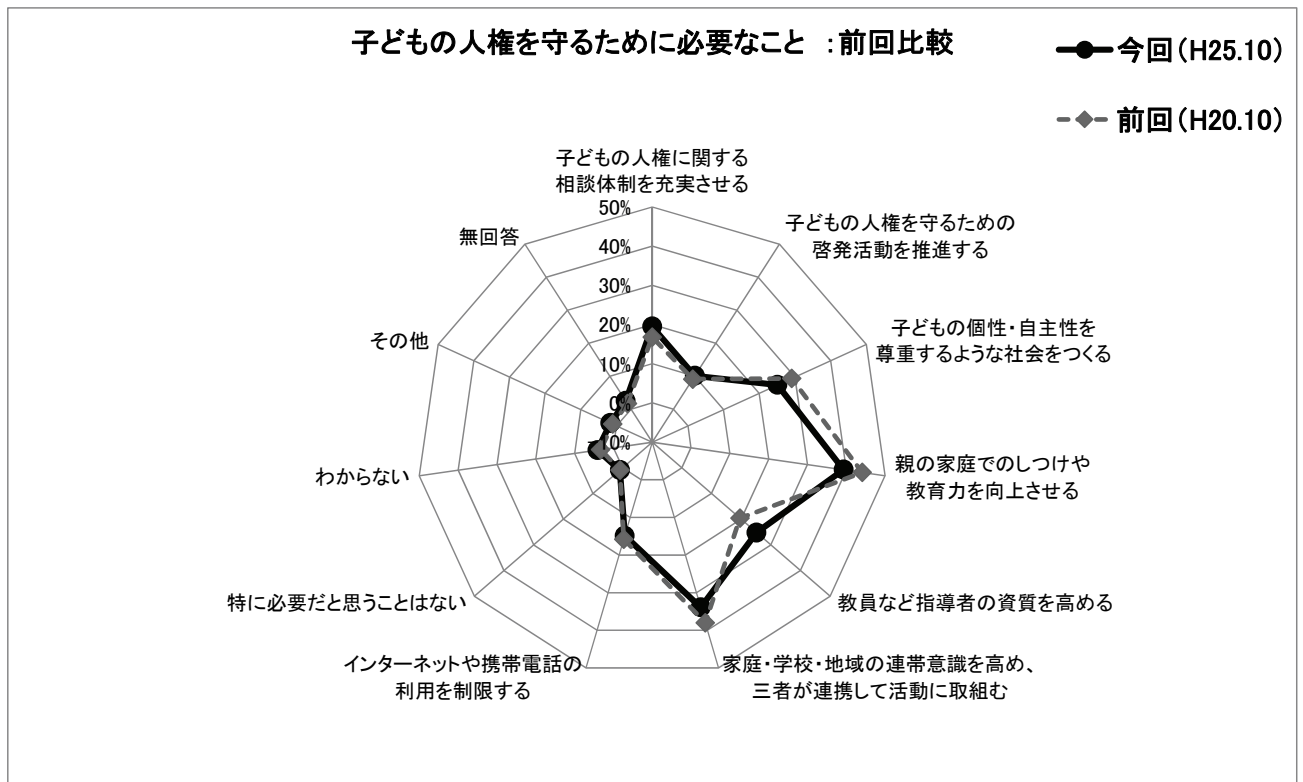
【全体】

- ◆「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」が39.3%と最も多く、次いで「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、三者が連携して活動に取り組む」が33.9%、「教員など指導者の資質を高める」が25.2%となっている。



【前回との比較】

- ◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が4項目となっている。

増加項目では、「教員など指導者の資質を高める」が5.6%、「子どもの人権に関する相談体制を充実させる」が2.7%、「子どもの人権を守るための啓発活動を推進する」が1.0%増加している。

減少項目では、「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」が4.8%、「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、三者が連携して活動に取り組む」が4.1%、「子どもの個性・自主性を尊重するような社会をつくる」が4.0%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
教員など指導者の資質を高める	25.2%	19.6%	5.6%
子どもの人権に関する相談体制を充実させる	19.5%	16.8%	2.7%
子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	10.1%	9.1%	1.0%
わからない	4.1%	3.3%	0.8%
特に必要だと思わない	0.9%	0.9%	0.0%
インターネットや携帯電話の利用を制限する	14.9%	15.8%	-0.9%
子どもの個性・自主性を尊重するような社会をつくる	25.1%	29.1%	-4.0%
家庭・学校・地域の連帯意識を高め、三者が連携して活動に取り組む	33.9%	38.0%	-4.1%
親の家庭でのしつけや教育力を向上させる	39.3%	44.1%	-4.8%
その他	1.7%	1.1%	0.6%
無回答	2.5%	1.7%	0.8%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・親に対しても教育、啓発活動をする
- ・親が相手と戦うこと
- ・虐待された子どもが親になり、その子どもを虐待する負の連鎖を断ち切る社会を作る
- ・子どもたちに道徳心を学べる環境づくり
- ・一校に一人専門家を置く 等

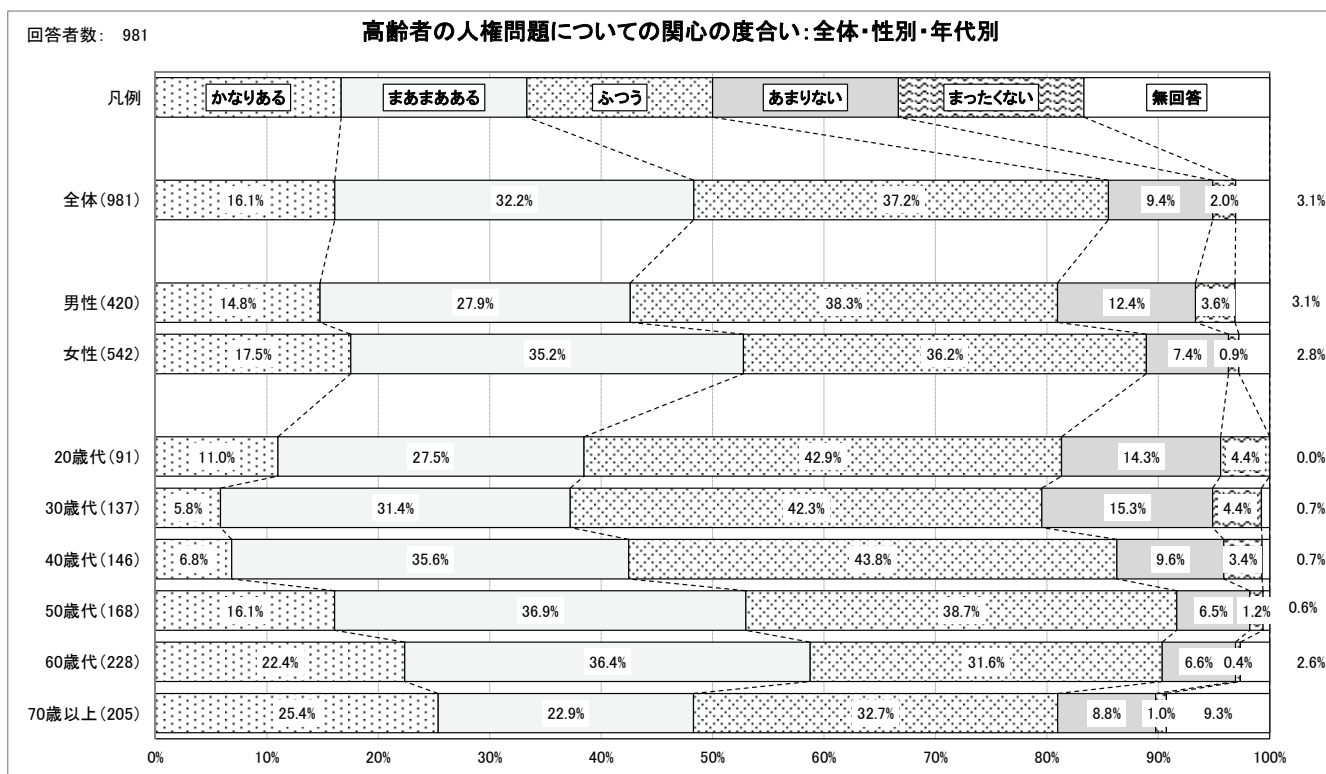
5 高齢者の人権について

5-1 高齢者の人権問題についての関心の度合い

問17. 高齢者の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

- ◆全体、性別、年代別では、60歳代を除き「ふつう」が最も多く、60歳代で「まあまあある」が最も多くなっている。



【前回との差】

- ◆前回との差をみると、「かなりある」が5.7%、「ふつう」が0.3%減少し、「まあまあある」が2.6%増加しているが、大きな変化はない。

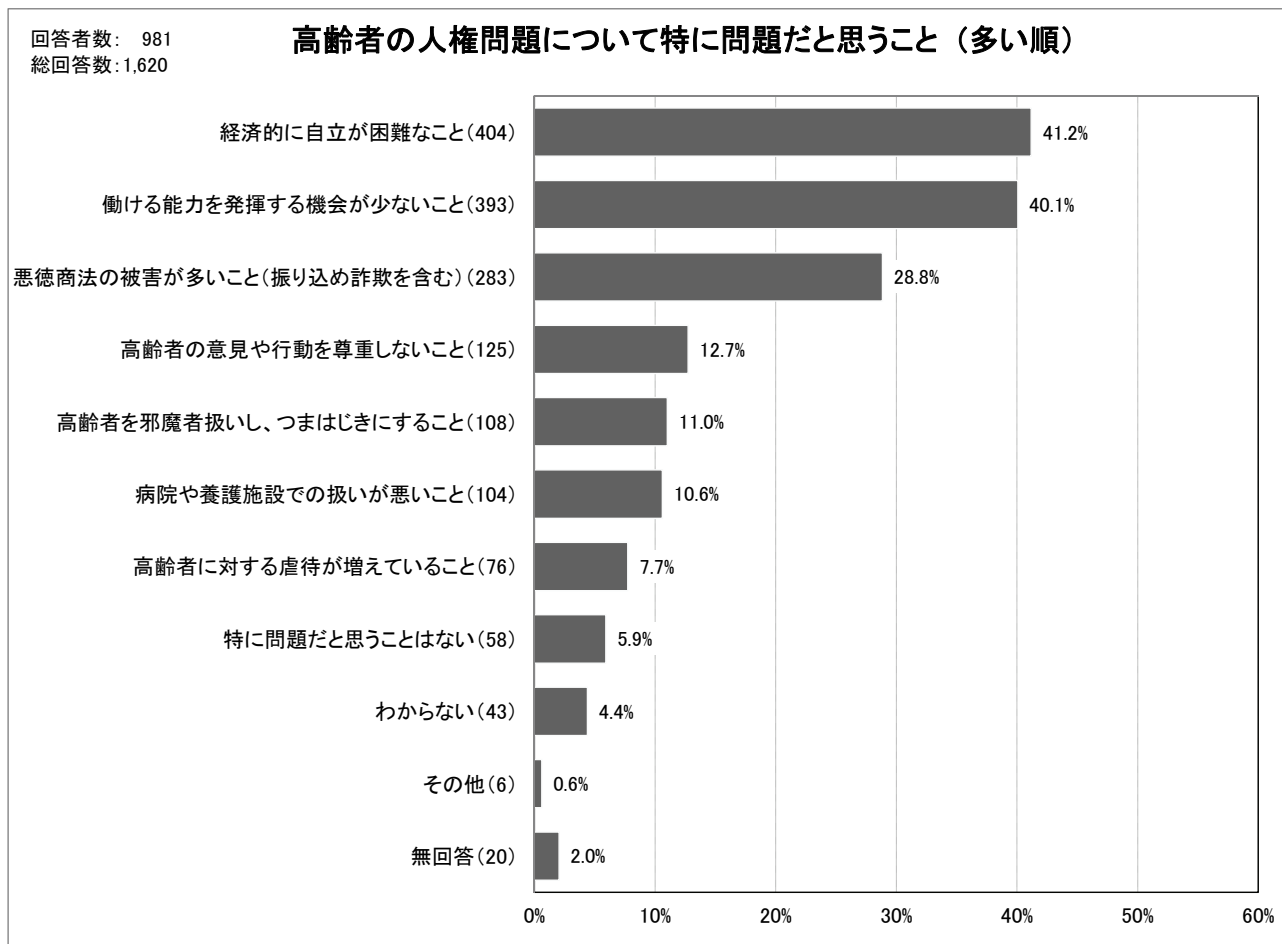
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	16.1%	21.8%	-5.7%
2	まあまあある	32.2%	29.6%	2.6%
3	ふつう	37.2%	37.5%	-0.3%
4	あまりない	9.4%	7.6%	1.8%
5	まったくない	2.0%	1.3%	0.7%
6	無回答	3.1%	2.1%	1.0%

5-2 高齢者の人権問題について特に問題だと思うこと

問18. 高齢者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

【全体】

- ◆全体では、「経済的に自立が困難なこと」が41.2%と最も多く、次いで「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」が40.1%、「悪徳商法の被害が多いこと（振り込め詐欺を含む）」が28.8%となっている。



【性・年代別】

- ◆性別で見ると、男性は「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」、女性は「経済的に自立が困難なこと」が最も多くなっている。

「高齢者を邪魔者扱い、つまはじきにすること」では、男性が3.3%高く、「経済的に自立が困難なこと」では、女性が5.2%高くなっている。

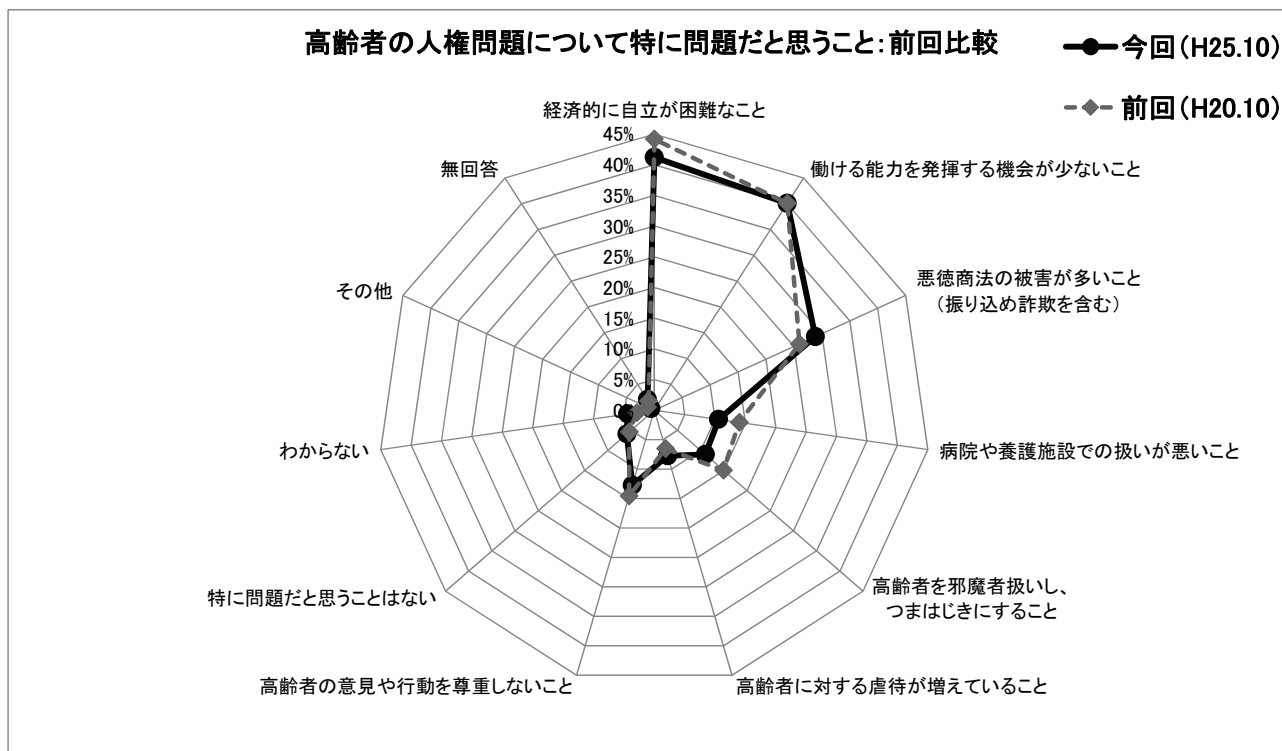
- ◆年代別にみると、20歳代では「悪徳商法の被害が多いこと（振り込め詐欺を含む）」、30・50・60歳代では「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」、40歳代及び70歳以上では「経済的に自立が困難なこと」が最も多くなっている。

項目	区分	と経済的に自立が困難なこと	働ける能力を發揮する機会が少ないこと	悪徳商法の被害が多いこと（振り込め詐欺を含む）	病院や養護施設での扱いが悪いこと	高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにする	高齢者に対する虐待が増えていること	高齢者の意見や行動を尊重しないこと	特に問題だと思うことはない	わからない	その他	無回答	総回答
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
全体 (n=981)	回答数	404	393	283	104	108	76	125	58	43	6	20	1,620
	回答率	41.2%	40.1%	28.8%	10.6%	11.0%	7.7%	12.7%	5.9%	4.4%	0.6%	2.0%	165.1%
男性 (n=420)	回答数	161	168	115	36	55	29	48	36	17	3	7	675
	回答率	38.3%	40.0%	27.4%	8.6%	13.1%	6.9%	11.4%	8.6%	4.0%	0.7%	1.7%	160.7%
女性 (n=542)	回答数	236	219	163	67	53	47	74	20	25	3	11	918
	回答率	43.5%	40.4%	30.1%	12.4%	9.8%	8.7%	13.7%	3.7%	4.6%	0.6%	2.0%	169.4%
20歳代 (n=91)	回答数	29	31	32	8	16	13	11	2	6	1	0	149
	回答率	31.9%	34.1%	35.2%	8.8%	17.6%	14.3%	12.1%	2.2%	6.6%	1.1%	0.0%	163.7%
30歳代 (n=137)	回答数	50	56	46	15	21	14	9	9	6	1	0	227
	回答率	36.5%	40.9%	33.6%	10.9%	15.3%	10.2%	6.6%	6.6%	4.4%	0.7%	0.0%	165.7%
40歳代 (n=146)	回答数	63	61	47	20	15	8	11	5	7	0	2	239
	回答率	43.2%	41.8%	32.2%	13.7%	10.3%	5.5%	7.5%	3.4%	4.8%	0.0%	1.4%	163.7%
50歳代 (n=168)	回答数	75	83	44	24	12	15	20	8	4	1	0	286
	回答率	44.6%	49.4%	26.2%	14.3%	7.1%	8.9%	11.9%	4.8%	2.4%	0.6%	0.0%	170.2%
60歳代 (n=228)	回答数	108	112	51	25	25	15	34	7	8	2	3	390
	回答率	47.4%	49.1%	22.4%	11.0%	11.0%	6.6%	14.9%	3.1%	3.5%	0.9%	1.3%	171.1%
70歳以上 (n=205)	回答数	78	48	62	12	19	9	39	27	12	1	13	320
	回答率	38.0%	23.4%	30.2%	5.9%	9.3%	4.4%	19.0%	13.2%	5.9%	0.5%	6.3%	156.1%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が4項目となっている。

増加項目では、「悪徳商法の被害が多いこと（振り込め詐欺を含む）」が2.8%、「わからない」が1.5%増加している。

減少項目では、「高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること」が3.9%、「病院や養護施設での扱いが悪いこと」が3.4%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
悪徳商法の被害が多いこと（振り込め詐欺を含む）	28.8%	26.0%	2.8%
わからない	4.4%	2.9%	1.5%
高齢者に対する虐待が増えていること	7.7%	6.5%	1.2%
特に問題だと思わないこと	5.9%	5.4%	0.5%
働ける能力を発揮する機会が少ないこと	40.1%	40.1%	0.0%
高齢者の意見や行動を尊重しないこと	12.7%	14.5%	-1.8%
経済的に自立が困難なこと	41.2%	44.2%	-3.0%
病院や養護施設での扱いが悪いこと	10.6%	14.0%	-3.4%
高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること	11.0%	14.9%	-3.9%
その他	0.6%	1.2%	-0.6%
無回答	2.0%	1.8%	0.2%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

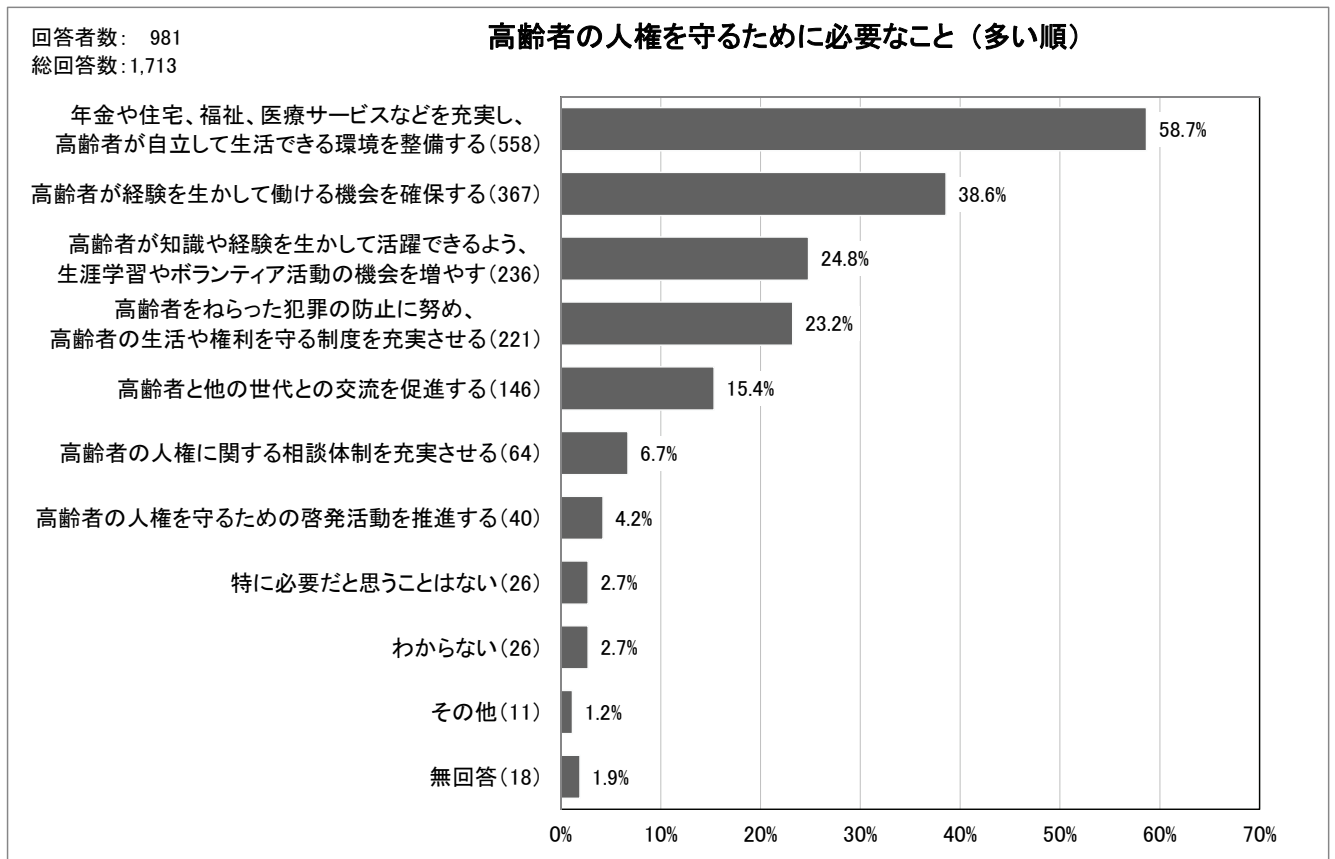
- ・病院に入院しても3ヶ月で他に転院しなければいけないこと
- ・福祉体制が充実していない
- ・高齢者自身が自らの老いによる身体・精神的変化を自覚したり、認めることが出来ておらず、それが原因で周囲とのいさかいが生じる
- ・高齢者自身に問題がある 等

5-3 高齢者の人権を守るために必要なこと

問19. 高齢者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

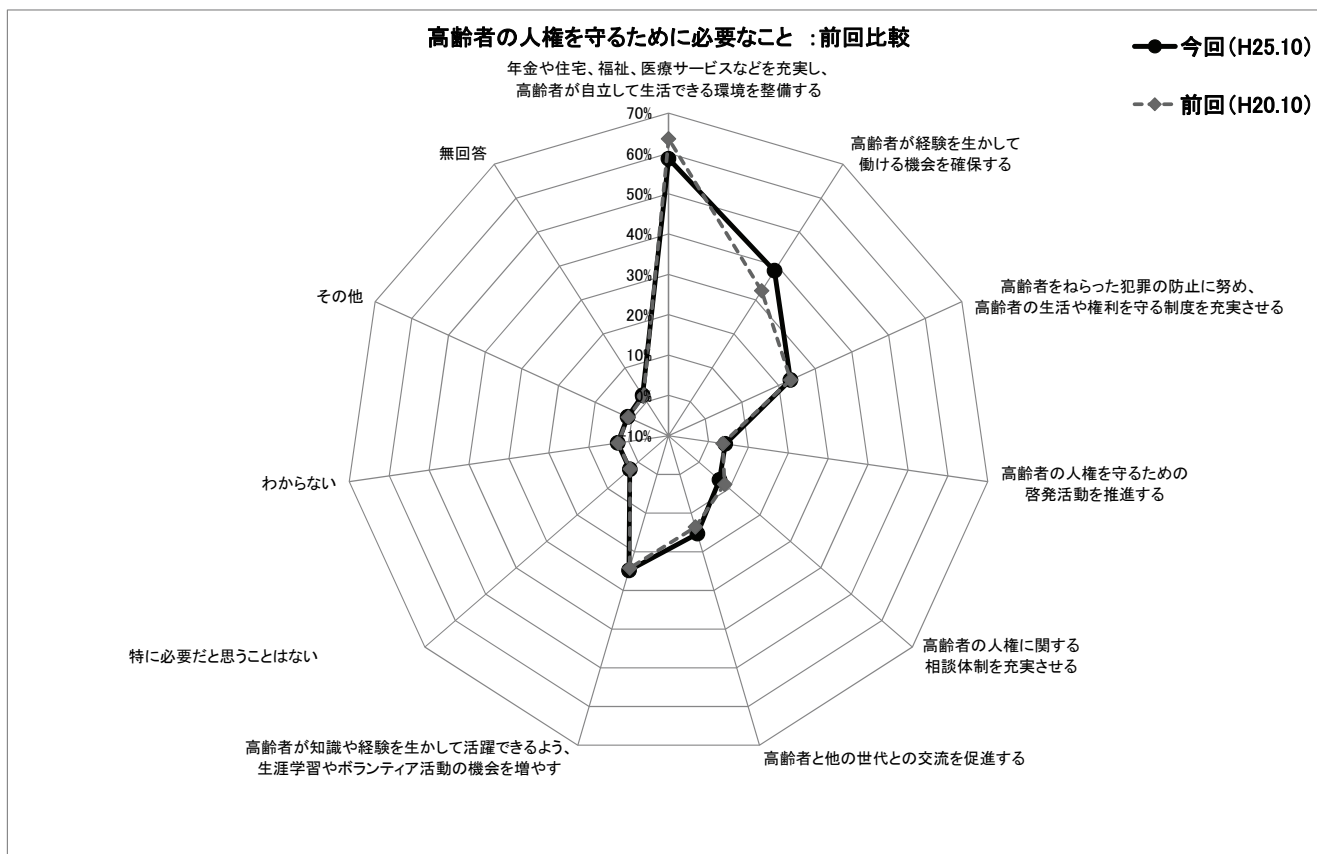
【全体】

◆全体では、「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実し、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」が58.7%と最も多く、次いで「高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する」が38.6%、「高齢者が知識や経験を生かして活躍できるよう、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす」が24.8%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が3項目となっている。

増加項目では、「高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する」が5.9%、「高齢者との世代との交流を促進する」が1.8%増加している。

減少項目では、「年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実し、高齢者が自立して生活できる環境を整備する」が4.9%、「高齢者の人権に関する相談体制を充実させる」が1.7%、「高齢者をねらった犯罪の防止に努め、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる」が0.1%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する	38.6%	32.7%	5.9%
高齢者との世代との交流を促進する	15.4%	13.6%	1.8%
高齢者が知識や経験を生かして活躍できるよう、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす	24.8%	24.2%	0.6%
高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	4.2%	3.6%	0.6%
特に必要だと思うことはない	2.7%	2.6%	0.1%
わからない	2.7%	2.7%	0.0%
高齢者をねらった犯罪の防止に努め、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる	23.2%	23.3%	-0.1%
高齢者の人権に関する相談体制を充実させる	6.7%	8.4%	-1.7%
年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実し、高齢者が自立して生活できる環境を整備する	58.7%	63.6%	-4.9%
その他	1.2%	1.0%	0.2%
無回答	1.9%	1.6%	0.3%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・老人ホームの料金の値下げ
- ・住宅（有料）や施設が充実したところでお金のない人や弱者の人々のためにはならない、もっと足元を見つめなおすべき
- ・高齢者は自分が高齢ということに甘えている
- ・高齢者に接する人間だけでなく、高齢者自身が老化による変化についての知識を学び納得させること
- ・福祉サービス等の拡大・質向上・介護士への優遇措置 等

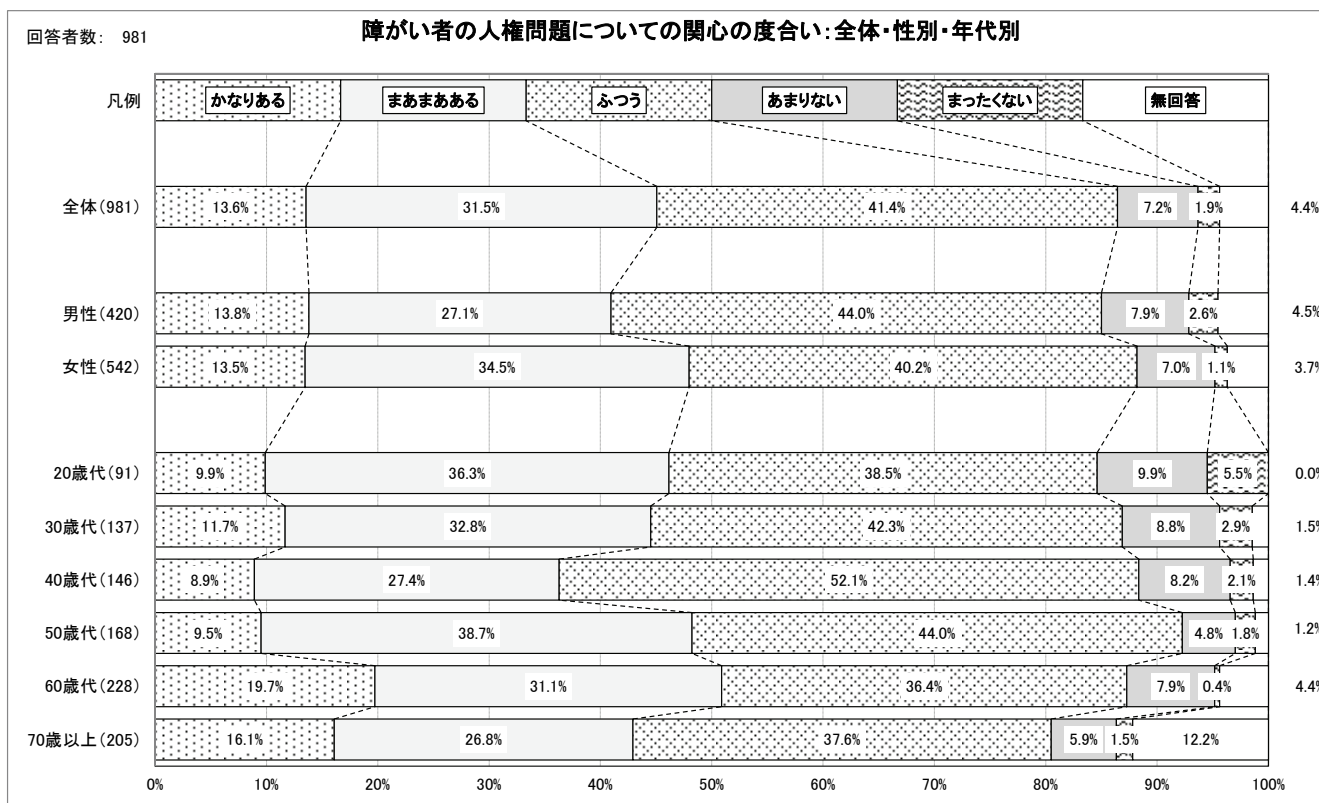
6 障がい者の人権について

6-1 障がい者の人権問題についての関心の度合い

問20. 障がい者の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

◆全体、性別、年代別ともに「ふつう」が最も多く、次いで「まあまあある」となっている。



【前回との差】

◆前回との差をみると、「かなりある」が2.5%、「ふつう」が1.0%減少し、「まあまあある」が0.8%増加しているが、大きな変化はない。

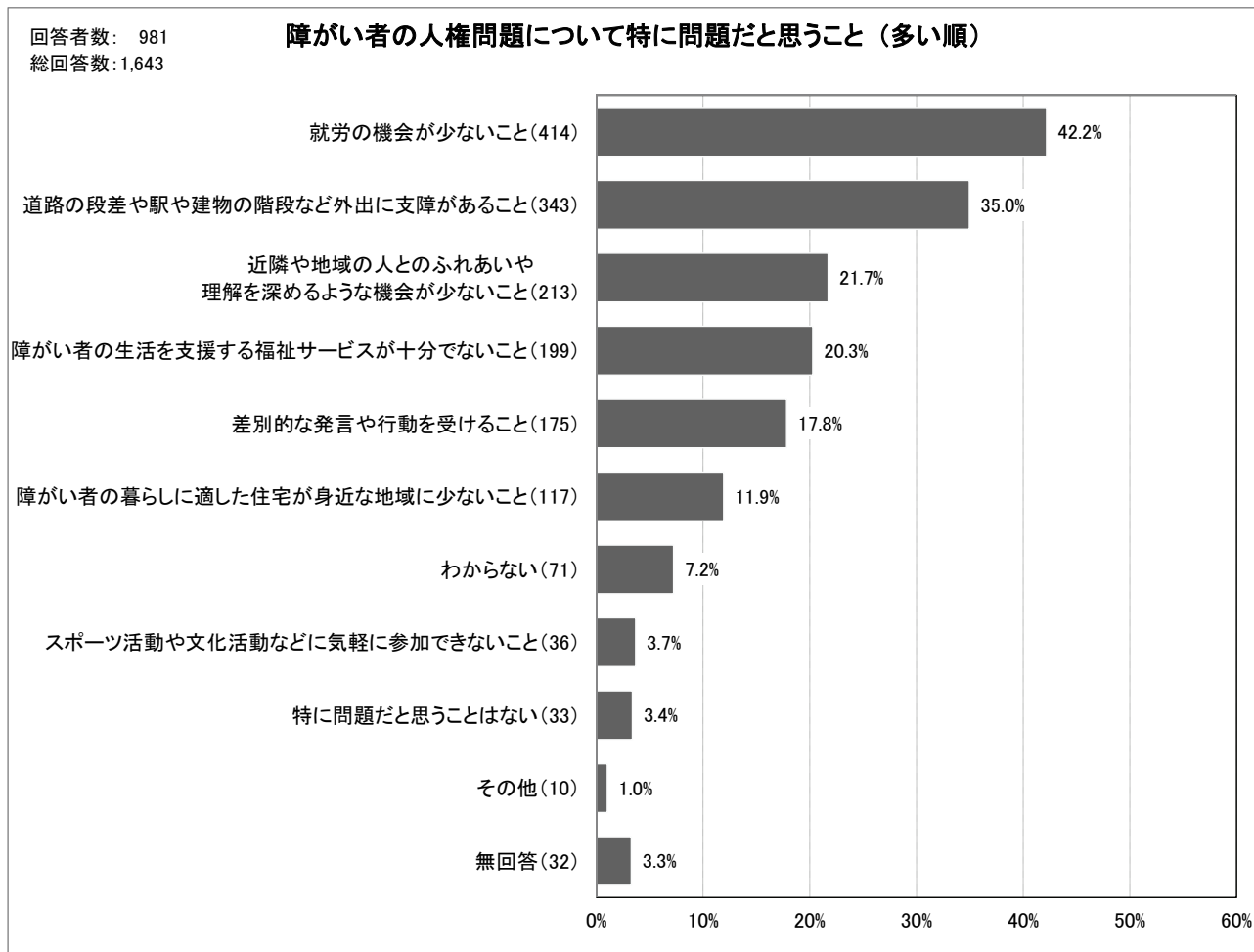
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	13.6%	16.1%	-2.5%
2	まあまあある	31.5%	30.7%	0.8%
3	ふつう	41.4%	42.4%	-1.0%
4	あまりない	7.2%	6.6%	0.6%
5	まったくない	1.9%	1.3%	0.6%
6	無回答	4.4%	2.9%	1.5%

6-2 障がい者の人権問題について特に問題だと思うこと

問21. 障がい者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(〇は2つまで)

【全体】

◆全体では、「就労の機会が少ないこと」が42.2%と最も多く、次いで「道路の段差や駅や建物の階段など外出に支障があること」が35.0%、「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと」が21.7%となっている。



【性・年代別】

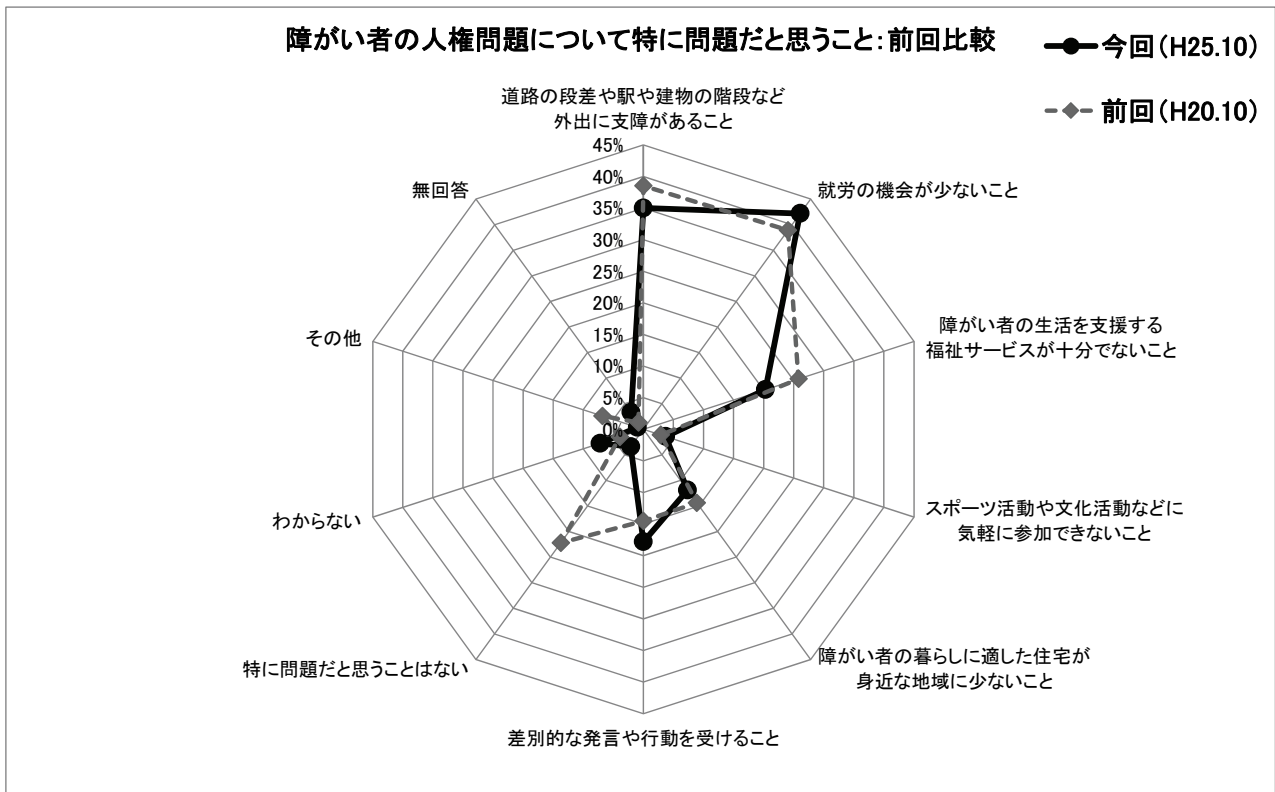
- ◆性別で見ると、男性、女性ともに「就労の機会が少ないこと」が最も多くなっている。
「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと」では、男性が2.6%高く、「道路の段差や駅や建物の階段など外出に支障があること」では、女性が4.3%高くなっている。
- ◆年代別にみると、20歳代では「差別的な発言や行動を受けること」、30歳代～60歳代では「就労の機会が少ないこと」、70歳以上では「道路の段差や駅や建物の階段など外出に支障があること」が最も多くなっている。

項目	区分	道路の段差や駅や建物の階段など外出に支障があること	就労の機会が少ないこと	障がい者の生活が十分でないこと	障がい者の生活が十分でないこと	障がい者の暮らしに適さない住宅が身近な地域に少ないこと	障がい者の暮らしに適さないこと	障がい者の暮らしに適さないこと	障がい者の暮らしに適さないこと	障がい者の暮らしに適さないこと	障がい者の暮らしに適さないこと	障がい者の暮らしに適さないこと	障がい者の暮らしに適さないこと	障がい者の暮らしに適さないこと
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数
全体 (n=981)	回答数	343	414	199	36	117	175	213	33	71	10	32	1,643	
	回答率	35.0%	42.2%	20.3%	3.7%	11.9%	17.8%	21.7%	3.4%	7.2%	1.0%	3.3%	167.5%	
男性 (n=420)	回答数	136	176	89	19	50	66	99	17	28	4	14	698	
	回答率	32.4%	41.9%	21.2%	4.5%	11.9%	15.7%	23.6%	4.0%	6.7%	1.0%	3.3%	166.2%	
女性 (n=542)	回答数	199	233	107	16	65	108	114	15	39	6	14	916	
	回答率	36.7%	43.0%	19.7%	3.0%	12.0%	19.9%	21.0%	2.8%	7.2%	1.1%	2.6%	169.0%	
20歳代 (n=91)	回答数	26	32	14	2	15	34	17	5	4	2	0	151	
	回答率	28.6%	35.2%	15.4%	2.2%	16.5%	37.4%	18.7%	5.5%	4.4%	2.2%	0.0%	165.9%	
30歳代 (n=137)	回答数	43	68	27	6	15	34	24	1	7	1	1	227	
	回答率	31.4%	49.6%	19.7%	4.4%	10.9%	24.8%	17.5%	0.7%	5.1%	0.7%	0.7%	165.7%	
40歳代 (n=146)	回答数	50	78	31	5	15	29	21	1	10	1	1	242	
	回答率	34.2%	53.4%	21.2%	3.4%	10.3%	19.9%	14.4%	0.7%	6.8%	0.7%	0.7%	165.8%	
50歳代 (n=168)	回答数	64	69	38	5	18	36	39	4	13	3	1	290	
	回答率	38.1%	41.1%	22.6%	3.0%	10.7%	21.4%	23.2%	2.4%	7.7%	1.8%	0.6%	172.6%	
60歳代 (n=228)	回答数	91	104	55	8	29	27	51	5	14	2	10	396	
	回答率	39.9%	45.6%	24.1%	3.5%	12.7%	11.8%	22.4%	2.2%	6.1%	0.9%	4.4%	173.7%	
70歳以上 (n=205)	回答数	69	62	34	8	25	14	58	17	23	1	17	328	
	回答率	33.7%	30.2%	16.6%	3.9%	12.2%	6.8%	28.3%	8.3%	11.2%	0.5%	8.3%	160.0%	

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

- ◆前回との比較をチャート図でみると、上位3項目は一緒であるが、4位以降に変化が見られる。「特に問題だと思わない」が大きく減少している。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が4項目となっている。

増加項目では、「就労の機会が少ないこと」、「わからない」、「差別的な発言や行動を受けること」が3.3%増加している。

減少項目では、「特に関心だと思わない」が18.8%、「障がい者の生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」が5.5%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
就労の機会が少ないこと	42.2%	38.9%	3.3%
わからない	7.2%	3.9%	3.3%
差別的な発言や行動を受けること	17.8%	14.5%	3.3%
スポーツ活動や文化活動などに気軽に参加できないこと	3.7%	2.9%	0.8%
障がい者の暮らしに適した住宅が身近な地域に少ないこと	11.9%	14.4%	-2.5%
道路の段差や駅や建物の階段など外出に支障があること	35.0%	38.5%	-3.5%
障がい者の生活を支援する福祉サービスが十分でないこと	20.3%	25.8%	-5.5%
特に関心だと思わない	3.4%	22.2%	-18.8%
その他	1.0%	6.8%	-5.8%
無回答	3.3%	1.3%	2.0%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

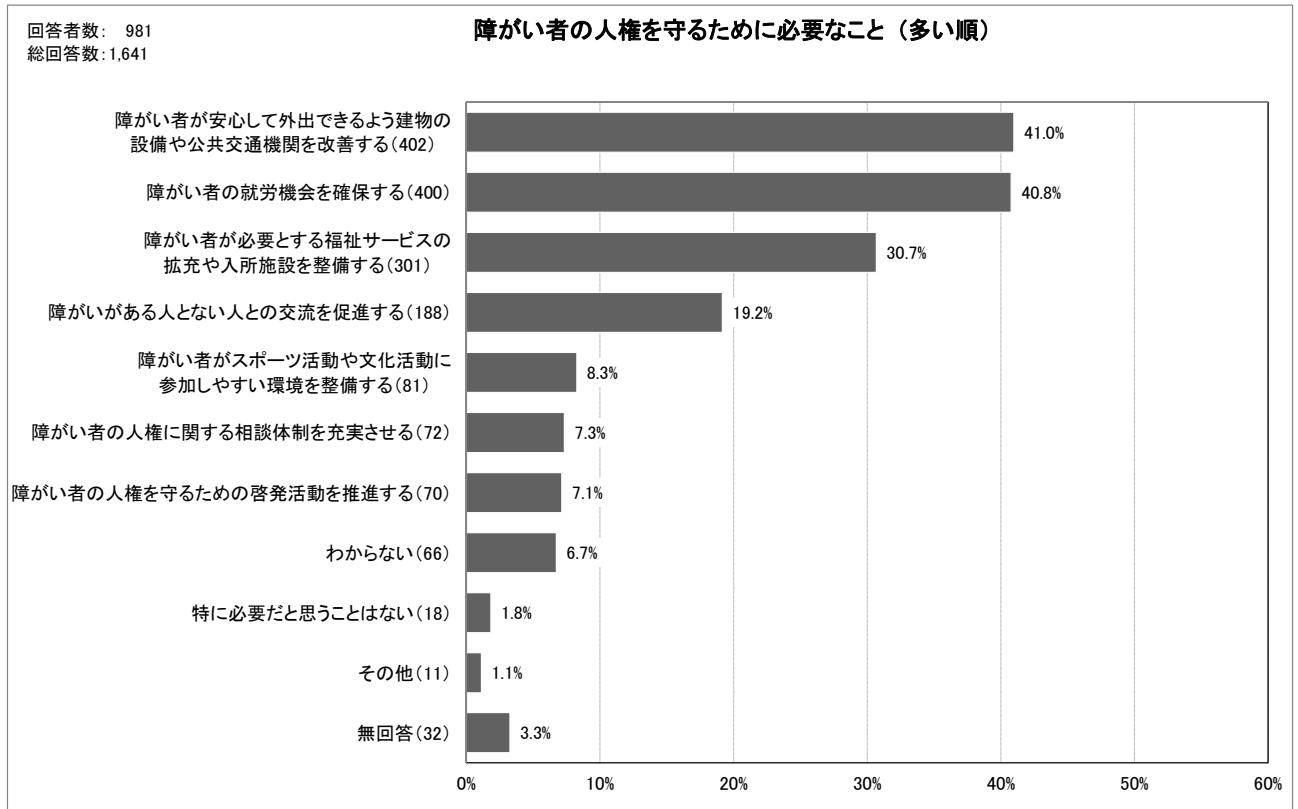
- ・見た目ではわかりにくい障がい者への理解があまりないこと
- ・障がい者を優遇しすぎるところ
- ・文字を変える、呼び方を変えるなど、表面的な意識改革しか行われておらず根本的な差別・区別が存在し続けている
- ・障がい者がいる家庭への金銭的補助 等

6-3 障がい者の人権を守るために必要なこと

問22. 障がい者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

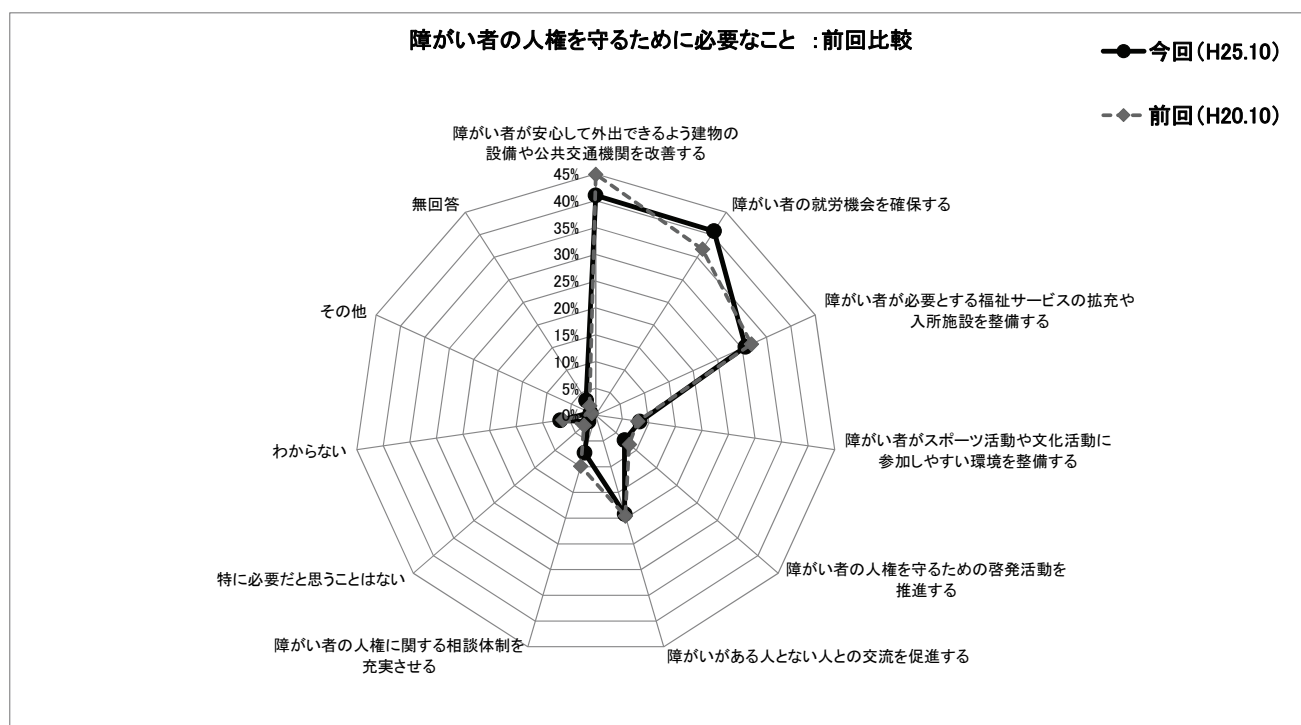
【全体】

◆全体では、「障がい者が安心して外出できるよう建物の設備や公共交通機関を改善する」が41.0%と最も多く、次いで「障がい者の就労機会を確保する」が40.8%、「障がい者が必要とする福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」が30.7%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「障がい者の就労機会を確保する」が4.0%増加している。

減少項目では、「障がい者が安心して外出できるよう建物の設備や公共交通機関を改善する」が3.9%、

「障がい者の人権に関する相談体制を充実させる」が2.6%、「障がい者が必要とする福祉サービスの拡充や入所施設を整備する」が1.2%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
障がい者の就労機会を確保する	40.8%	36.8%	4.0%
わからない	6.7%	6.2%	0.5%
障がい者がスポーツ活動や文化活動に参加しやすい環境を整備する	8.3%	7.9%	0.4%
障がいがある人とない人との交流を促進する	19.2%	19.6%	-0.4%
特に必要だと思うことはない	1.8%	2.9%	-1.1%
障がい者の人権を守るための啓発活動を推進する	7.1%	8.3%	-1.2%
障がい者が必要とする福祉サービスの拡充や入所施設を整備する	30.7%	31.9%	-1.2%
障がい者の人権に関する相談体制を充実させる	7.3%	9.9%	-2.6%
障がい者が安心して外出できるよう建物の設備や公共交通機関を改善する	41.0%	44.9%	-3.9%
その他	1.1%	0.8%	0.3%
無回答	3.3%	2.1%	1.2%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・学校教育で「ひとりひとりみんな個性を持つが違う人間」ということをきちんと教える、その中で障がいも個性であることを、自分にはない別の能力を持っていることを教える
- ・顔の違い、性格の違いと同じように障がいもその人の単なる一個性として受け止め、自然にフォローできるよう、学校や会社などで雰囲気を作る
- ・生来の障がい者と年齢(高齢)による障がい者では考え方も変わってくると思う

等

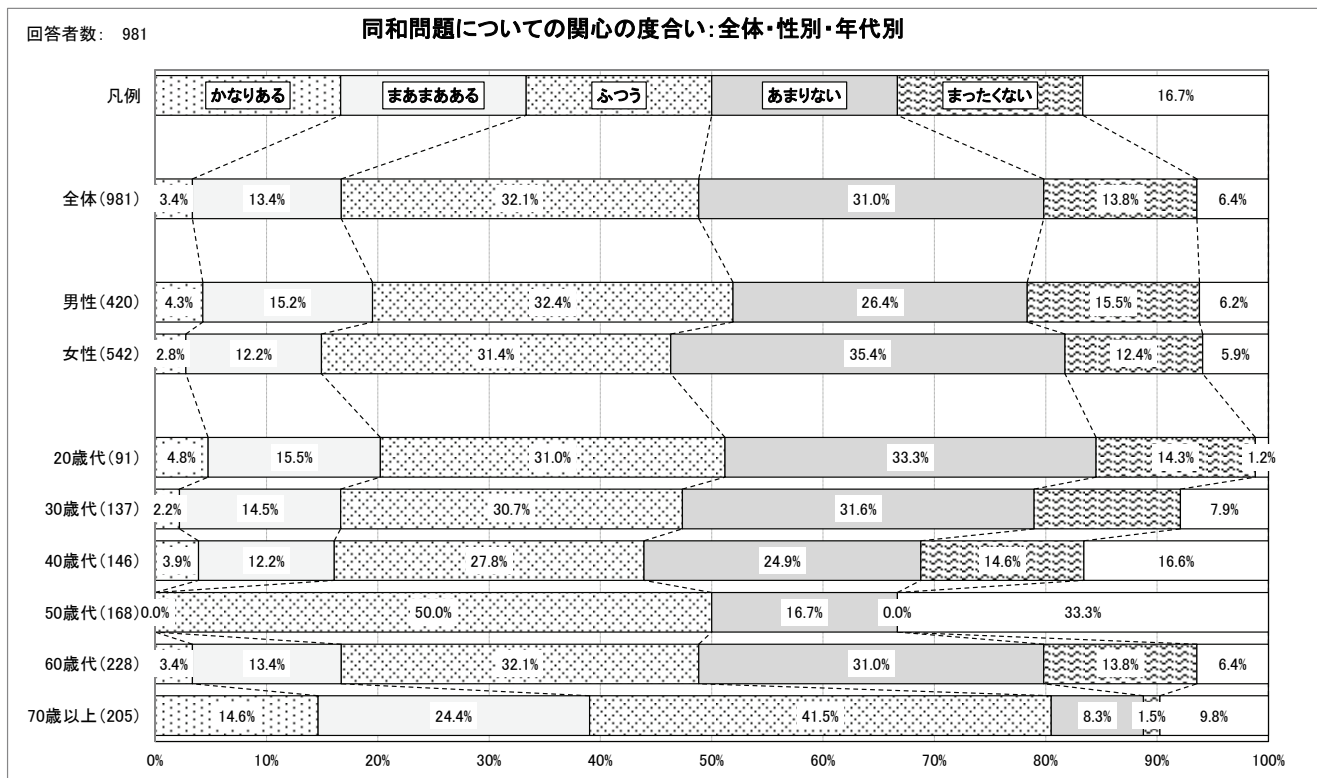
7 同和問題について

7-1 同和問題についての関心の度合い

問23. 同和問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

- ◆全体、男性、40歳代から70歳以上では「ふつう」が最も多く、女性、20歳代、30歳代では「あまりない」が最も多い。



【前回との差】

- ◆前回との差をみると、「ふつう」が2.3%、「あまりない」が2.1%減少し、「まあまあある」が2.6%増加しているが、大きな変化はない。

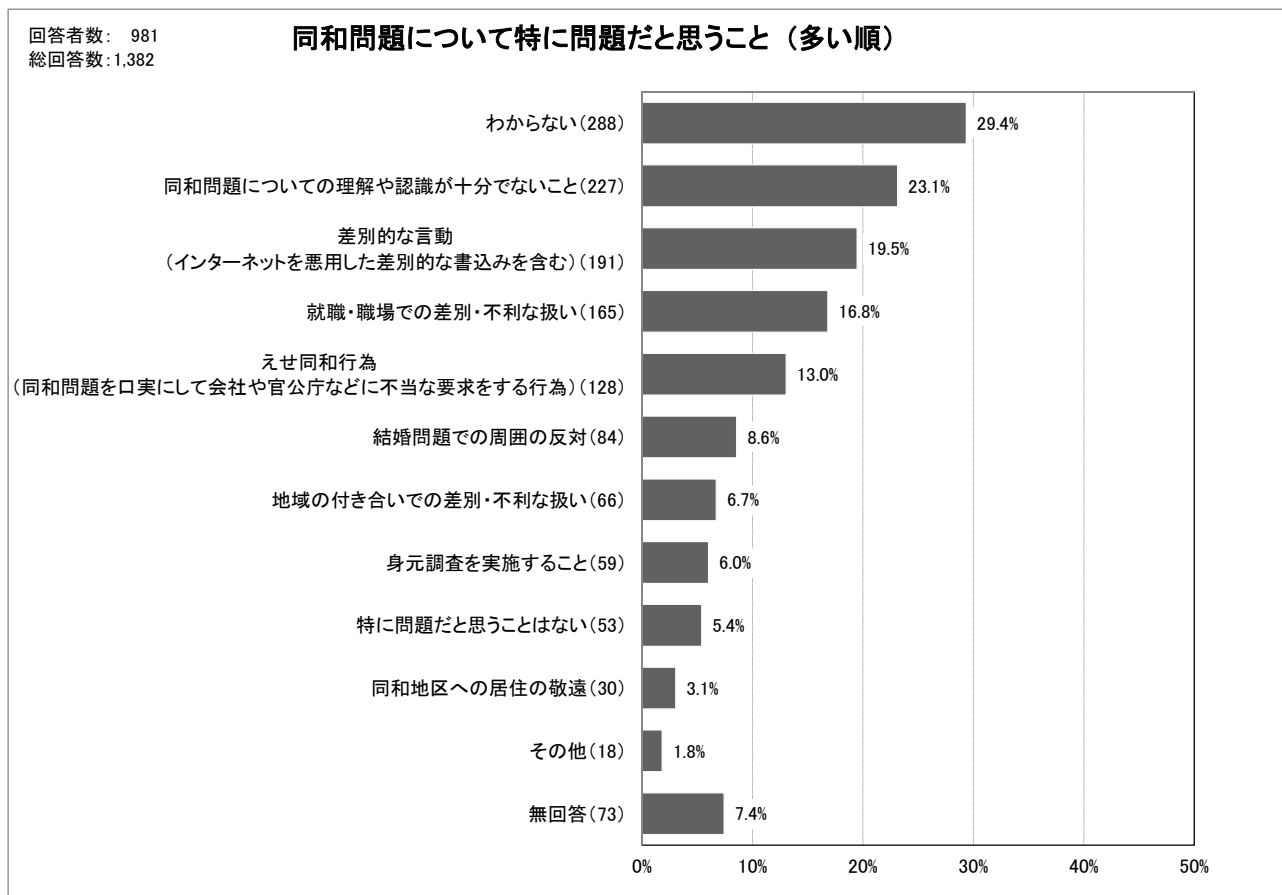
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	3.4%	3.2%	0.2%
2	まあまあある	13.4%	10.8%	2.6%
3	ふつう	32.1%	34.4%	-2.3%
4	あまりない	31.0%	33.1%	-2.1%
5	まったくない	13.8%	13.0%	0.8%
6	無回答	6.4%	5.5%	0.9%

7-2 同和問題について特に問題だと思うこと

問24. 同和問題に関して、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

【全体】

- ◆全体では、「わからない」が29.4%と最も多く、次いで「同和問題についての理解や認識が十分でないこと」が23.1%、「差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書込みを含む）」が19.5%となっている。



【性・年代別】

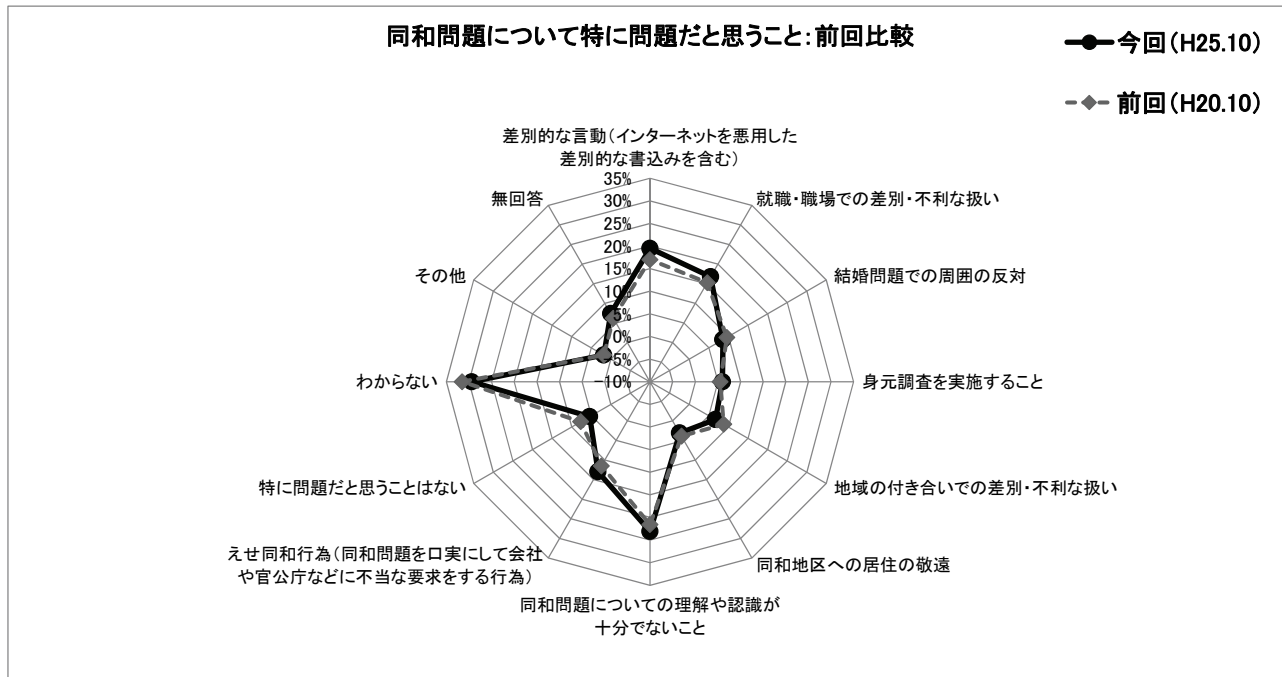
- ◆性別で見ると、男性、女性ともに「わからない」が最も多くなっている。
「えせ同和行為(同和問題を口実にして会社や官公庁などに不当な要求をする行為)」では、男性が11.9%高く、「同和問題についての理解や認識が十分でないこと」では、女性が5.8%高くなっている。
- ◆年代別にみると、50歳代を除き「わからない」が最も多くなっている。50歳代では「同和問題についての理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっている。

項目	区分	差別的な言動（インターネットを悪用した）	就職・職場での差別・不利な扱い	結婚問題での周囲の反対	身元調査を実施すること	地域の付き合いでの差別・不利な扱い	同和地区への居住の敬遠	同和問題についての理解や認識が十分でないこと	えせ同和行為（同和問題を口実にして会社や官公庁などに不当な要求をする行為）	特に問題だと思ふことはない	わからない	その他	無回答	総回答
全体 (n=981)	回答数	191	165	84	59	66	30	227	128	53	288	18	73	1,382
	回答率	19.5%	16.8%	8.6%	6.0%	6.7%	3.1%	23.1%	13.0%	5.4%	29.4%	1.8%	7.4%	140.9%
男性 (n=420)	回答数	77	69	30	19	29	16	84	83	25	114	7	35	588
	回答率	18.3%	16.4%	7.1%	4.5%	6.9%	3.8%	20.0%	19.8%	6.0%	27.1%	1.7%	8.3%	140.0%
女性 (n=542)	回答数	113	95	52	38	37	14	140	43	27	167	11	34	771
	回答率	20.8%	17.5%	9.6%	7.0%	6.8%	2.6%	25.8%	7.9%	5.0%	30.8%	2.0%	6.3%	142.3%
20歳代 (n=91)	回答数	22	20	11	4	8	2	20	7	2	36	2	0	134
	回答率	24.2%	22.0%	12.1%	4.4%	8.8%	2.2%	22.0%	7.7%	2.2%	39.6%	2.2%	0.0%	147.3%
30歳代 (n=137)	回答数	29	27	13	12	11	6	33	13	3	41	5	4	197
	回答率	21.2%	19.7%	9.5%	8.8%	8.0%	4.4%	24.1%	9.5%	2.2%	29.9%	3.6%	2.9%	143.8%
40歳代 (n=146)	回答数	35	28	10	11	14	5	29	26	5	36	2	5	206
	回答率	24.0%	19.2%	6.8%	7.5%	9.6%	3.4%	19.9%	17.8%	3.4%	24.7%	1.4%	3.4%	141.1%
50歳代 (n=168)	回答数	30	25	14	7	11	2	56	31	13	46	1	6	242
	回答率	17.9%	14.9%	8.3%	4.2%	6.5%	1.2%	33.3%	18.5%	7.7%	27.4%	0.6%	3.6%	144.0%
60歳代 (n=228)	回答数	54	40	21	14	13	5	48	26	12	59	4	21	317
	回答率	23.7%	17.5%	9.2%	6.1%	5.7%	2.2%	21.1%	11.4%	5.3%	25.9%	1.8%	9.2%	139.0%
70歳以上 (n=205)	回答数	20	24	15	11	8	10	41	24	18	69	4	35	279
	回答率	9.8%	11.7%	7.3%	5.4%	3.9%	4.9%	20.0%	11.7%	8.8%	33.7%	2.0%	17.1%	136.1%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、項目別には多少の変化はあるが、全体的には大きな変化はない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が5項目、減少した項目が5項目となっている。

増加項目では、「差別的な言動 (インターネットを悪用した差別的な書込みを含む)」が2.5%、「えせ同和行為 (同和問題を口実にして会社や官公庁などに不当な要求をする行為)」、「就職・職場での差別・不利な扱い」、「同和問題についての理解や認識が十分でないこと」が1.5%増加している。

減少項目では、「特に問題だと思うことはない」が2.3%、「わからない」、「地域の付き合いでの差別・不利な扱い」が2.1%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
差別的な言動 (インターネットを悪用した差別的な書込みを含む)	19.5%	17.0%	2.5%
えせ同和行為 (同和問題を口実にして会社や官公庁などに不当な要求をする行為)	13.0%	11.5%	1.5%
就職・職場での差別・不利な扱い	16.8%	15.3%	1.5%
同和問題についての理解や認識が十分でないこと	23.1%	21.6%	1.5%
身元調査を実施すること	6.0%	5.5%	0.5%
同和地区への居住の敬遠	3.1%	3.9%	-0.8%
結婚問題での周囲の反対	8.6%	9.6%	-1.0%
地域の付き合いでの差別・不利な扱い	6.7%	8.8%	-2.1%
わからない	29.4%	31.5%	-2.1%
特に問題だと思うことはない	5.4%	7.7%	-2.3%
その他	1.8%	1.8%	0.0%
無回答	7.4%	6.2%	1.2%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

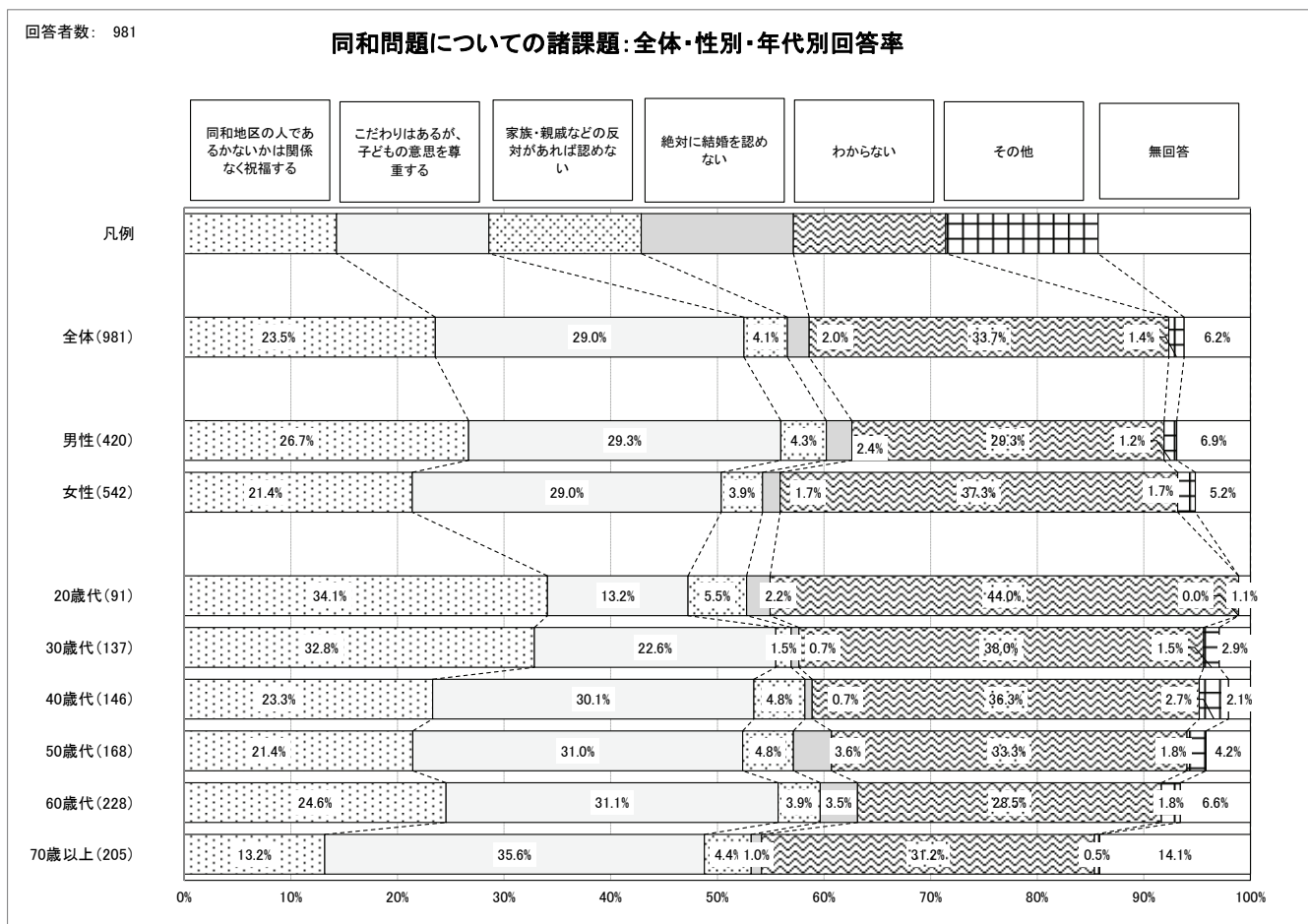
- ・ 同和問題に触れることがなかったので分からない
- ・ 全く意識していなかったが、上記のような差別がまだあるのであれば問題だと思う
- ・ 学校等での同和教育は逆に差別意識を生むのではないか
- ・ 近年、同和問題を感じたことがない 等

7-3 同和問題についての諸課題

問25. あなたのお子さんが（いらっしゃる場合は、いると仮定して考えてください）、同和地区出身の人と結婚するとしたら、あなたはどのようにしますか。（〇は1つ）

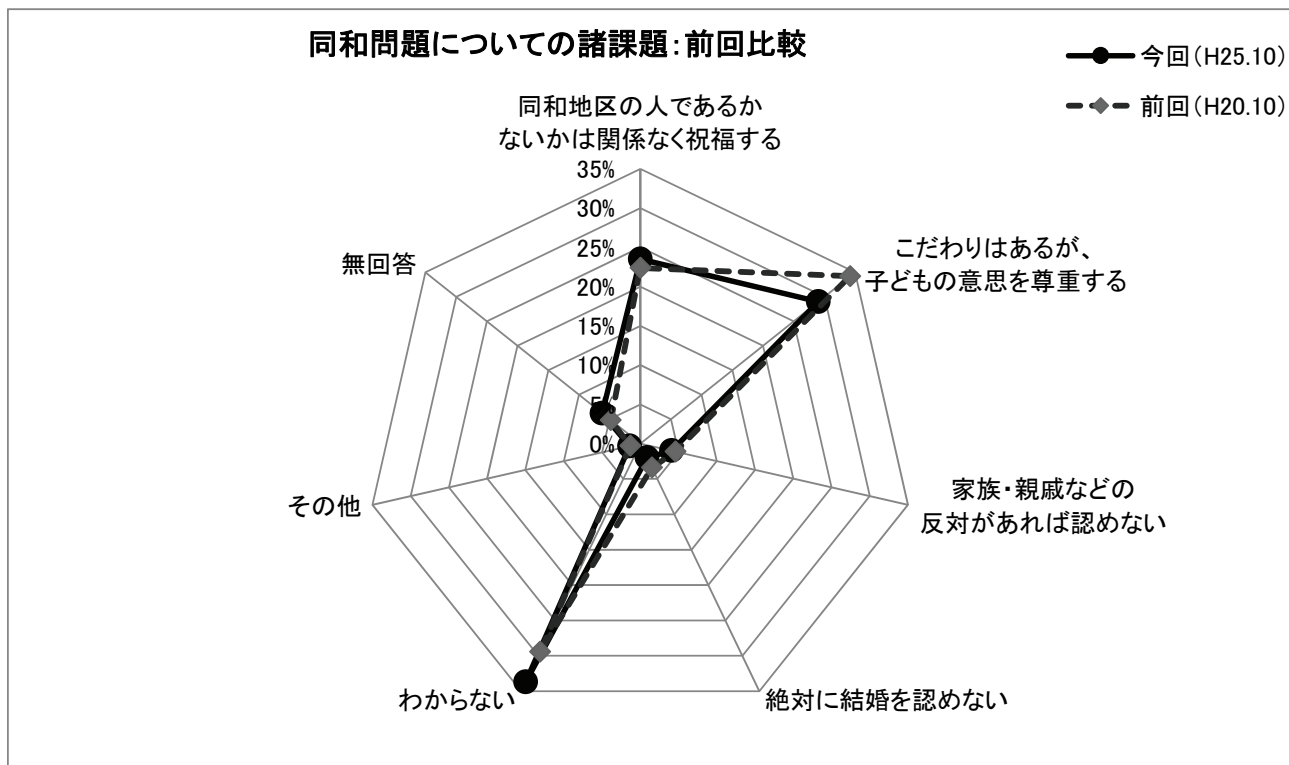
【全体・性・年代別】

◆全体、女性、20歳代～50歳代では「わからない」が最も多く、60歳代及び70歳以上では「こだわりはあるが、子どもの意思を尊重する」が最も多い。男性は、「わからない」、「こだわりはあるが、子どもの意思を尊重する」が同率第1位となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、項目別には多少の変化はあるが、全体的には大きな変化はない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が3項目となっている。

増加項目では、「わからない」が4.3%、「同和地区の人であるかないかは関係なく祝福する」が1.1%増加している。

減少項目では、「こだわりはあるが、子どもの意思を尊重する」が5.2%、「絶対に結婚を認めない」が1.4%減少している。

番号	項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
1	わからない	33.7%	29.4%	4.3%
2	同和地区の人であるかないかは関係なく祝福する	23.5%	22.4%	1.1%
3	家族・親戚などの反対があれば認めない	4.1%	4.6%	-0.5%
4	絶対に結婚を認めない	2.0%	3.4%	-1.4%
5	こだわりはあるが、子どもの意思を尊重する	29.0%	34.2%	-5.2%
6	その他	1.4%	1.3%	0.1%
7	無回答	6.2%	4.8%	1.4%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

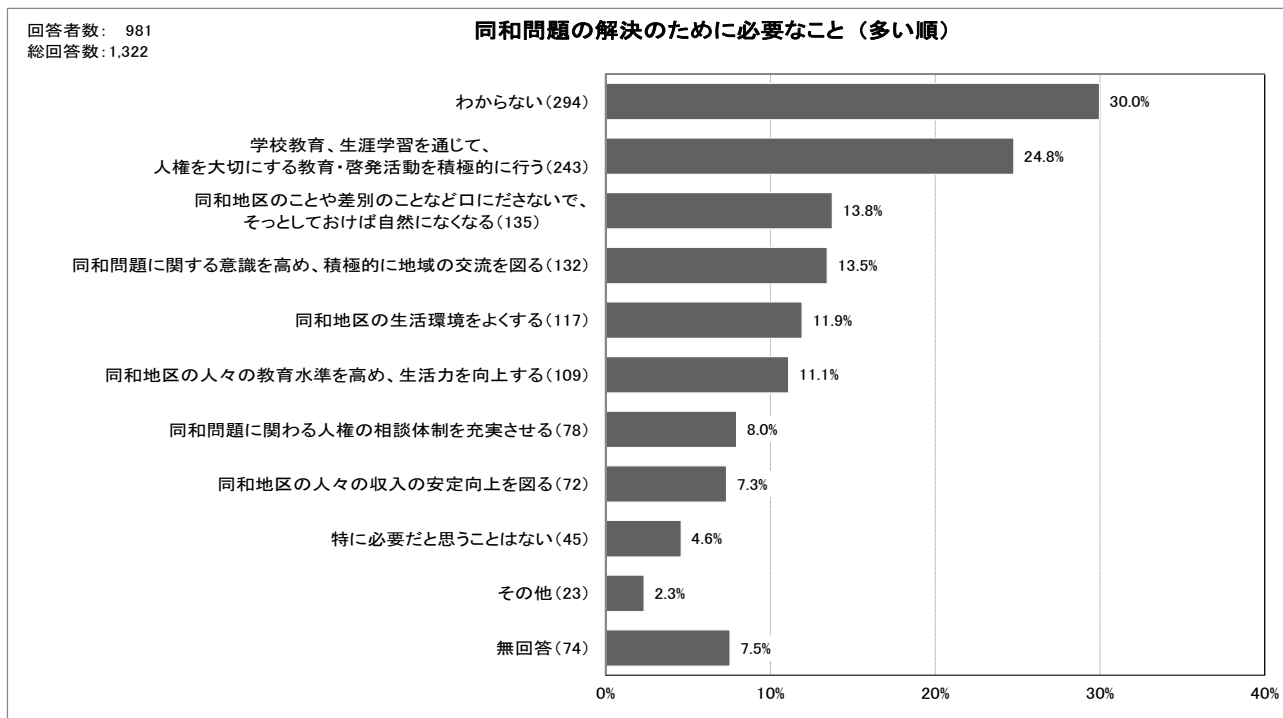
- ・若い人は問題にすることこそおかしいと思う
- ・出身は関係ないです。その人の性格
- ・相手次第、人柄による 等

7-4 同和問題を解決するために必要なこと

問26. 同和問題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

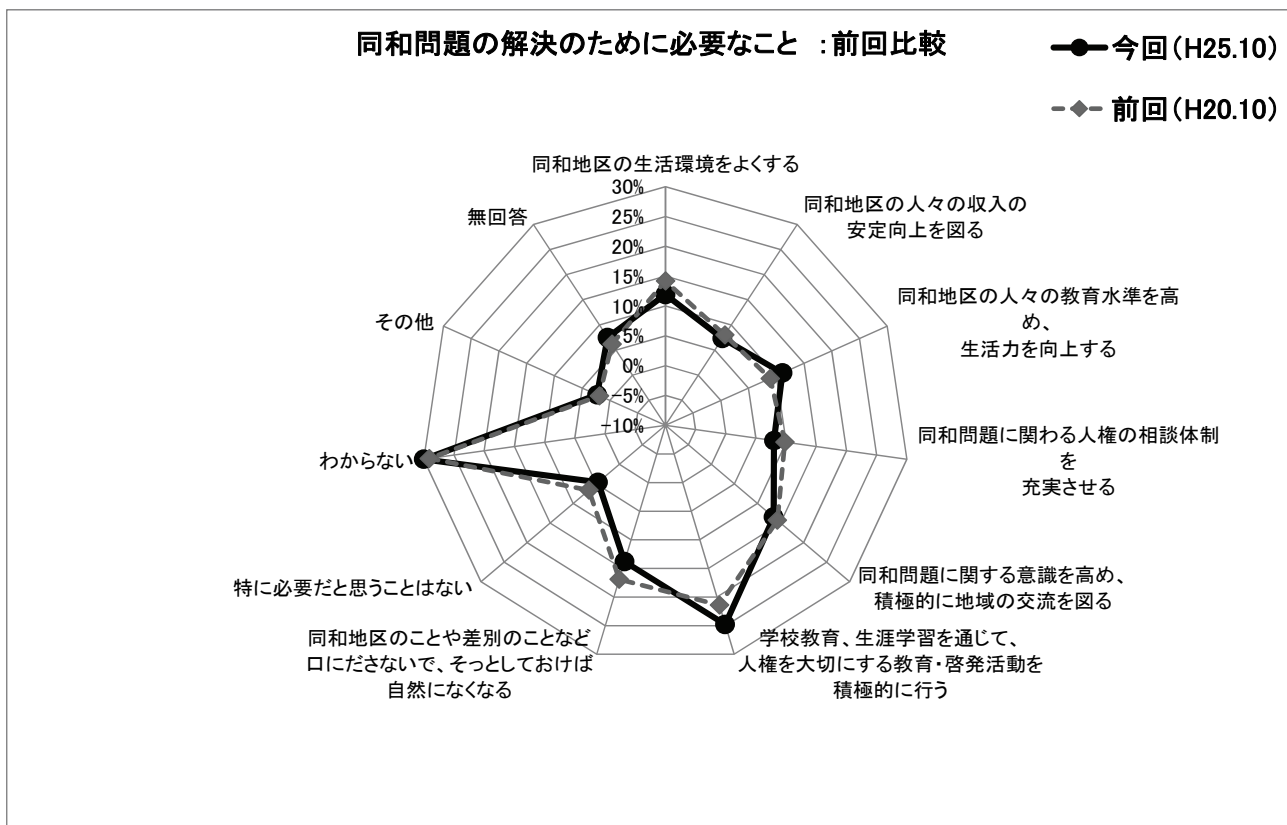
【全体】

◆全体では、「わからない」が30.0%と最も多く、次いで「学校教育、生涯学習を通じて、人権を大切に
する教育・啓発活動を積極的に行う」が24.8%、「同和地区のことや差別のことなど口にださないで、
そっとしておけば自然になくなる」が13.8%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「学校教育、生涯学習を通じて、人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う」が3.4%増加している。

減少項目では、「同和地区のことや差別のことなど口にださないで、そっとしておけば自然になくなる」が3.1%、「同和地区の生活環境をよくする」が2.3%、「特に必要だと思うことはない」が2.0%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
学校教育、生涯学習を通じて、人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う	24.8%	21.4%	3.4%
同和地区の人々の教育水準を高め、生活力を向上する	11.1%	8.9%	2.2%
わからない	30.0%	29.1%	0.9%
同和地区の人々の収入の安定向上を図る	7.3%	8.0%	-0.7%
同和問題に関する意識を高め、積極的に地域の交流を図る	13.5%	14.3%	-0.8%
同和問題に関わる人権の相談体制を充実させる	8.0%	9.8%	-1.8%
特に必要だと思うことはない	4.6%	6.6%	-2.0%
同和地区の生活環境をよくする	11.9%	14.2%	-2.3%
同和地区のことや差別のことなど口にださないで、そっとしておけば自然になくなる	13.8%	16.9%	-3.1%
その他	2.3%	1.9%	0.4%
無回答	7.5%	6.2%	1.3%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・同和という言葉、発想を無くす
- ・同和問題を風化させ、人々が関心を持たなくなることが一番
- ・同和地区について市で催し物をしてみる。その地域の方も問題はあるはず
- ・今の時代、同和問題などあるとは思ってもみませんでした
- ・啓発活動などで、えせ同和教育をなくすようにする 等

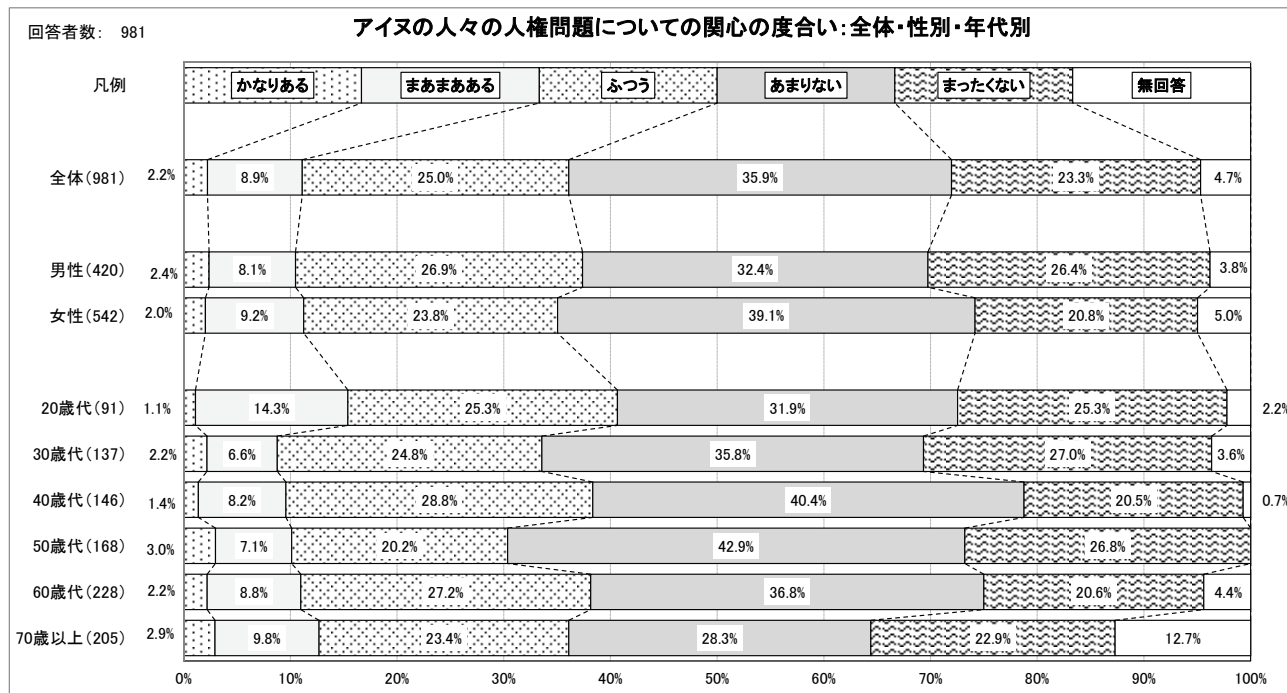
8 アイヌの人々の人権について

8-1 アイヌの人々の人権問題についての関心の度合い

問27. アイヌの人々の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

◆全体、性別、年代別ともに「あまりない」が最も多くなっている。



【前回との差】

◆前回との差をみると、「あまりない」が4.7%減少し、「まったくない」が3.7%増加しているが、全体的には大きな変化はない。

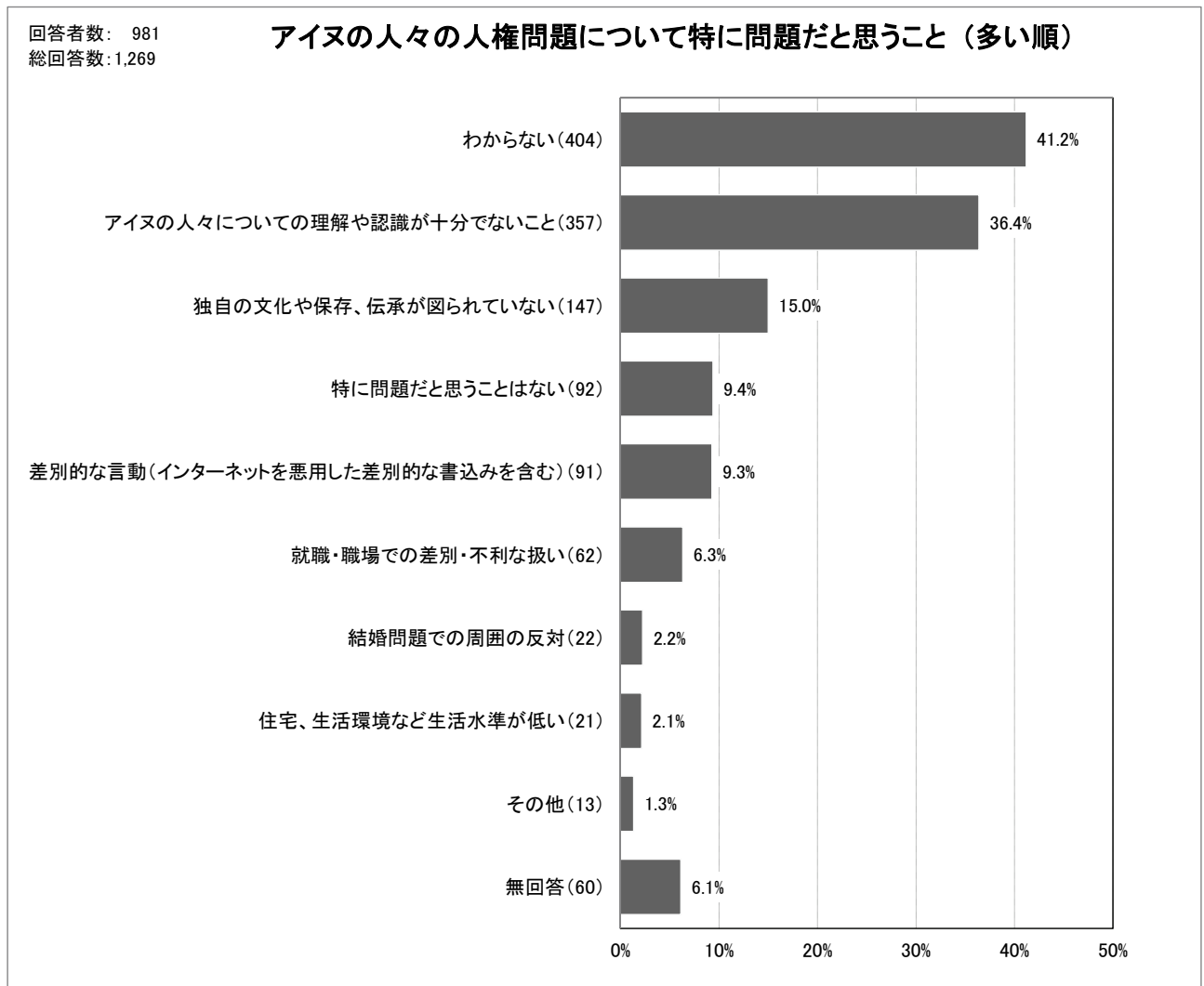
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	2.2%	2.5%	-0.3%
2	まあまあある	8.9%	6.8%	2.1%
3	ふつう	25.0%	26.7%	-1.7%
4	あまりない	35.9%	40.6%	-4.7%
5	まったくない	23.3%	19.6%	3.7%
6	無回答	4.7%	3.7%	1.0%

8-2 アイヌの人々の人権問題について特に問題だと思うこと

問28. アイヌの人々の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(〇は2つまで)

【全体】

- ◆全体では、「わからない」が41.2%と最も多く、次いで「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」が36.4%、「独自の文化や保存、伝承が図られていない」が15.0%となっている。



【性・年代別】

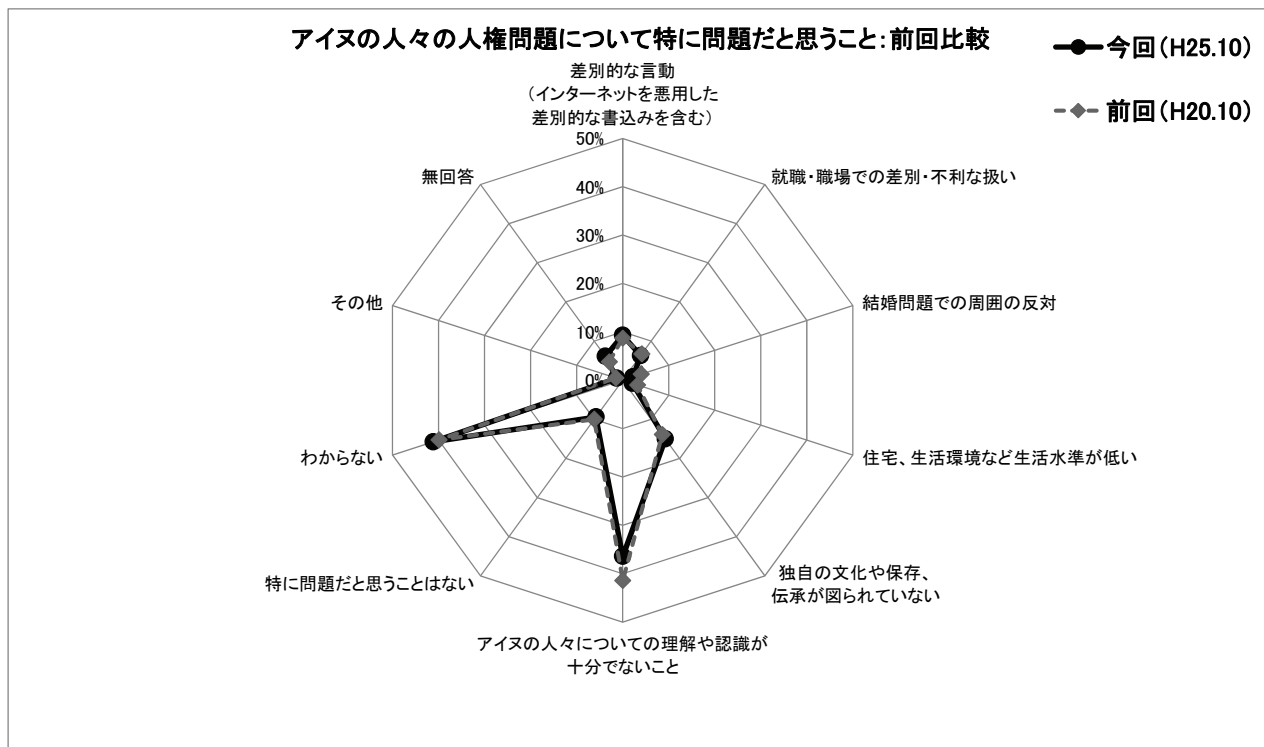
- ◆性別で見ると、男性、女性ともに「わからない」が最も多くなっている。
「独自の文化や保存、伝承が図られていない」では、男性が2.4%高く、「差別的な言動(インターネットを悪用した差別的な書込みを含む)」では、女性が4.0%高くなっている。
- ◆年代別にみると、すべての年代で「わからない」が最も多く、次いで「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」となっている。

項目	区分	差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書き込みを含む）	就労・職場での差別・不利な扱い	結婚問題での周囲の反対	住宅、生活環境など生活水準が低い	独自の文化や保存、伝承が図られていない	アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと	特に問題だと思うことはない	わからない	その他	無回答	総回答
全体 (n=981)	回答数	91	62	22	21	147	357	92	404	13	60	1,269
	回答率	9.3%	6.3%	2.2%	2.1%	15.0%	36.4%	9.4%	41.2%	1.3%	6.1%	129.4%
男性 (n=420)	回答数	29	22	10	13	69	157	44	174	4	27	549
	回答率	6.9%	5.2%	2.4%	3.1%	16.4%	37.4%	10.5%	41.4%	1.0%	6.4%	130.7%
女性 (n=542)	回答数	59	39	11	8	76	197	45	222	9	30	696
	回答率	10.9%	7.2%	2.0%	1.5%	14.0%	36.3%	8.3%	41.0%	1.7%	5.5%	128.4%
20歳代 (n=91)	回答数	11	4	4	1	11	32	7	40	2	3	115
	回答率	12.1%	4.4%	4.4%	1.1%	12.1%	35.2%	7.7%	44.0%	2.2%	3.3%	126.4%
30歳代 (n=137)	回答数	18	10	5	3	22	55	9	55	1	3	181
	回答率	13.1%	7.3%	3.6%	2.2%	16.1%	40.1%	6.6%	40.1%	0.7%	2.2%	132.1%
40歳代 (n=146)	回答数	13	6	2	4	20	60	5	61	3	4	178
	回答率	8.9%	4.1%	1.4%	2.7%	13.7%	41.1%	3.4%	41.8%	2.1%	2.7%	121.9%
50歳代 (n=168)	回答数	14	11	2	1	31	67	16	71	0	5	218
	回答率	8.3%	6.5%	1.2%	0.6%	18.5%	39.9%	9.5%	42.3%	0.0%	3.0%	129.8%
60歳代 (n=228)	回答数	22	17	6	6	32	74	25	98	5	15	300
	回答率	9.6%	7.5%	2.6%	2.6%	14.0%	32.5%	11.0%	43.0%	2.2%	6.6%	131.6%
70歳以上 (n=205)	回答数	10	13	3	6	31	68	30	79	2	28	270
	回答率	4.9%	6.3%	1.5%	2.9%	15.1%	33.2%	14.6%	38.5%	1.0%	13.7%	131.7%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、項目別には多少の変化があるが、全体的には大きな変化はない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が5項目となっている。

増加項目では、「わからない」が1.3%、「独自の文化や保存、伝承が図られていない」が1.1%増加している。

減少項目では、「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」が5.0%、「結婚問題での周囲の反対」が1.8%、「住宅、生活環境など生活水準が低い」が1.1%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
わからない	41.2%	39.9%	1.3%
独自の文化や保存、伝承が図られていない	15.0%	13.9%	1.1%
差別的な言動(インターネットを悪用した差別的な書き込みを含む)	9.3%	8.7%	0.6%
就職・職場での差別・不利な扱い	6.3%	6.7%	-0.4%
特に問題だと思うことはない	9.4%	10.0%	-0.6%
住宅、生活環境など生活水準が低い	2.1%	3.2%	-1.1%
結婚問題での周囲の反対	2.2%	4.0%	-1.8%
アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと	36.4%	41.4%	-5.0%
その他	1.3%	1.5%	-0.2%
無回答	6.1%	4.7%	1.4%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである

- ・アイヌの人々が差別されているなんて知りませんでした
- ・そもそも差別があると思っていない
- ・同じ人間だと思っているから自分として関心は薄い
- ・アイヌを利用する在日外国人がいること
- ・アイヌの人権問題と意識させることが問題

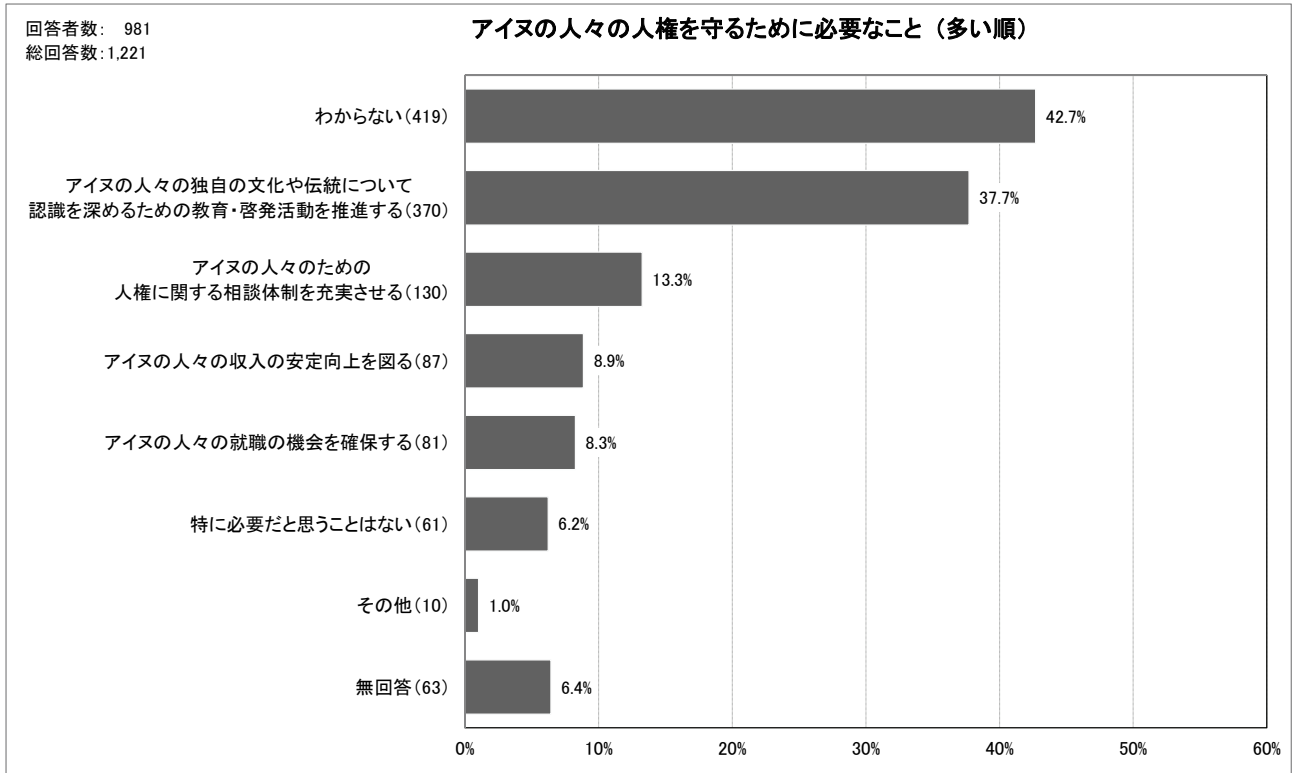
等

8-3 アイヌの人々の人権を守るために必要なこと

問29. アイヌの人々の人権を守るために、特にどのようなことが必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

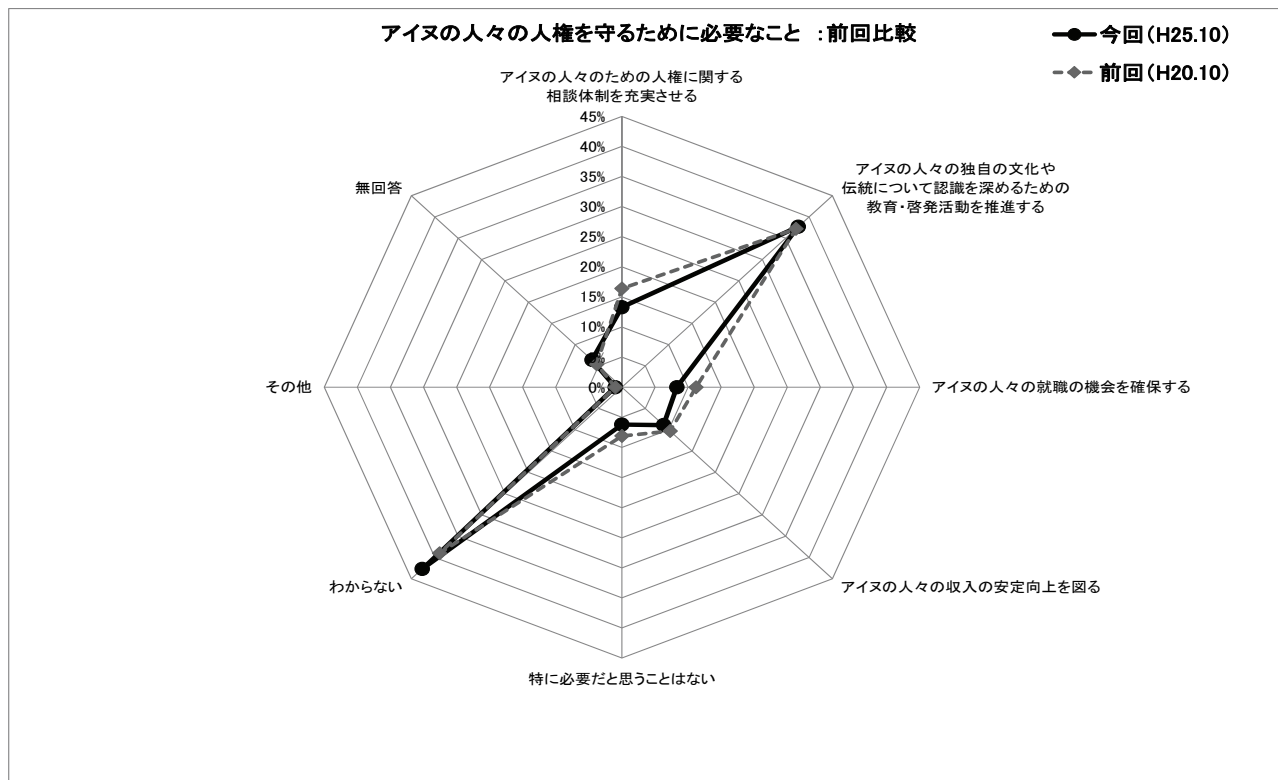
【全体】

◆全体では、「わからない」が42.7%と最も多く、次いで「アイヌの人々の独自の文化や伝統について認識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が37.7%、「アイヌの人々のための人権に関する相談体制を充実させる」が13.3%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が4項目となっている。

増加項目では、「わからない」が3.7%増加している。

減少項目では、「アイヌの人々のための人権に関する相談体制を充実させる」が3.1%、「アイヌの人々の就職の機会を確保する」が2.9%、「特に必要だと思うことはない」が1.9%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
わからない	42.7%	39.0%	3.7%
アイヌの人々の独自の文化や伝統について認識を深めるための教育・啓発活動を推進する	37.7%	37.2%	0.5%
アイヌの人々の収入の安定向上を図る	8.9%	10.3%	-1.4%
特に必要だと思うことはない	6.2%	8.1%	-1.9%
アイヌの人々の就職の機会を確保する	8.3%	11.2%	-2.9%
アイヌの人々のための人権に関する相談体制を充実させる	13.3%	16.4%	-3.1%
その他	1.0%	1.0%	0.0%
無回答	6.4%	5.4%	1.0%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・アイヌの人々も日本の祖先であり、その文化を守ってきた人たちであると尊敬する教育を行う
 - ・周りにそのような人がおらず、問題になっていることを知らない
 - ・差別されるようなことがあるのか分からない(悪いイメージがない)
 - ・何々人と区別しない、すべての人類は平等であることを忘れないことだと思う
 - ・～の人権がどうのこうのと言っていること、そういう人がいること自体が問題
- 等

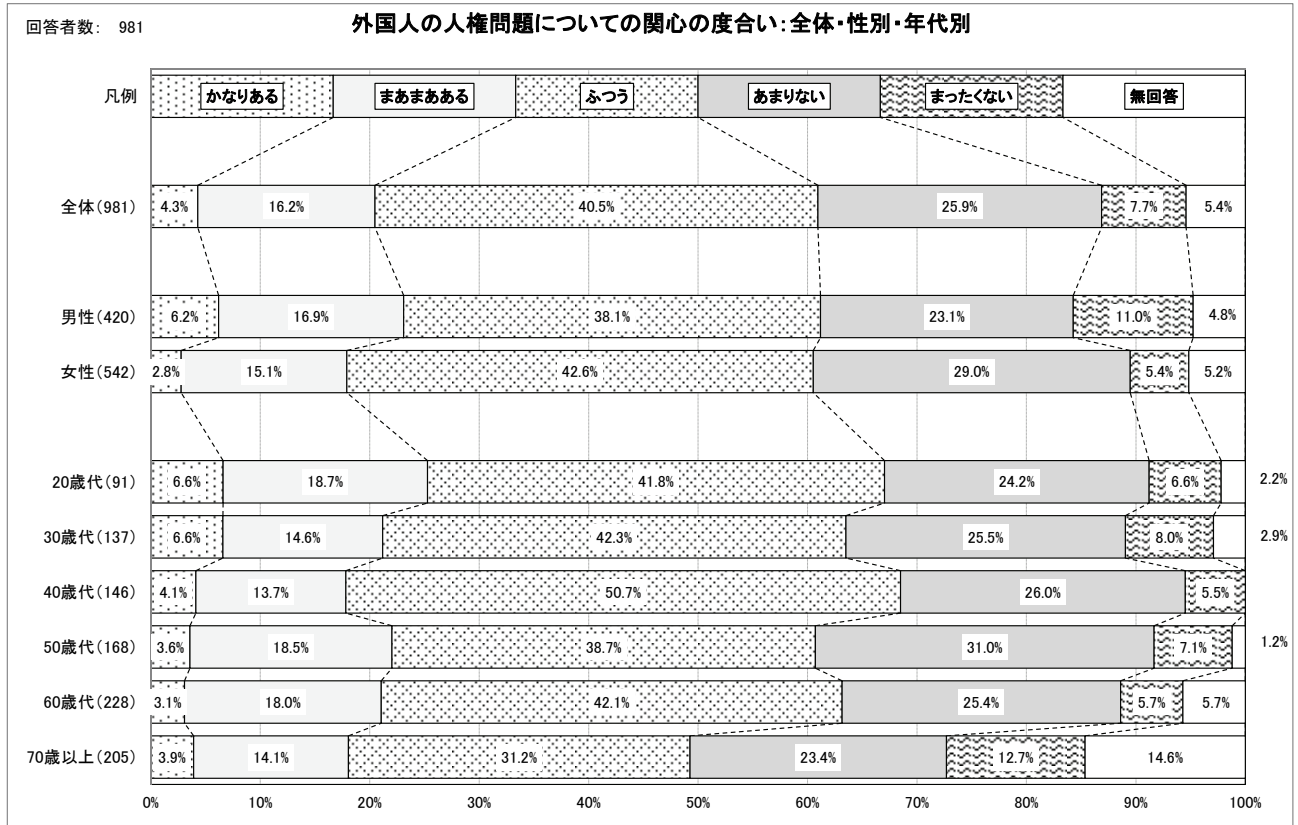
9 外国人の人権について

9-1 外国人の人権問題についての関心の度合い

問30. 外国人の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

◆全体、性別、年代別ともに「ふつう」が最も多くなっている。



【前回との差】

◆前回との差をみると、「ふつう」が4.4%減少し、「あまりない」が1.6%増加しているが、全体的には大きな変化はない。

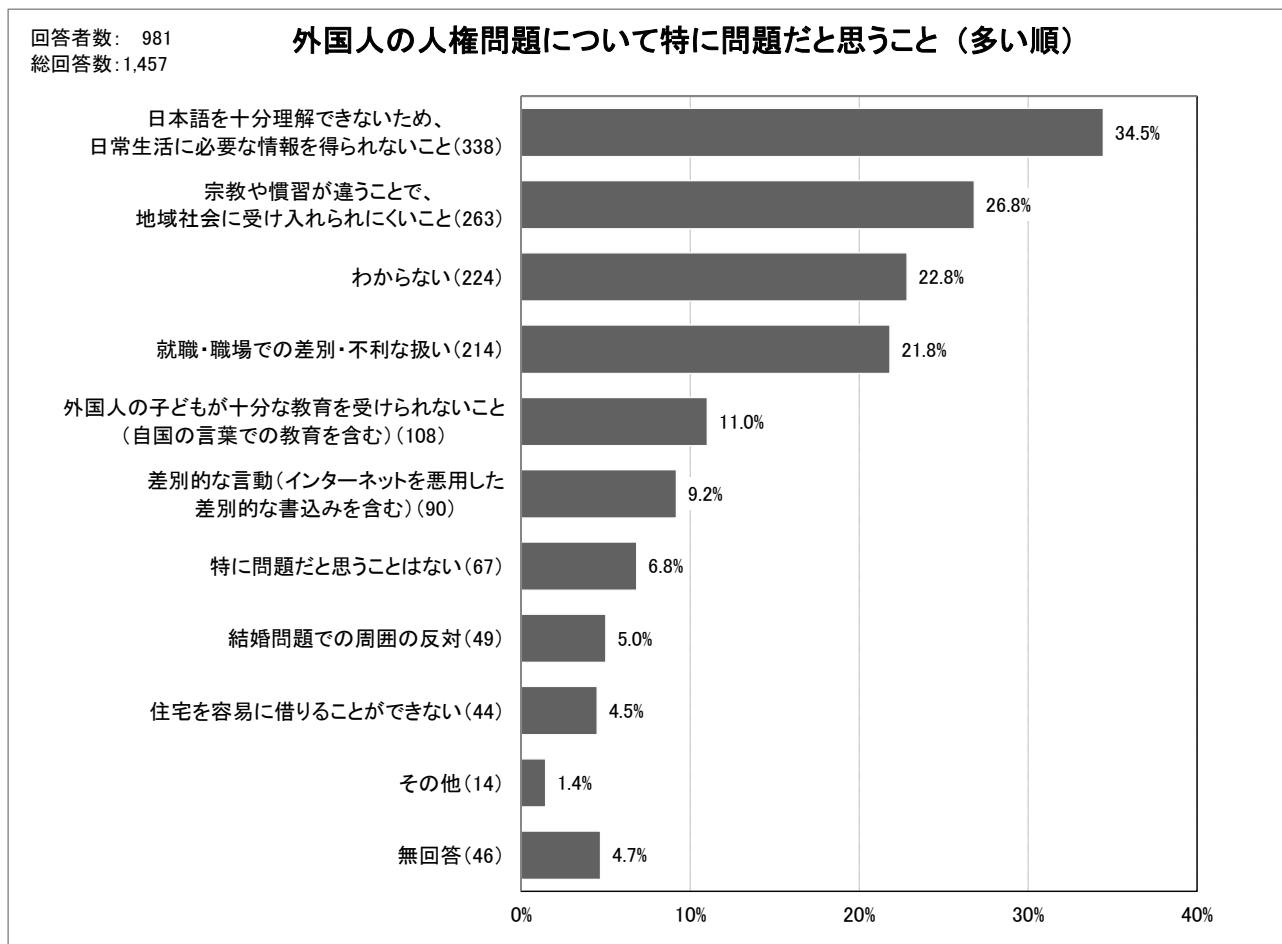
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	4.3%	4.7%	-0.4%
2	まあまあある	16.2%	15.6%	0.6%
3	ふつう	40.5%	44.9%	-4.4%
4	あまりない	25.9%	24.3%	1.6%
5	まったくない	7.7%	6.6%	1.1%
6	無回答	5.4%	3.9%	1.5%

9-2 外国人の人権問題について特に問題だと思うこと

問31. 外国人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

【全体】

- ◆全体では、「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと」が34.5%と最も多く、次いで「宗教や慣習が違うことで、地域社会に受け入れられにくいこと」が26.8%、「わからない」が22.8%となっている。



【性・年代別】

- ◆性別で見ると、男性、女性ともに「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと」が最も多くなっている。

「宗教や慣習が違うことで、地域社会に受け入れられにくいこと」では、男性が1.4%高く、「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと」では、女性が6.6%高くなっている。

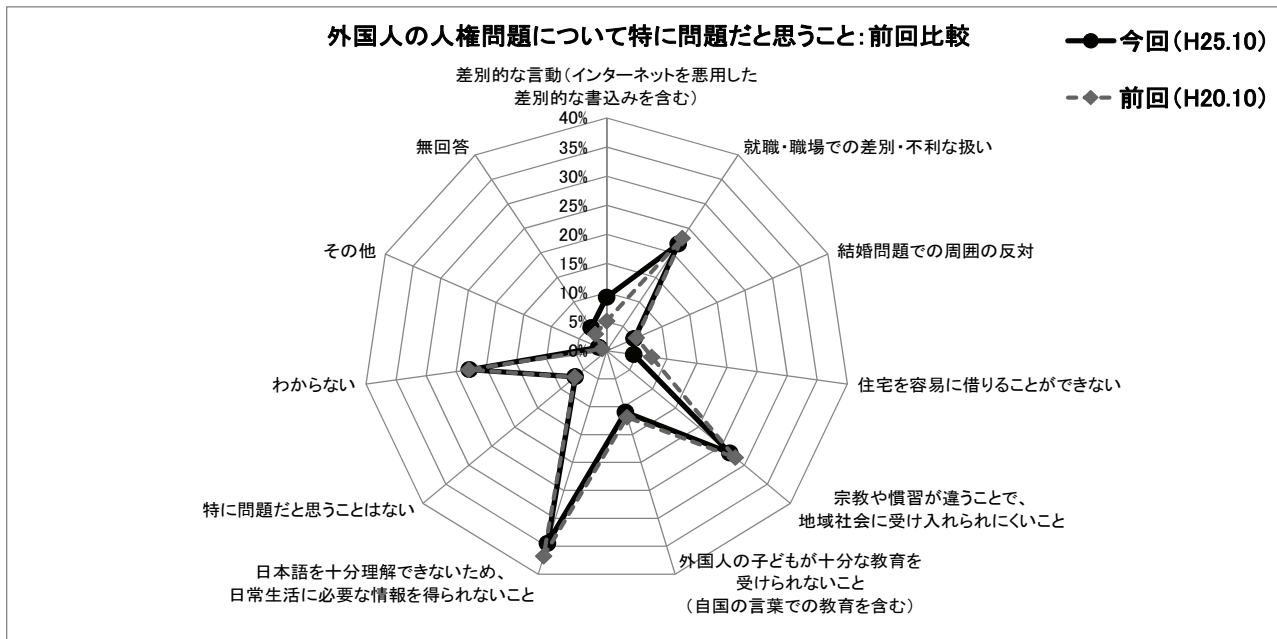
- ◆年代別にみると、70歳以上を除き「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと」、次いで70歳以上を除き「宗教や慣習が違うことで、地域社会に受け入れられにくいこと」となっている。70歳以上では「わからない」が最も多く、次いで「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと」となっている。

項目	区分	差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書き込みを含む）	就職・職場での差別・不利な扱い	結婚問題での周囲の反対	住宅を容易に借りることができない	宗教や慣習が違ってくることで、地域社会に受け入れられにくいこと	外国人の子どもが十分な教育を受けられないこと（自国の言葉での教育を含む）	日常生活に十分な理解できないため、いこと	特に問題だと思わない	わからない	その他	無回答	総回答
全体 (n=981)	回答数	90	214	49	44	263	108	338	67	224	14	46	1,457
	回答率	9.2%	21.8%	5.0%	4.5%	26.8%	11.0%	34.5%	6.8%	22.8%	1.4%	4.7%	148.5%
男性 (n=420)	回答数	40	94	21	19	116	46	128	39	97	9	16	625
	回答率	9.5%	22.4%	5.0%	4.5%	27.6%	11.0%	30.5%	9.3%	23.1%	2.1%	3.8%	148.8%
女性 (n=542)	回答数	50	116	26	23	142	61	201	27	125	5	27	803
	回答率	9.2%	21.4%	4.8%	4.2%	26.2%	11.3%	37.1%	5.0%	23.1%	0.9%	5.0%	148.2%
20歳代 (n=91)	回答数	12	21	5	7	25	15	32	10	9	2	2	140
	回答率	13.2%	23.1%	5.5%	7.7%	27.5%	16.5%	35.2%	11.0%	9.9%	2.2%	2.2%	153.8%
30歳代 (n=137)	回答数	14	39	9	11	41	14	45	7	25	3	3	211
	回答率	10.2%	28.5%	6.6%	8.0%	29.9%	10.2%	32.8%	5.1%	18.2%	2.2%	2.2%	154.0%
40歳代 (n=146)	回答数	19	30	5	7	47	12	57	7	27	2	2	215
	回答率	13.0%	20.5%	3.4%	4.8%	32.2%	8.2%	39.0%	4.8%	18.5%	1.4%	1.4%	147.3%
50歳代 (n=168)	回答数	13	39	6	6	49	22	58	8	42	3	1	247
	回答率	7.7%	23.2%	3.6%	3.6%	29.2%	13.1%	34.5%	4.8%	25.0%	1.8%	0.6%	147.0%
60歳代 (n=228)	回答数	23	56	16	8	63	25	84	8	52	3	10	348
	回答率	10.1%	24.6%	7.0%	3.5%	27.6%	11.0%	36.8%	3.5%	22.8%	1.3%	4.4%	152.6%
70歳以上 (n=205)	回答数	8	27	8	4	37	19	60	27	69	1	26	286
	回答率	3.9%	13.2%	3.9%	2.0%	18.0%	9.3%	29.3%	13.2%	33.7%	0.5%	12.7%	139.5%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、項目別には多少の変化があるが、全体的には大きな変化はない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が1項目、減少した項目が8項目となっている。

増加項目では、「差別的な言動 (インターネットを悪用した差別的な書き込みを含む)」が4.1%増加している。

減少項目では、「住宅を容易に借りることができない」が3.0%、「日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと」が2.3%、「就職・職場での差別・不利な扱い」が1.2%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
差別的な言動 (インターネットを悪用した差別的な書き込みを含む)	9.2%	5.1%	4.1%
特に問題だと思うことはない	6.8%	6.9%	-0.1%
わからない	22.8%	22.9%	-0.1%
結婚問題での周囲の反対	5.0%	5.4%	-0.4%
外国人の子どもが十分な教育を受けられないこと (自国の言葉での教育を含む)	11.0%	11.9%	-0.9%
宗教や慣習が違うことで、地域社会に受け入れられにくいこと	26.8%	28.0%	-1.2%
就職・職場での差別・不利な扱い	21.8%	23.0%	-1.2%
日本語を十分理解できないため、日常生活に必要な情報を得られないこと	34.5%	36.8%	-2.3%
住宅を容易に借りることができない	4.5%	7.5%	-3.0%
その他	1.4%	0.8%	0.6%
無回答	4.7%	3.4%	1.3%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

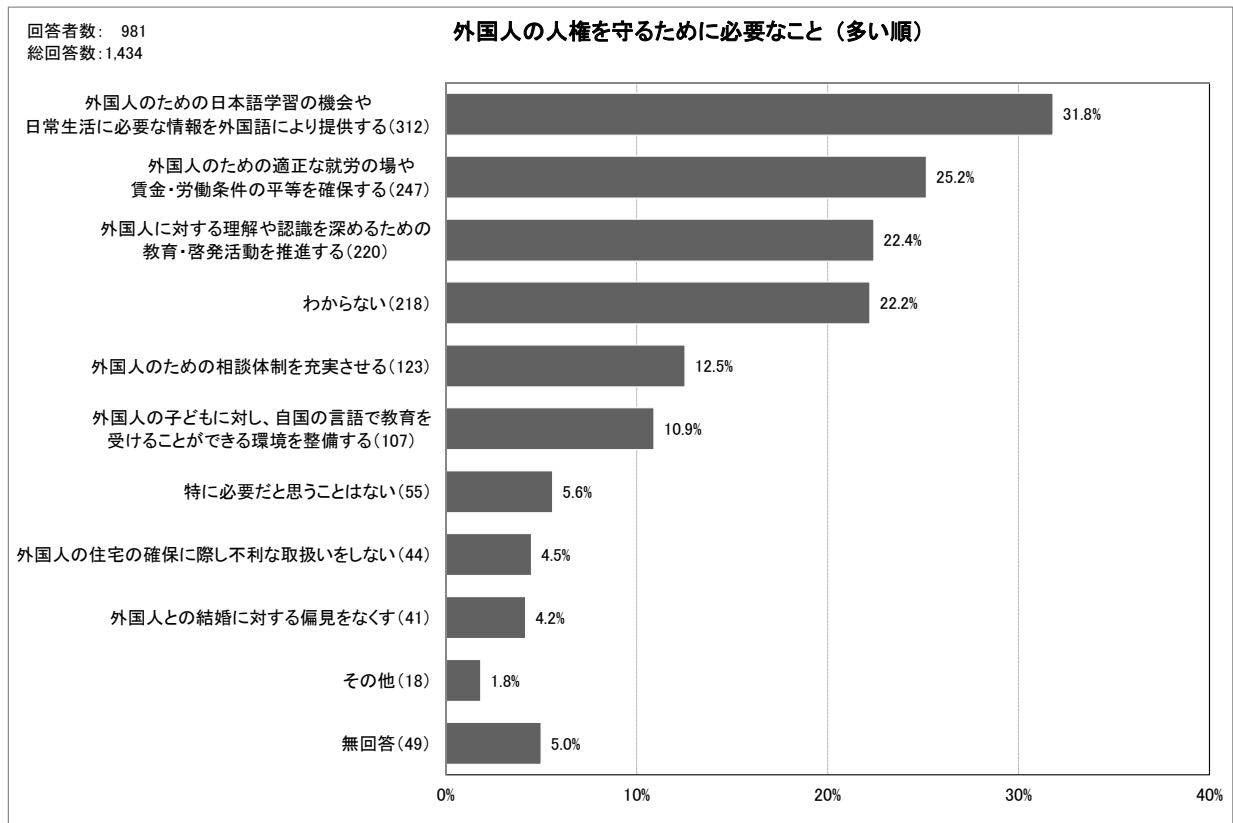
- ・ 医療・福祉のサービスを受けられる人の基準が高いと思う
- ・ 出身国によって対応が違ってくるのでは？
- ・ 差別はだめだが、区別は必要
- ・ 自分は人を差別してみないので、そうする人のことが分かりません
- ・ 欧米人と東洋人では大いに違いがあると思います 等

9-3 外国人の人権を守るために必要なこと

問32. 外国人の人権を守るために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

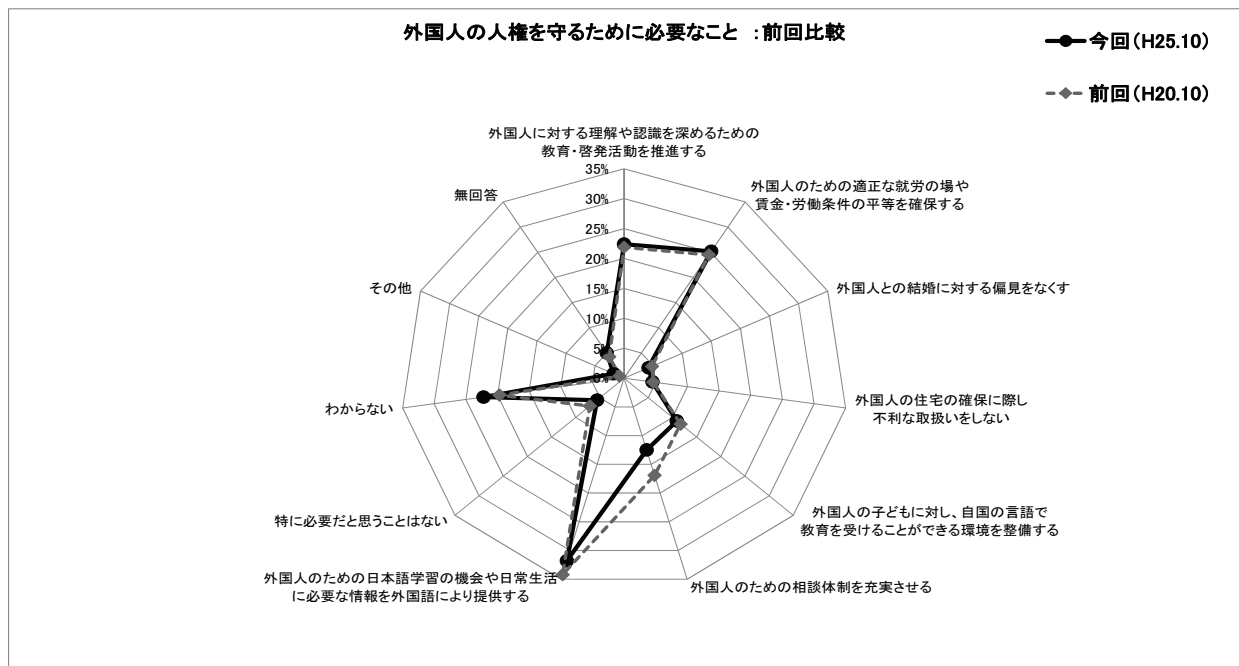
【全体】

◆全体では、「外国人のための日本語学習の機会や日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が31.8%と最も多く、次いで「外国人のための適正な就労の場や賃金・労働条件の平等を確保する」が25.2%、「外国人に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が22.4%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「わからない」が2.5%、「外国人のための適正な就労の場や賃金・労働条件の平等を確保する」が0.7%増加している。

減少項目では、「外国人のための相談体制を充実させる」が4.4%、「外国人のための日本語学習の機会や日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が2.4%、「特に必要だと思うことはない」が1.5%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
わからない	22.2%	19.7%	2.5%
外国人のための適正な就労の場や賃金・労働条件の平等を確保する	25.2%	24.5%	0.7%
外国人に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する	22.4%	21.9%	0.5%
外国人の住宅の確保に際し不利な取扱いをしない	4.5%	4.6%	-0.1%
外国人との結婚に対する偏見をなくす	4.2%	4.8%	-0.6%
外国人の子どもに対し、自国の言語で教育を受けることができる環境を整備する	10.9%	11.7%	-0.8%
特に必要だと思うことはない	5.6%	7.1%	-1.5%
外国人のための日本語学習の機会や日常生活に必要な情報を外国語により提供する	31.8%	34.2%	-2.4%
外国人のための相談体制を充実させる	12.5%	16.9%	-4.4%
その他	1.8%	0.8%	1.0%
無回答	5.0%	4.3%	0.7%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・外国人に日本についての理解や認識を深めるための教育
- ・交流の機会を増やし、相互理解の場とする
- ・外国に住むために必要な語学は最低限自分で準備すべき
- ・外国人自身が、日本をもっと理解してから来日すべき
- ・普通に付き合えばいい 等

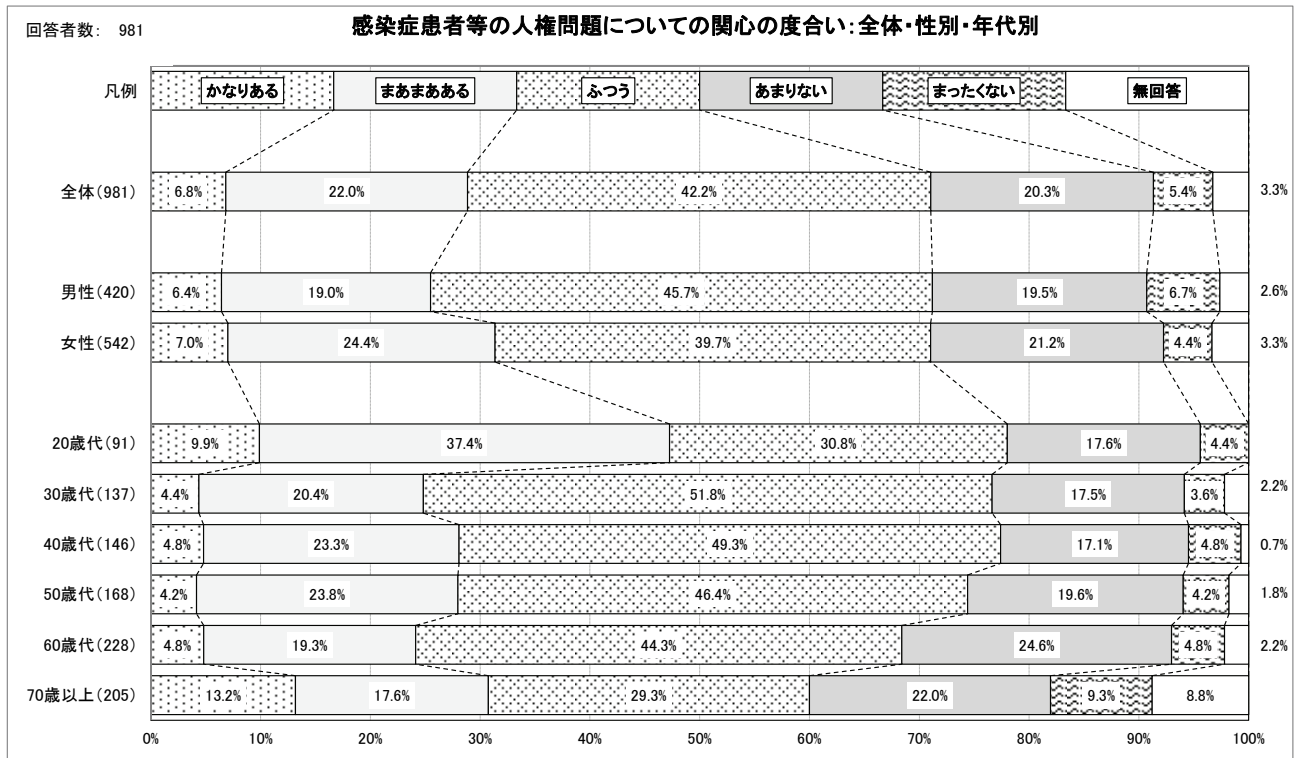
10 感染症患者等(エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者)の人権について

10-1 感染症患者等の人権問題についての関心の度合い

問33. 感染症患者等の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

- ◆全体、性別、年代別では20歳代を除き「ふつう」が最も多くなっている。20歳代は「まあまあある」が最も多くなっている。



【前回との差】

- ◆前回との差をみると、「まあまあある」が3.7%減少し、「あまりない」が5.8%増加しているが、全体的には大きな変化はない。

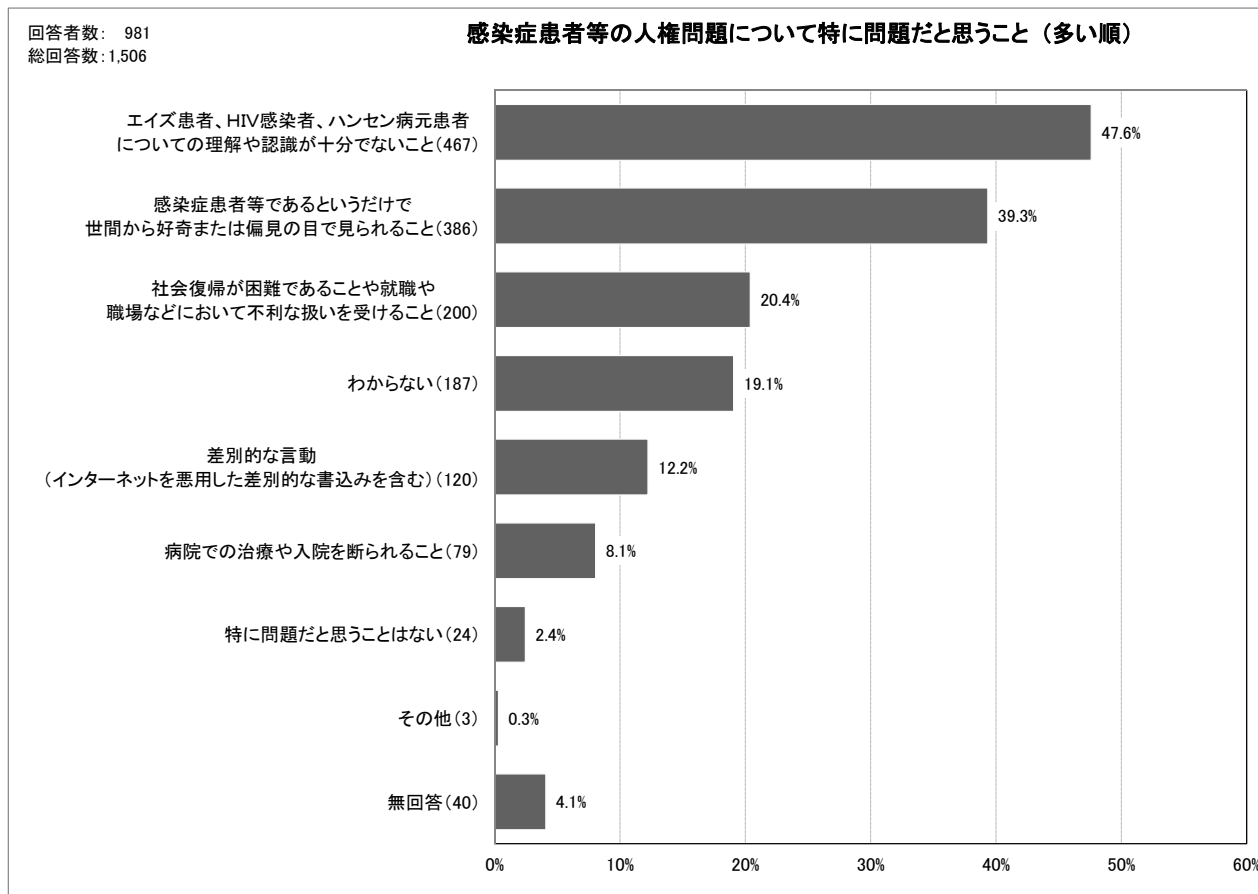
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	6.8%	7.8%	-1.0%
2	まあまあある	22.0%	25.7%	-3.7%
3	ふつう	42.2%	43.8%	-1.6%
4	あまりない	20.3%	14.5%	5.8%
5	まったくない	5.4%	4.0%	1.4%
6	無回答	3.3%	4.1%	-0.8%

10-2 感染症患者等の人権問題について特に問題だと思うこと

問34. 感染症患者等の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(〇は2つまで)

【全体】

- ◆全体では、「エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者についての理解や認識が十分でないこと」が47.6%と最も多く、次いで「感染症患者等であるというだけで世間から好奇または偏見の目で見られること」が39.3%、「社会復帰が困難であることや就職や職場などにおいて不利な扱いを受けること」が20.4%となっている。



【性・年代別】

- ◆性別で見ると、男性、女性ともに「エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者についての理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっている。

「エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者についての理解や認識が十分でないこと」では、男性が1.3%高く、「社会復帰が困難であることや就職や職場などにおいて不利な扱いを受けること」では、女性が2.1%高くなっている。

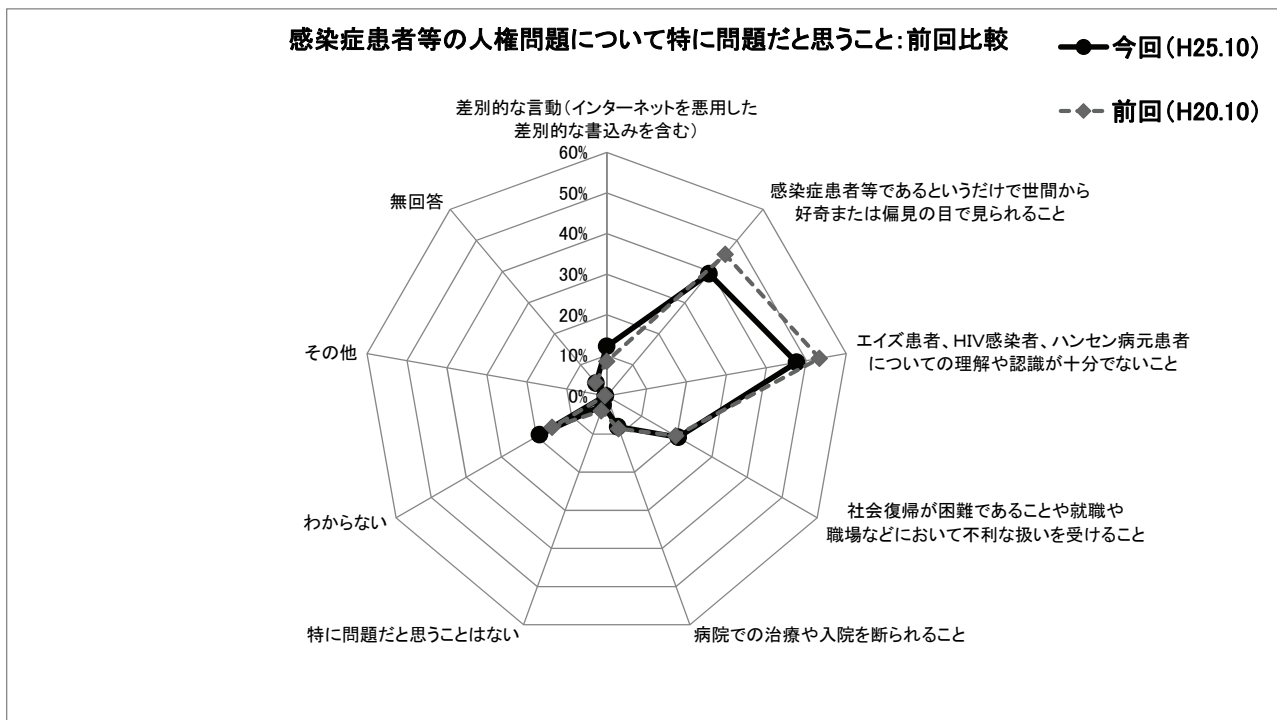
- ◆年代別にみると、すべての年代で「エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者についての理解や認識が十分でないこと」が最も多く、次いで70歳以上を除き「感染症患者等であるというだけで世間から好奇または偏見の目で見られること」となっている。70歳以上では「わからない」となっている。

項目	区分	用差別的な言動（インタビューを悪 用した差別的な書き込みを含む）	間から好奇心または偏見の目で見られ ること	感染症患者等であるというだけで世 間から好奇または偏見の目で見られ ること	エイズ患者、HIV感染者、ハンセ ン病元患者についての理解や認識が 十分でないこと	職場などにおいて不利な扱いを受け ること	社会復帰が困難であることや就職や 職場などにおいて不利な扱いを受け ること	病院での治療や入院を断られること	特に問題だと思ふことはない	わからない	その他	無回答	総回答
全体 (n=981)	回答数	120	386	467	200	79	24	187	3	40	1,506		
	回答率	12.2%	39.3%	47.6%	20.4%	8.1%	2.4%	19.1%	0.3%	4.1%	153.5%		
男性 (n=420)	回答数	52	169	203	81	30	13	72	3	17	640		
	回答率	12.4%	40.2%	48.3%	19.3%	7.1%	3.1%	17.1%	0.7%	4.0%	152.4%		
女性 (n=542)	回答数	66	212	255	116	49	11	112	0	18	839		
	回答率	12.2%	39.1%	47.0%	21.4%	9.0%	2.0%	20.7%	0.0%	3.3%	154.8%		
20歳代 (n=91)	回答数	22	39	48	17	13	3	7	0	2	151		
	回答率	24.2%	42.9%	52.7%	18.7%	14.3%	3.3%	7.7%	0.0%	2.2%	165.9%		
30歳代 (n=137)	回答数	17	61	73	30	13	4	16	1	3	218		
	回答率	12.4%	44.5%	53.3%	21.9%	9.5%	2.9%	11.7%	0.7%	2.2%	159.1%		
40歳代 (n=146)	回答数	19	57	81	32	13	1	21	0	2	226		
	回答率	13.0%	39.0%	55.5%	21.9%	8.9%	0.7%	14.4%	0.0%	1.4%	154.8%		
50歳代 (n=168)	回答数	20	79	88	35	8	3	29	1	4	267		
	回答率	11.9%	47.0%	52.4%	20.8%	4.8%	1.8%	17.3%	0.6%	2.4%	158.9%		
60歳代 (n=228)	回答数	24	94	106	43	19	5	44	1	6	342		
	回答率	10.5%	41.2%	46.5%	18.9%	8.3%	2.2%	19.3%	0.4%	2.6%	150.0%		
70歳以上 (n=205)	回答数	18	55	68	42	12	8	70	0	21	294		
	回答率	8.8%	26.8%	33.2%	20.5%	5.9%	3.9%	34.1%	0.0%	10.2%	143.4%		

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示（無回答は除く）

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、項目別には多少の変化があるが、全体的には大きな変化はない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が4項目となっている。

増加項目では、「差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書込みを含む）」が3.7%、「わからない」が3.6%増加している。

減少項目では、「感染症患者等であるというだけで世間から好奇または偏見の目で見られること」が6.2%、「エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者についての理解や認識が十分でないこと」が5.7%、「特に問題だと思うことはない」が1.5%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書込みを含む）	12.2%	8.5%	3.7%
わからない	19.1%	15.5%	3.6%
社会復帰が困難であることや就職や職場などにおいて不利な扱いを受けること	20.4%	19.7%	0.7%
病院での治療や入院を断られること	8.1%	8.6%	-0.5%
特に問題だと思うことはない	2.4%	3.9%	-1.5%
エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者についての理解や認識が十分でないこと	47.6%	53.3%	-5.7%
感染症患者等であるというだけで世間から好奇または偏見の目で見られること	39.3%	45.5%	-6.2%
その他	0.3%	0.4%	-0.1%
無回答	4.1%	4.3%	-0.2%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

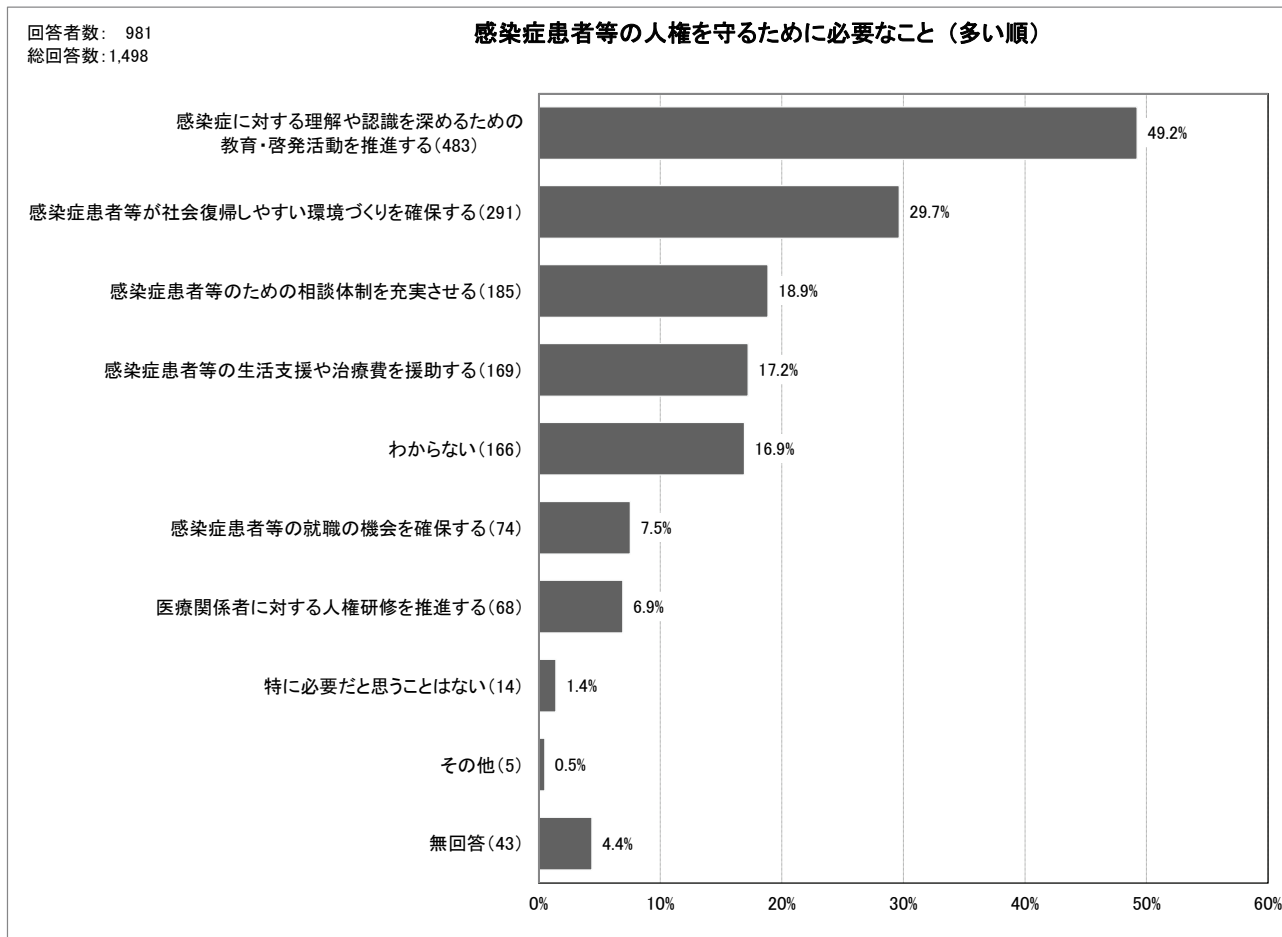
- ・エイズ・HIVとハンセン病とは全然違う 等

10-3 感染症患者等の人権を守るために必要なこと

問35. 感染症患者等の人権を守るために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

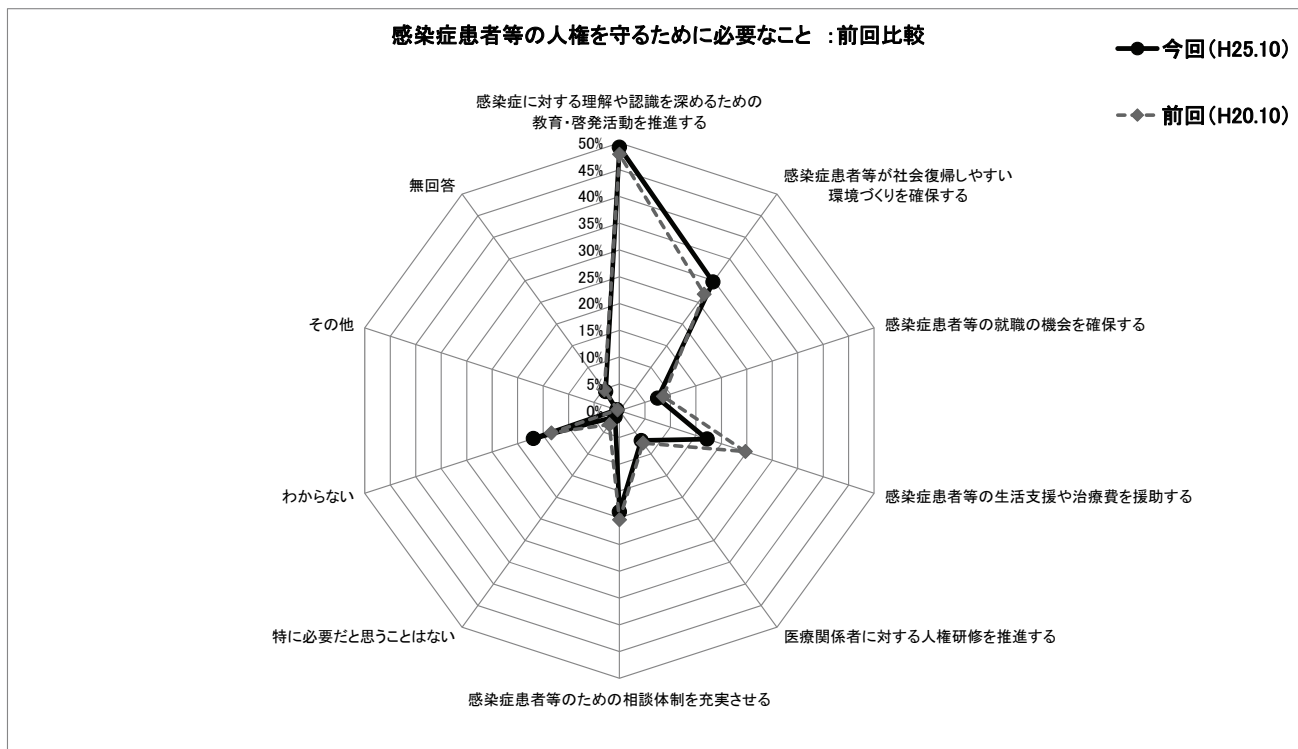
【全体】

◆全体では、「感染症に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が49.2%と最も多く、次いで「感染症患者等が社会復帰しやすい環境づくりを確保する」が29.7%、「感染症患者等のための相談体制を充実させる」が18.9%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が5項目となっている。

増加項目では、「わからない」が3.5%、「感染症患者等が社会復帰しやすい環境づくりを確保する」が2.8%増加している。

減少項目では、「感染症患者等の生活支援や治療費を援助する」が7.5%、「特に必要だと思うことはない」が1.8%、「感染症患者等のための相談体制を充実させる」が1.5%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
わからない	16.9%	13.4%	3.5%
感染症患者等が社会復帰しやすい環境づくりを確保する	29.7%	26.9%	2.8%
感染症に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する	49.2%	47.9%	1.3%
医療関係者に対する人権研修を推進する	6.9%	7.5%	-0.6%
感染症患者等の就職の機会を確保する	7.5%	8.6%	-1.1%
感染症患者等のための相談体制を充実させる	18.9%	20.4%	-1.5%
特に必要だと思うことはない	1.4%	3.2%	-1.8%
感染症患者等の生活支援や治療費を援助する	17.2%	24.7%	-7.5%
その他	0.5%	0.4%	0.1%
無回答	4.4%	4.8%	-0.4%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・ 知らなければそれですぎるのでは
- ・ エイズの人は自己責任があると思う
- ・ 患者一人一人が強い心で頑張るしかない 等

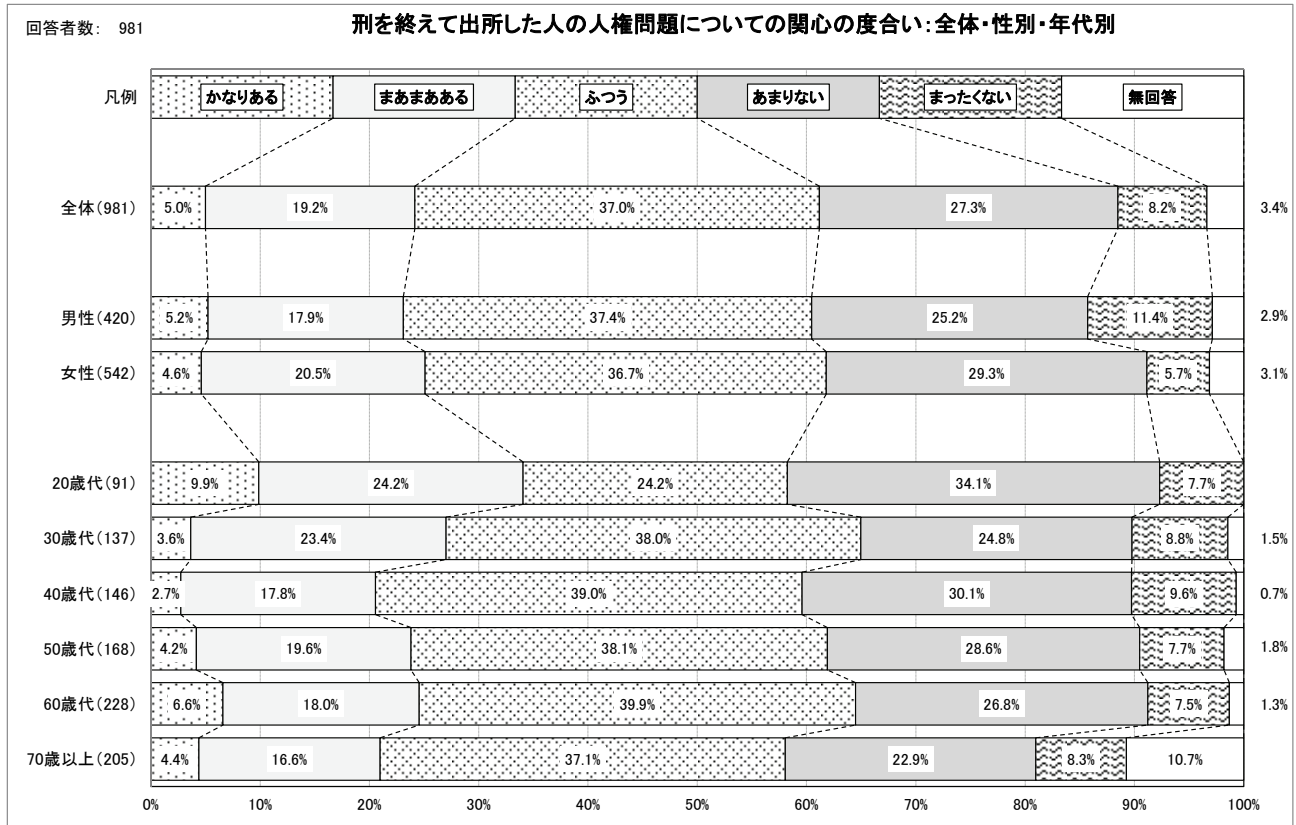
11 刑を終えて出所した人の人権について

11-1 刑を終えて出所した人の人権問題についての関心の度合い

問36. 刑を終えて出所した人の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

◆全体、性別、年代別では20歳代を除き「ふつう」が最も多くなっている。20歳代は「あまりない」が最も多くなっている。



【前回との差】

◆前回との差をみると、「ふつう」が5.6%減少し、「まあまあある」が4.0%増加しているが、全体的には大きな変化はない。

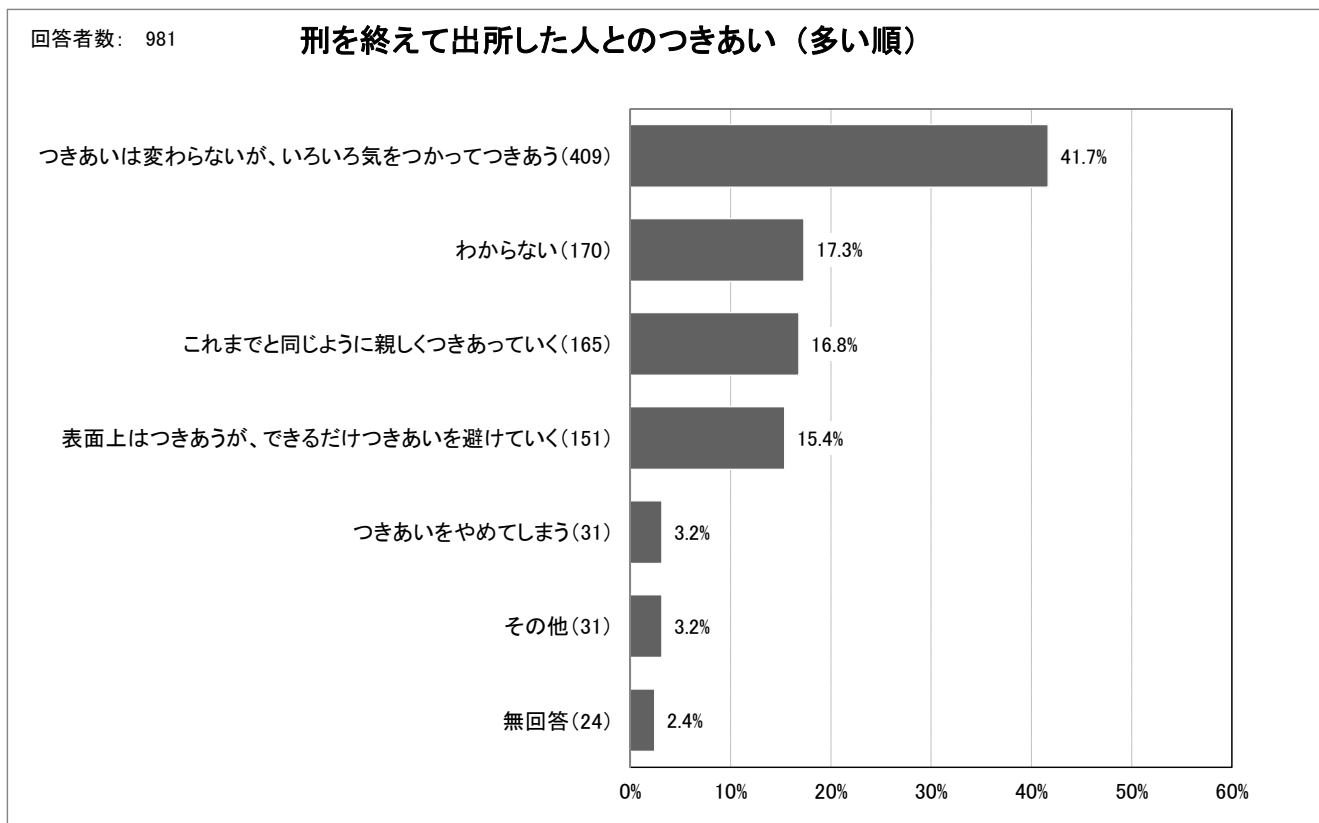
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	5.0%	6.8%	-1.8%
2	まあまあある	19.2%	15.2%	4.0%
3	ふつう	37.0%	42.6%	-5.6%
4	あまりない	27.3%	24.5%	2.8%
5	まったくない	8.2%	7.0%	1.2%
6	無回答	3.4%	3.9%	-0.5%

1 1 - 2 刑を終えて出所した人とのつきあい

問 3 7 . 日頃から親しくつきあっている職場の人や、近所の人を刑を終えて出所した人であるとわかったとき、どうしますか。(〇は1つ)

【全体】

- ◆全体では、「つきあいは変わらないが、いろいろ気をつけてつきあう」が41.7%と最も多く、次いで「わからない」が17.3%、「これまでと同じように親しくつきあっていく」が16.8%となっている。



【性・年代別】

- ◆性別で見ると、男性、女性ともに「つきあいは変わらないが、いろいろ気をつけてつきあう」が最も多くなっている。

「これまでと同じように親しくつきあっていく」では、男性が6.1%高く、「表面上はつきあうが、できるだけつきあいを避けていく」では、女性が7.1%高くなっている。

- ◆年代別にみると、すべての年代で「つきあいは変わらないが、いろいろ気をつけてつきあう」が最も多くなっている。次いで20歳代、30歳代では「表面上はつきあうが、できるだけつきあいを避けていく」、40歳代では「これまでと同じように親しくつきあっていく」、50歳代、70歳以上では「わからない」となっている。

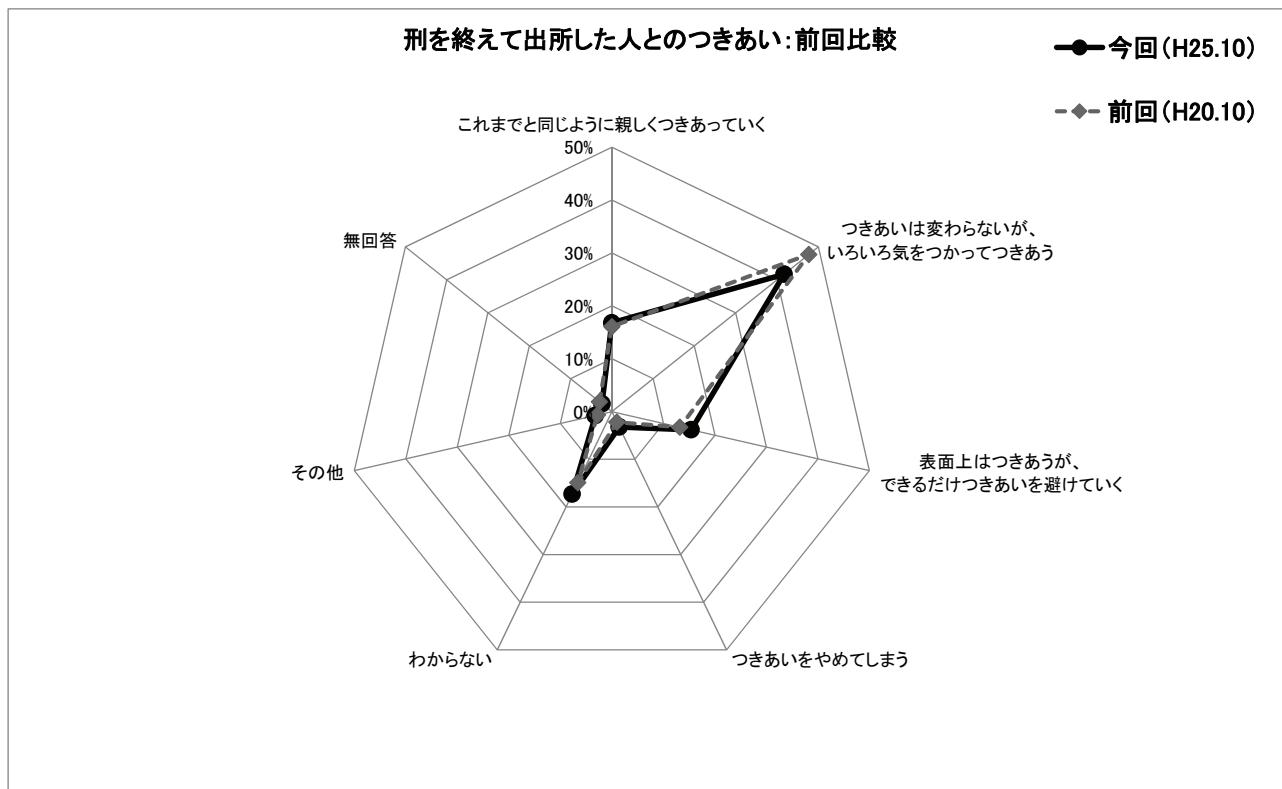
[上段：件、下段：%]

項目	区分	つきあいでと同じように親しく	つきあいは変わらないうい	表面上はつきあうが、できるだけつきあいを避けていく	つきあいをやめてしまう	わからない	その他	無回答	総回答
全体 (n=981)	回答数	165	409	151	31	170	31	24	981
	回答率	16.8%	41.7%	15.4%	3.2%	17.3%	3.2%	2.4%	100.0%
男性 (n=420)	回答数	86	179	48	14	73	11	9	420
	回答率	20.5%	42.6%	11.4%	3.3%	17.4%	2.6%	2.1%	100.0%
女性 (n=542)	回答数	78	222	100	14	96	20	12	542
	回答率	14.4%	41.0%	18.5%	2.6%	17.7%	3.7%	2.2%	100.0%
20歳代 (n=91)	回答数	17	35	23	3	10	3	0	91
	回答率	18.7%	38.5%	25.3%	3.3%	11.0%	3.3%	0.0%	100.0%
30歳代 (n=137)	回答数	22	56	31	7	13	7	1	137
	回答率	16.1%	40.9%	22.6%	5.1%	9.5%	5.1%	0.7%	100.0%
40歳代 (n=146)	回答数	20	72	18	6	18	11	1	146
	回答率	13.7%	49.3%	12.3%	4.1%	12.3%	7.5%	0.7%	100.0%
50歳代 (n=168)	回答数	27	76	23	4	34	1	3	168
	回答率	16.1%	45.2%	13.7%	2.4%	20.2%	0.6%	1.8%	100.0%
60歳代 (n=228)	回答数	45	93	30	5	45	7	3	228
	回答率	19.7%	40.8%	13.2%	2.2%	19.7%	3.1%	1.3%	100.0%
70歳以上 (n=205)	回答数	33	75	26	6	49	2	14	205
	回答率	16.1%	36.6%	12.7%	2.9%	23.9%	1.0%	6.8%	100.0%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、項目別には多少の変化があるが、全体的には大きな変化はない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が1項目となっている。

増加項目では、「わからない」が2.4%、「表面上はつきあうが、できるだけつきあいを避けていく」が2.2%増加している。

減少項目では、「つきあいは変わらないが、いろいろ気をつけてつきあう」が6.0%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
わからない	17.3%	14.9%	2.4%
表面上はつきあうが、できるだけつきあいを避けていく	15.4%	13.2%	2.2%
つきあいをやめてしまう	3.2%	2.2%	1.0%
これまでと同じように親しくつきあっていく	16.8%	16.1%	0.7%
つきあいは変わらないが、いろいろ気をつけてつきあう	41.7%	47.7%	-6.0%
その他	3.2%	2.8%	0.4%
無回答	2.4%	3.0%	-0.6%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

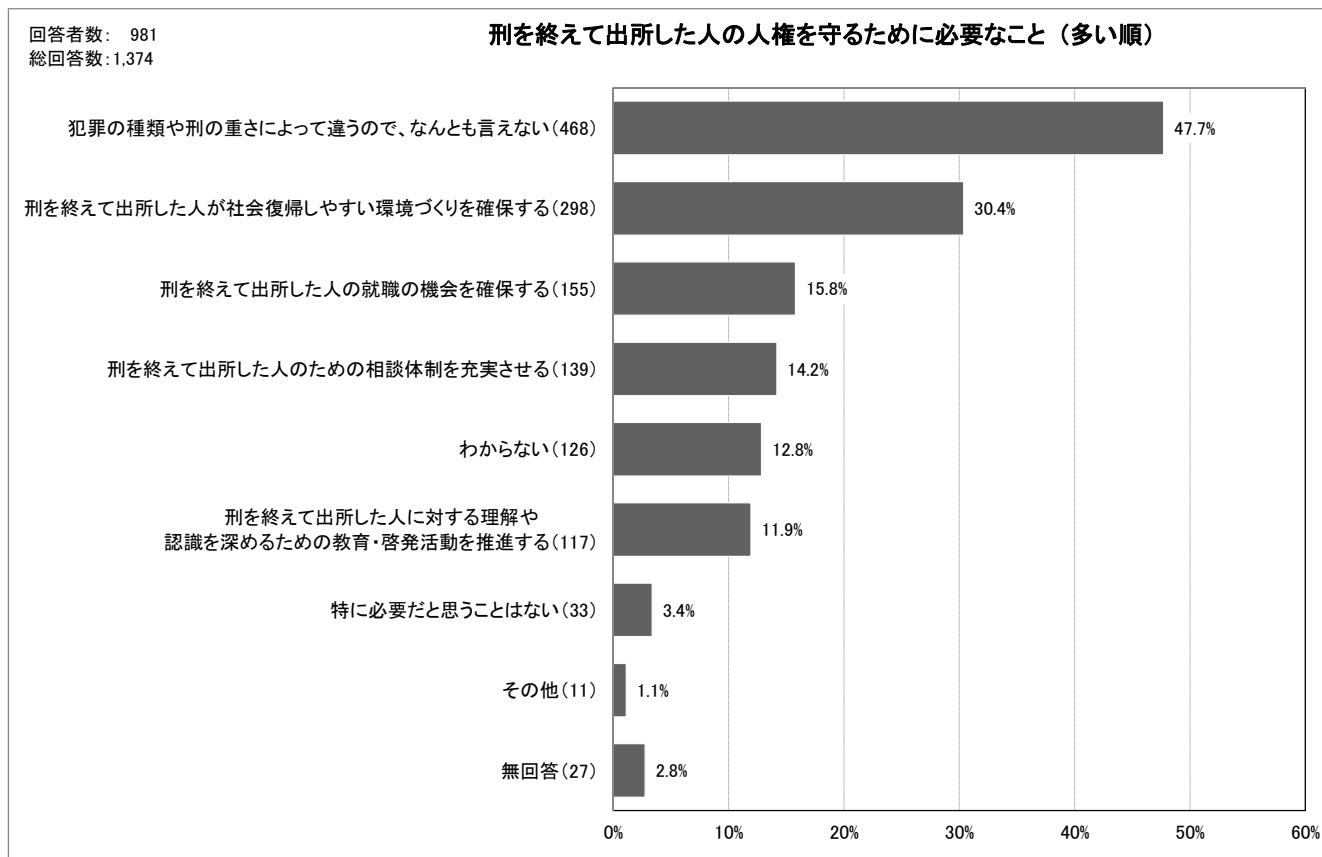
- ・ 犯罪内容による
- ・ 刑やその人が罪を犯してしまった背景による、悪質であれば付き合いはやめる、そうせざるを得ない状況であったならそのまま付き合う
- ・ その人の人柄と罪の種類による
- ・ 重い刑と軽い刑とで違うと思います 等

1 1 - 3 刑を終えて出所した人の人権を守るために必要なこと

問 3 8 . 刑を終えて出所した人の人権を守るために、特にどのようなことが必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

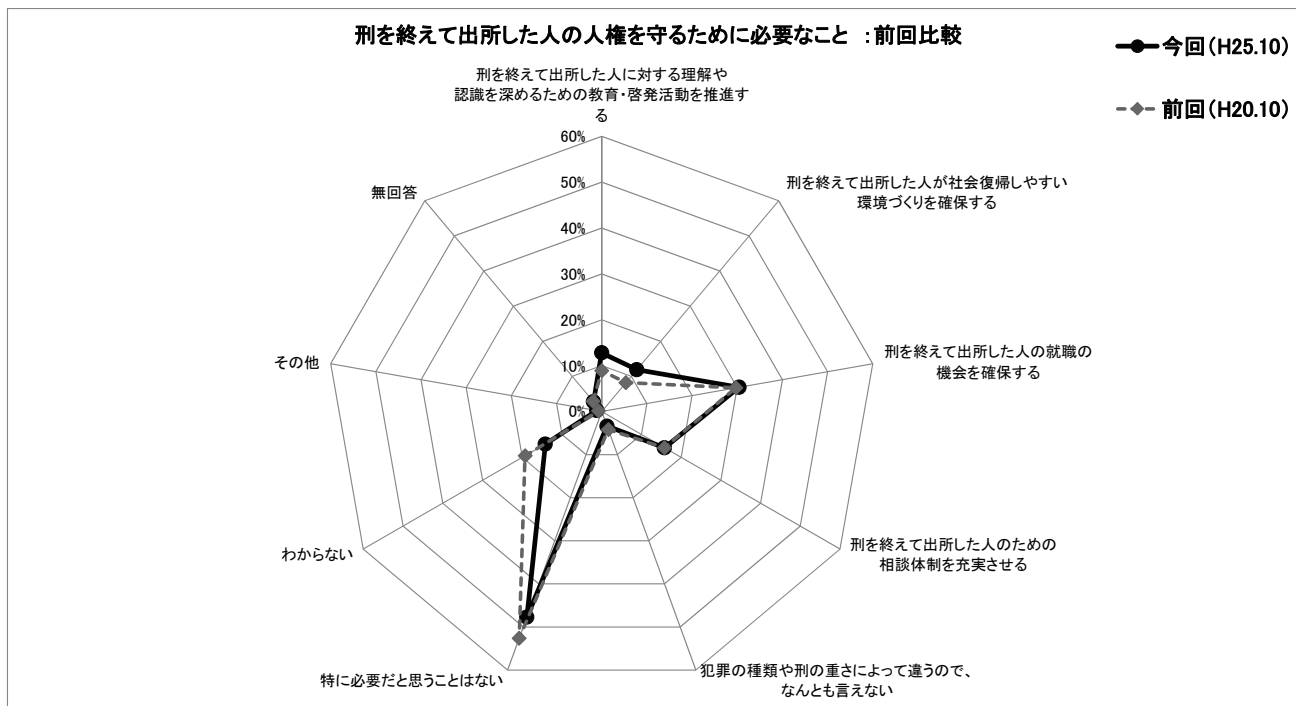
【全体】

◆全体では、「犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない」が47.7%と最も多く、次いで「刑を終えて出所した人が社会復帰しやすい環境づくりを確保する」が30.4%、「刑を終えて出所した人の就職の機会を確保する」が15.8%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が3項目となっている。

増加項目では、「わからない」が3.9%、「刑を終えて出所した人に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する」が3.7%、「刑を終えて出所した人が社会復帰しやすい環境づくりを確保する」が0.7%増加している。

減少項目では、「刑を終えて出所した人のための相談体制を充実させる」が5.1%、「犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない」が4.9%、「特に必要だと思うことはない」が0.8%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
わからない	12.8%	8.9%	3.9%
刑を終えて出所した人に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する	11.9%	8.2%	3.7%
刑を終えて出所した人が社会復帰しやすい環境づくりを確保する	30.4%	29.7%	0.7%
刑を終えて出所した人の就職の機会を確保する	15.8%	15.8%	0.0%
特に必要だと思うことはない	3.4%	4.2%	-0.8%
犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない	47.7%	52.6%	-4.9%
刑を終えて出所した人のための相談体制を充実させる	14.2%	19.3%	-5.1%
その他	1.1%	0.7%	0.4%
無回答	2.8%	2.9%	-0.1%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・ 刑を終えた人は正々堂々としてほしい
 - ・ 犯罪者の人権より被害者の人権を守るべき
 - ・ 刑を犯した人を一生見守る、放置しないでほしい、再犯者もたくさんいる
 - ・ 正しい判決をすれば正しい周囲の反応になると思う、判決の制度を飛躍させる
- 等

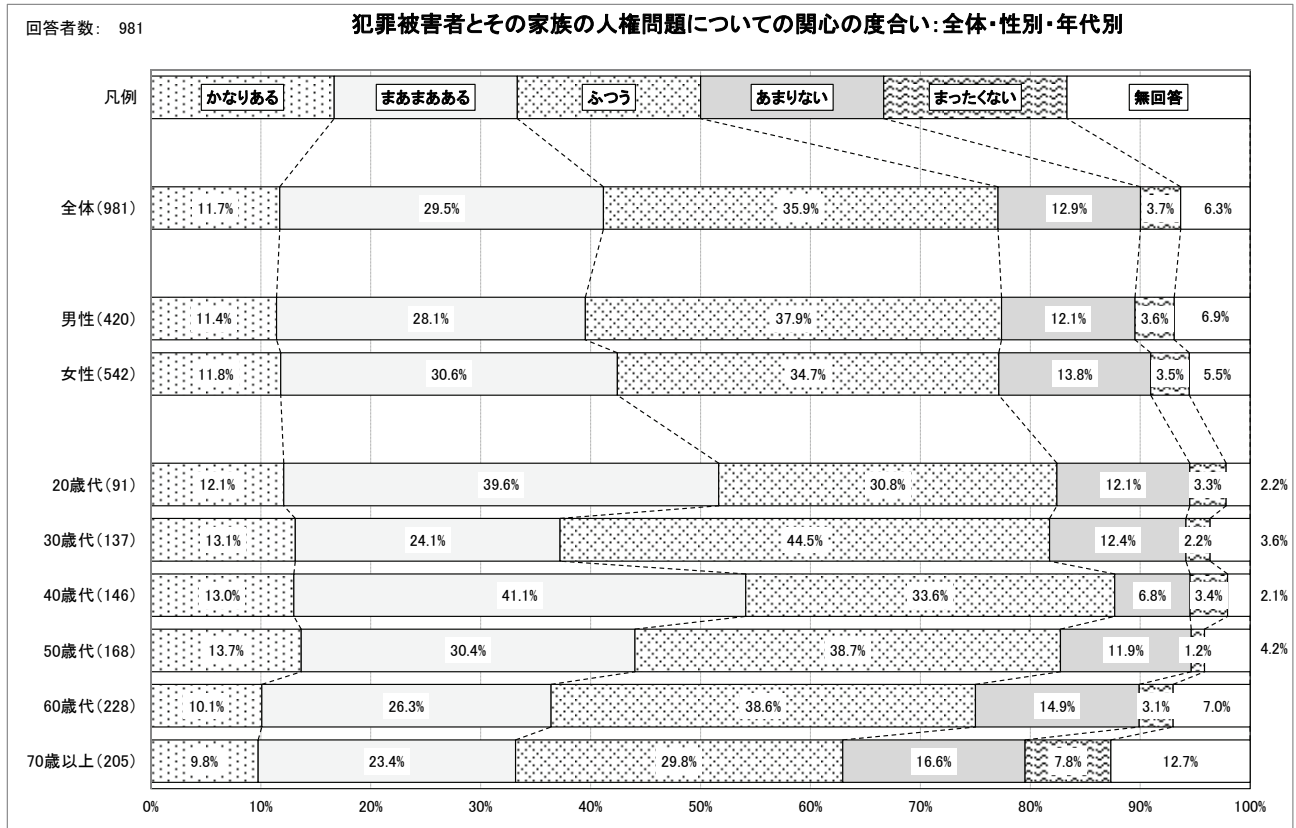
12 犯罪被害者とその家族の人権について

12-1 犯罪被害者とその家族の人権問題についての関心の度合い

問39. 犯罪被害者とその家族の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

- ◆全体、性別、年代別では20歳代、40歳代を除き「ふつう」が最も多くなっている。20歳代、40歳代は「まあまあある」が最も多くなっている。



【前回との差】

- ◆前回との差をみると、「ふつう」が4.4%減少し、「まあまあある」が2.8%増加しているが、全体的には大きな変化はない。

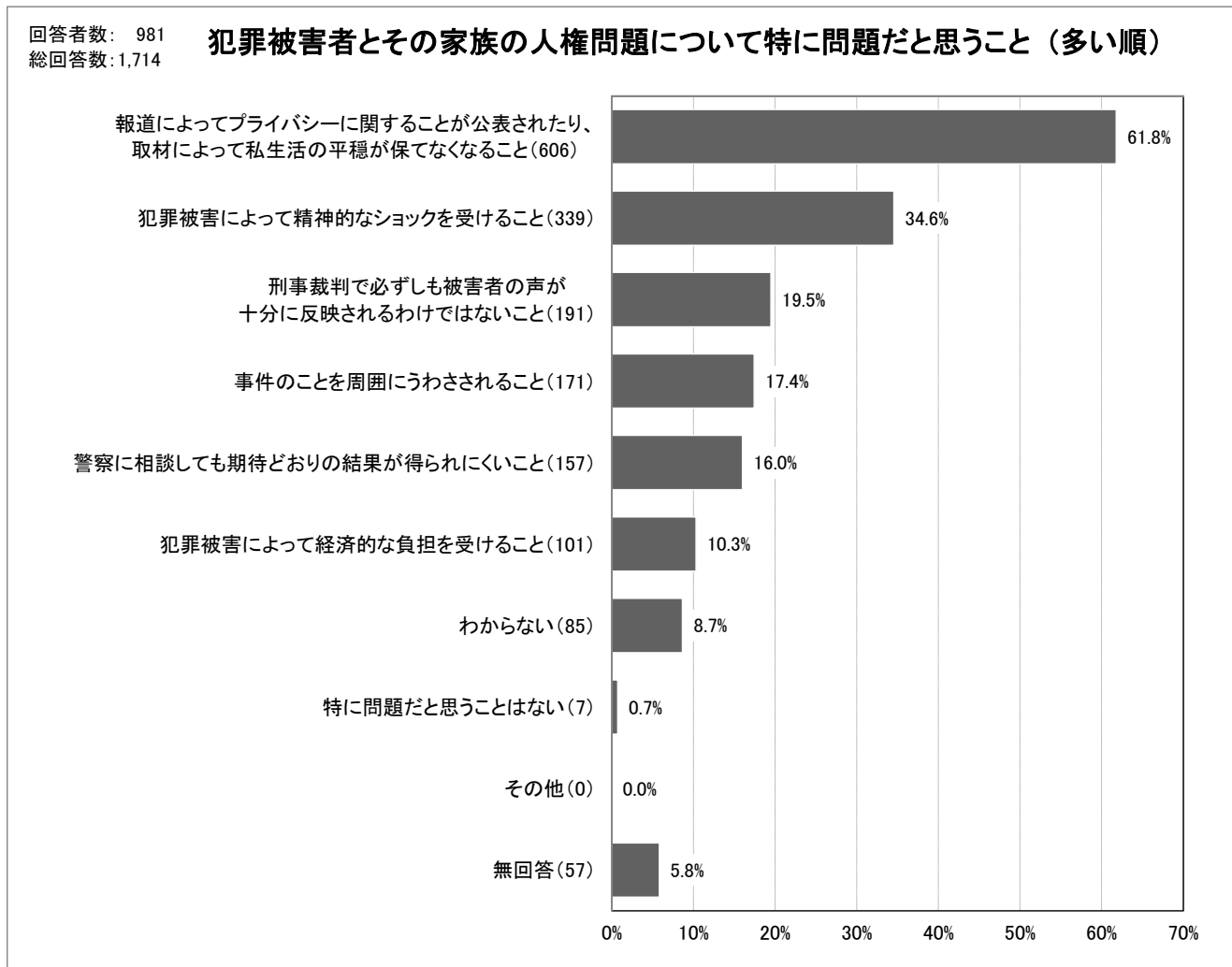
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	11.7%	13.2%	-1.5%
2	まあまあある	29.5%	26.7%	2.8%
3	ふつう	35.9%	40.3%	-4.4%
4	あまりない	12.9%	12.1%	0.8%
5	まったくない	3.7%	3.3%	0.4%
6	無回答	6.3%	4.5%	1.8%

12-2 犯罪被害者とその家族の人権問題について特に問題だと思うこと

問40. 犯罪被害者とその家族の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(〇は2つまで)

【全体】

- ◆全体では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が61.8%と最も多く、次いで「犯罪被害によって精神的なショックを受けること」が34.6%、「刑事裁判で必ずしも被害者の声が十分に反映されるわけではないこと」が19.5%となっている。



【性・年代別】

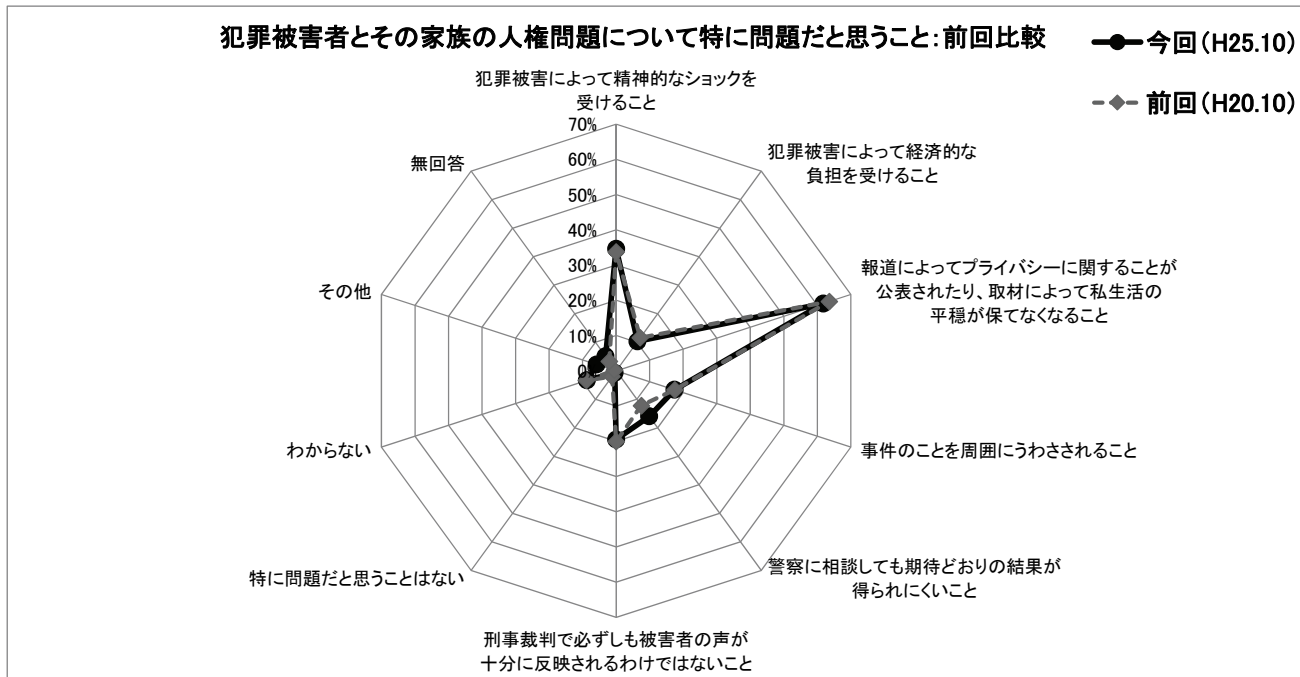
- ◆性別で見ると、男性、女性ともに「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が最も多くなっている。
「犯罪被害によって経済的な負担を受けること」では、男性が4.4%高く、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」では、女性が7.9%高くなっている。
- ◆年代別にみると、すべての年代で「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が最も多く、次いで「犯罪被害によって精神的なショックを受けること」となっている。

項目	区分	犯罪被害によって精神的なショックを受けること	犯罪被害によって経済的な負担を受けること	活の平穩が保てなくなる	報道によってプライバシーに関すること	事件のことを周囲にうわさされること	警察に相談しても期待どおりの結果が得られにくいこと	刑事裁判で必ずしも被害者の声十分に反映されるわけではないこと	特に問題だと思ふことはない	わからない	その他	無回答	総回答
全体 (n=981)	回答数	339	101	606	171	157	191	7	85	0	57	1,714	
	回答率	34.6%	10.3%	61.8%	17.4%	16.0%	19.5%	0.7%	8.7%	0.0%	5.8%	173.1%	
男性 (n=420)	回答数	132	54	242	72	72	85	4	38	0	28	727	
	回答率	31.4%	12.9%	57.6%	17.1%	17.1%	20.2%	1.0%	9.0%	0.0%	6.7%	173.1%	
女性 (n=542)	回答数	202	46	355	96	83	105	2	43	0	26	958	
	回答率	37.3%	8.5%	65.5%	17.7%	15.3%	19.4%	0.4%	7.9%	0.0%	4.8%	176.8%	
20歳代 (n=91)	回答数	40	5	53	23	19	16	1	3	0	2	162	
	回答率	44.0%	5.5%	58.2%	25.3%	20.9%	17.6%	1.1%	3.3%	0.0%	2.2%	178.0%	
30歳代 (n=137)	回答数	47	16	93	30	15	30	1	7	0	5	244	
	回答率	34.3%	11.7%	67.9%	21.9%	10.9%	21.9%	0.7%	5.1%	0.0%	3.6%	178.1%	
40歳代 (n=146)	回答数	50	12	108	22	30	45	0	2	0	3	272	
	回答率	34.2%	8.2%	74.0%	15.1%	20.5%	30.8%	0.0%	1.4%	0.0%	2.1%	186.3%	
50歳代 (n=168)	回答数	73	14	117	26	25	32	1	10	0	7	305	
	回答率	43.5%	8.3%	69.6%	15.5%	14.9%	19.0%	0.6%	6.0%	0.0%	4.2%	181.5%	
60歳代 (n=228)	回答数	73	28	135	38	31	43	1	25	0	15	389	
	回答率	32.0%	12.3%	59.2%	16.7%	13.6%	18.9%	0.4%	11.0%	0.0%	6.6%	170.6%	
70歳以上 (n=205)	回答数	56	26	97	31	34	25	3	38	0	23	205	
	回答率	27.3%	12.7%	47.3%	15.1%	16.6%	12.2%	1.5%	18.5%	0.0%	11.2%	162.4%	

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、項目別には多少の変化があるが、全体的には大きな変化はない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「警察に相談しても期待どおりの結果が得られにくいこと」が3.8%増加している。

減少項目では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が1.8%、「犯罪被害によって経済的な負担を受けること」、「特に問題だと思うことはない」が1.3%減少している。

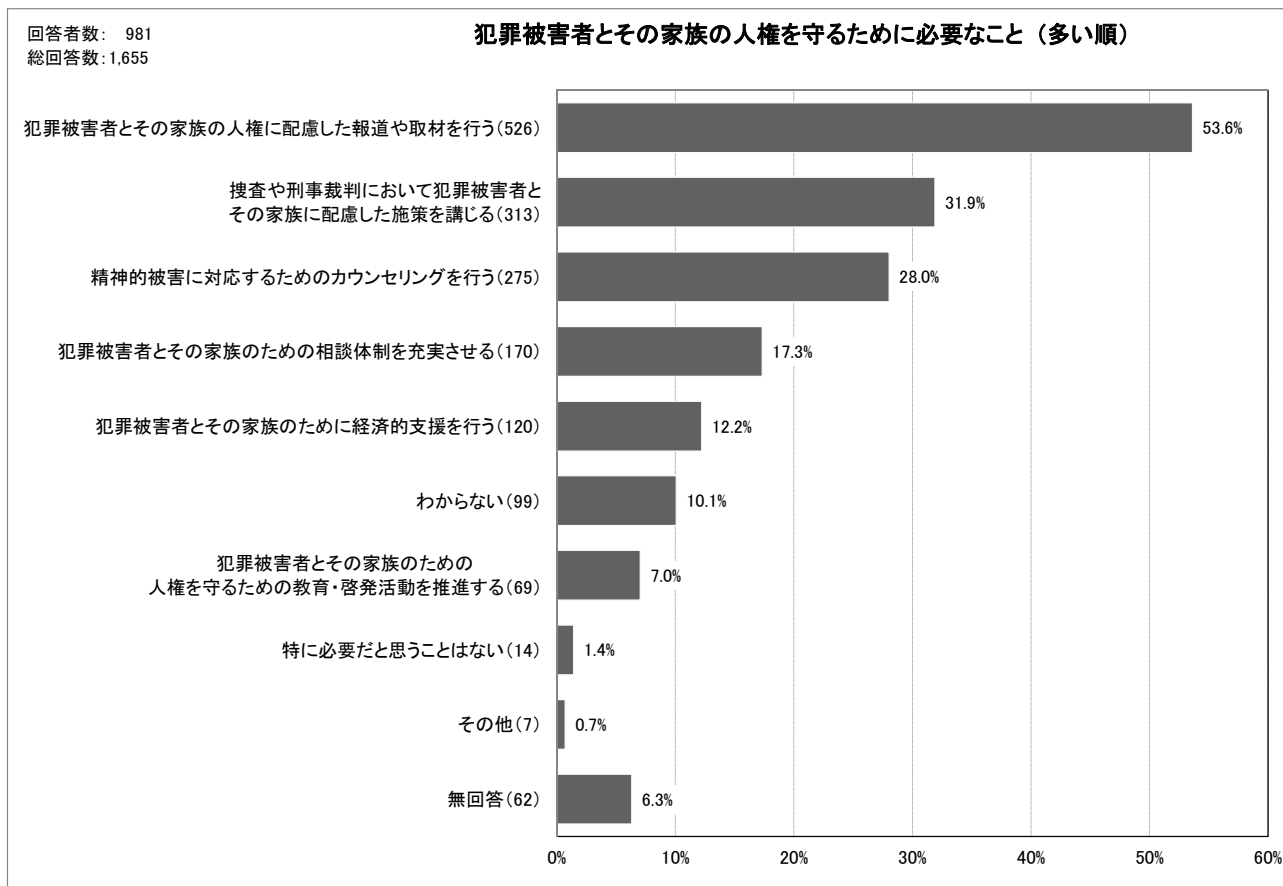
項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
警察に相談しても期待どおりの結果が得られにくいこと	16.0%	12.2%	3.8%
犯罪被害によって精神的なショックを受けること	34.6%	33.7%	0.9%
事件のことを周囲にうわさされること	17.4%	17.5%	-0.1%
わからない	8.7%	8.9%	-0.2%
刑事裁判で必ずしも被害者の声が十分に反映されるわけではないこと	19.5%	20.1%	-0.6%
特に問題だと思うことはない	0.7%	2.0%	-1.3%
犯罪被害によって経済的な負担を受けること	10.3%	11.6%	-1.3%
報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること	61.8%	63.6%	-1.8%
その他	0.0%	0.5%	-0.5%
無回答	5.8%	3.3%	2.5%

1 2 - 3 犯罪被害者とその家族の人権を守るために必要なこと

問 4 1 . 犯罪被害者とその家族の人権を守るために、特にどのようなことが必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

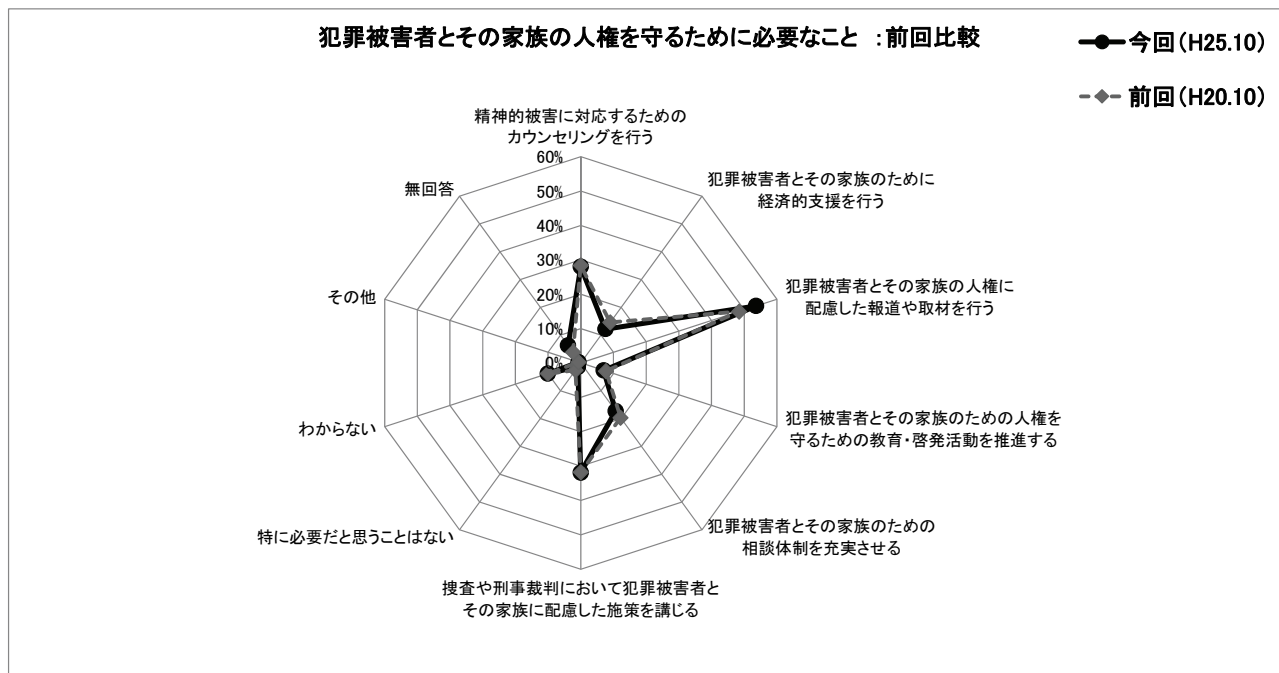
【全体】

◆全体では、「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」が53.6%と最も多く、次いで「捜査や刑事裁判において犯罪被害者とその家族に配慮した施策を講じる」が31.9%、「精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う」が28.0%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が5項目となっている。

増加項目では、「犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う」が5.2%、「捜査や刑事裁判において犯罪被害者とその家族に配慮した施策を講じる」が0.1%増加している。

減少項目では、「犯罪被害者とその家族のために経済的支援を行う」、「犯罪被害者とその家族のための相談体制を充実させる」が2.4%、「特に必要だと思うことはない」が1.2%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う	53.6%	48.4%	5.2%
捜査や刑事裁判において犯罪被害者とその家族に配慮した施策を講じる	31.9%	31.8%	0.1%
わからない	10.1%	10.1%	0.0%
精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う	28.0%	28.4%	-0.4%
犯罪被害者とその家族のための人権を守るための教育・啓発活動を推進する	7.0%	7.7%	-0.7%
特に必要だと思うことはない	1.4%	2.6%	-1.2%
犯罪被害者とその家族のための相談体制を充実させる	17.3%	19.7%	-2.4%
犯罪被害者とその家族のために経済的支援を行う	12.2%	14.6%	-2.4%
その他	0.7%	0.7%	0.0%
無回答	6.3%	3.8%	2.5%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・一般の方と同じように接することがよいと思う
- ・報道のガイドラインを作り、行き過ぎた場合の罰を作る
- ・犯罪被害者側への取材・報道を禁止する、すべては裁判で
- ・家族再建のための支援金の補助 等

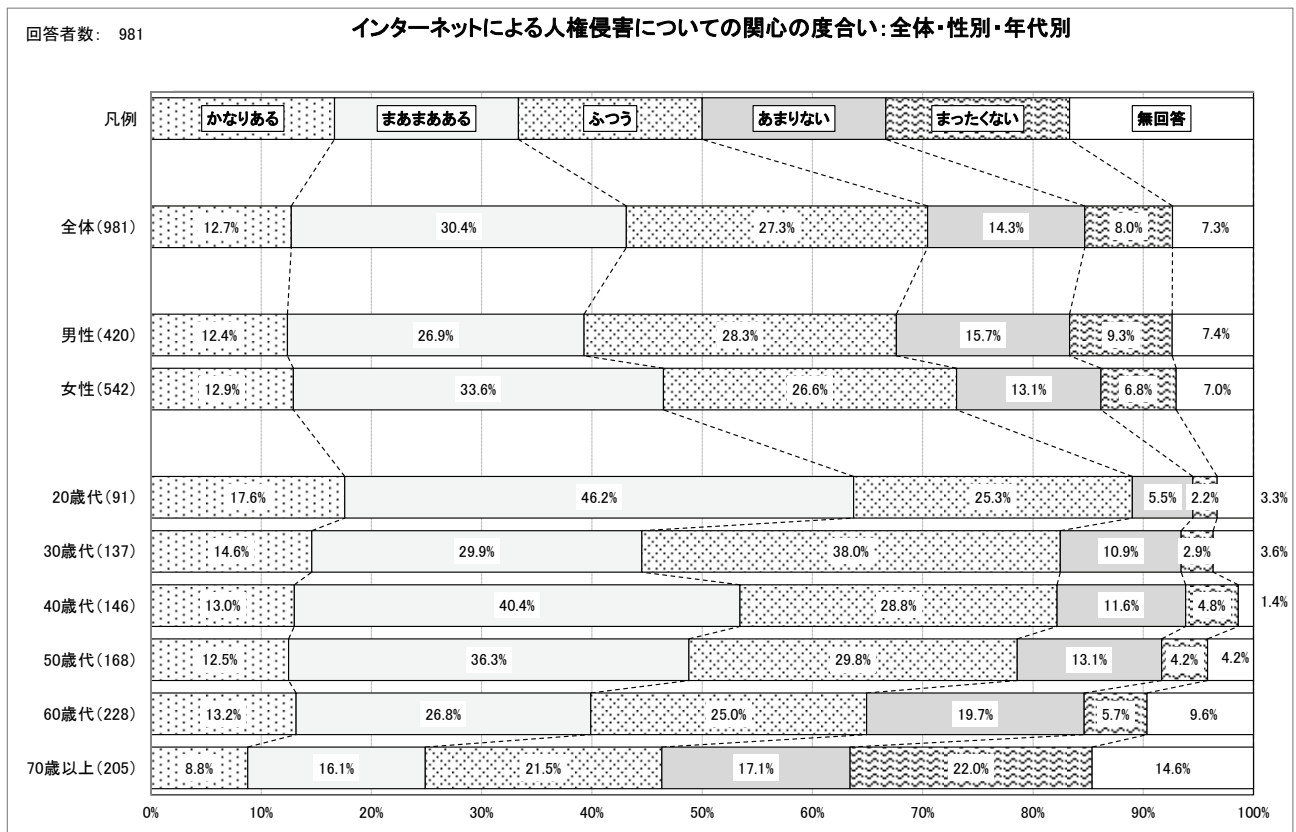
13 インターネットによる人権侵害について

13-1 インターネットによる人権侵害についての関心の度合い

問42. インターネットによる人権侵害について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

【全体・性・年代別】

- ◆全体、性別、年代別では、全体・女性・20歳代・40～60歳代は「まあまあある」が最も多くなっている。男性・30歳代は「ふつう」が最も多くなっている。



【前回との差】

- ◆前回との差をみると、「まあまあある」が6.2%増加し、前回の第2位から第1位となっており、上位2項目が入れ替わっている。

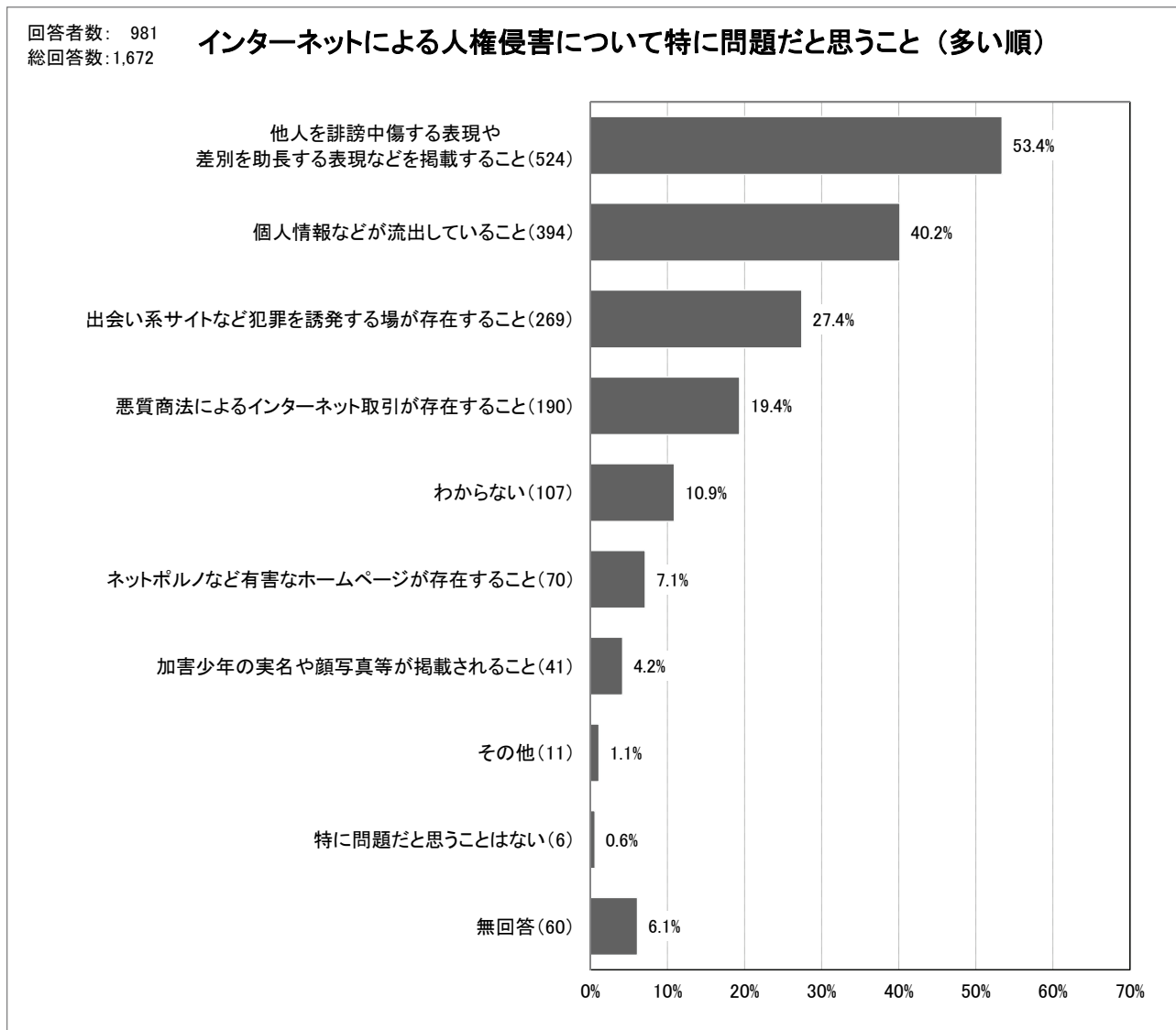
NO	項目	今回 (H25. 10)	前回 (H20. 10)	差
1	かなりある	12.7%	13.0%	-0.3%
2	まあまあある	30.4%	24.2%	6.2%
3	ふつう	27.3%	34.3%	-7.0%
4	あまりない	14.3%	15.8%	-1.5%
5	まったくない	8.0%	6.9%	1.1%
6	無回答	7.3%	5.7%	1.6%

13-2 インターネットによる人権侵害について特に問題だと思うこと

問43. インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(〇は2つまで)

【全体】

◆全体では、「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が53.4%と最も多く、次いで「個人情報などが流出していること」が40.2%、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること」が27.4%となっている。



【性・年代別】

◆性別で見ると、男性、女性ともに「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が最も多く、次いで「個人情報などが流出していること」となっている。

「悪質商法によるインターネット取引が存在すること」では、男性が7.6%高く、「個人情報などが流出していること」では、女性が10.1%高くなっている。

◆年代別にみると、すべての年代で「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が最も多く、次いで20歳代～60歳代では「個人情報などが流出していること」となっている。

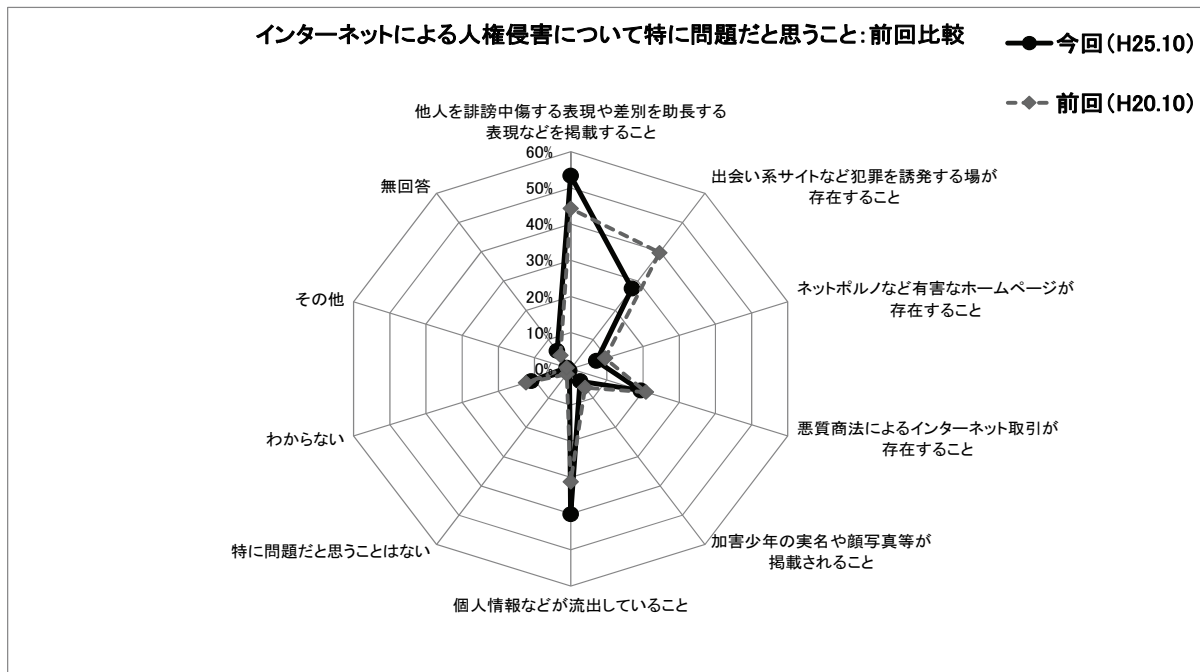
[上段：件、下段：%]

項目	区分	他人を誹謗中傷する表現などを掲載すること	出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること	ネットポルノなど有害なホームページが存在すること	悪質商法が存在すること	加害少年の実名や顔写真等が掲載されること	個人情報などが流出していること	特に問題だと思わないこと	わからない	その他	無回答	総回答
		件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件
全体 (n=981)	回答数	524	269	70	190	41	394	6	107	11	60	1,672
	回答率	53.4%	27.4%	7.1%	19.4%	4.2%	40.2%	0.6%	10.9%	1.1%	6.1%	170.4%
男性 (n=420)	回答数	224	108	23	100	12	145	5	45	8	27	697
	回答率	53.3%	25.7%	5.5%	23.8%	2.9%	34.5%	1.2%	10.7%	1.9%	6.4%	166.0%
女性 (n=542)	回答数	295	155	45	88	27	242	1	59	3	30	945
	回答率	54.4%	28.6%	8.3%	16.2%	5.0%	44.6%	0.2%	10.9%	0.6%	5.5%	174.4%
20歳代 (n=91)	回答数	52	28	3	21	3	46	1	1	4	3	162
	回答率	57.1%	30.8%	3.3%	23.1%	3.3%	50.5%	1.1%	1.1%	4.4%	3.3%	178.0%
30歳代 (n=137)	回答数	84	33	10	27	8	57	2	7	2	5	235
	回答率	61.3%	24.1%	7.3%	19.7%	5.8%	41.6%	1.5%	5.1%	1.5%	3.6%	171.5%
40歳代 (n=146)	回答数	86	39	7	31	7	71	1	12	0	3	257
	回答率	58.9%	26.7%	4.8%	21.2%	4.8%	48.6%	0.7%	8.2%	0.0%	2.1%	176.0%
50歳代 (n=168)	回答数	101	50	16	37	9	72	1	9	1	6	302
	回答率	60.1%	29.8%	9.5%	22.0%	5.4%	42.9%	0.6%	5.4%	0.6%	3.6%	179.8%
60歳代 (n=228)	回答数	125	71	18	30	7	96	1	25	1	15	389
	回答率	54.8%	31.1%	7.9%	13.2%	3.1%	42.1%	0.4%	11.0%	0.4%	6.6%	170.6%
70歳以上 (n=205)	回答数	73	46	16	42	7	51	0	53	3	26	205
	回答率	35.6%	22.4%	7.8%	20.5%	3.4%	24.9%	0.0%	25.9%	1.5%	12.7%	154.6%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、第1位は変わっていないが、前回第2位の「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること」が今回3位に、前回3位の「個人情報などが流出していること」が今回2位となっている。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること」が9.1%、「個人情報などが流出していること」が9.0%増加している。

減少項目では、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること」が12.3%、「ネットポルノなど有害なホームページが存在すること」が2.4%、「加害少年の実名や顔写真等が掲載されること」が2.2%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること	53.4%	44.3%	9.1%
個人情報などが流出していること	40.2%	31.2%	9.0%
特に問題だと思うことはない	0.6%	1.8%	-1.2%
悪質商法によるインターネット取引が存在すること	19.4%	20.8%	-1.4%
わからない	10.9%	12.4%	-1.5%
加害少年の実名や顔写真等が掲載されること	4.2%	6.4%	-2.2%
ネットポルノなど有害なホームページが存在すること	7.1%	9.5%	-2.4%
出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること	27.4%	39.7%	-12.3%
その他	1.1%	1.1%	0.0%
無回答	6.1%	4.6%	1.5%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

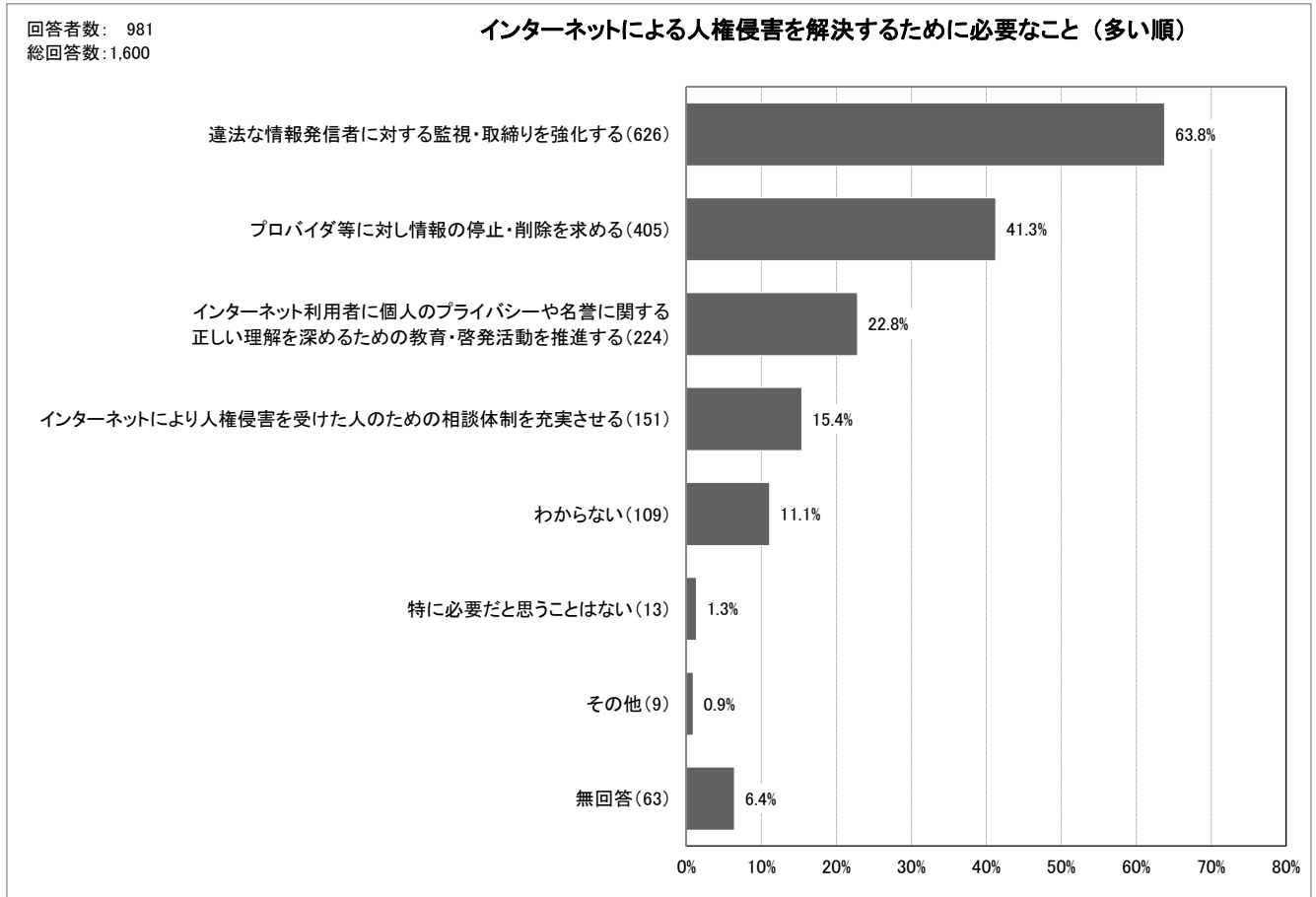
- ・子どもたちの情報モラル
- ・インターネットなどで写真を断りもなく載せることに対して個人情報の流出という意識が低い
- ・情報・金儲けのためのインターネットの使用
- ・利用者へのレベルが低すぎる 等

13-3 インターネットによる人権侵害を解決するために必要なこと

問44. インターネットによる人権侵害を解決するために、特にどのようなことが必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

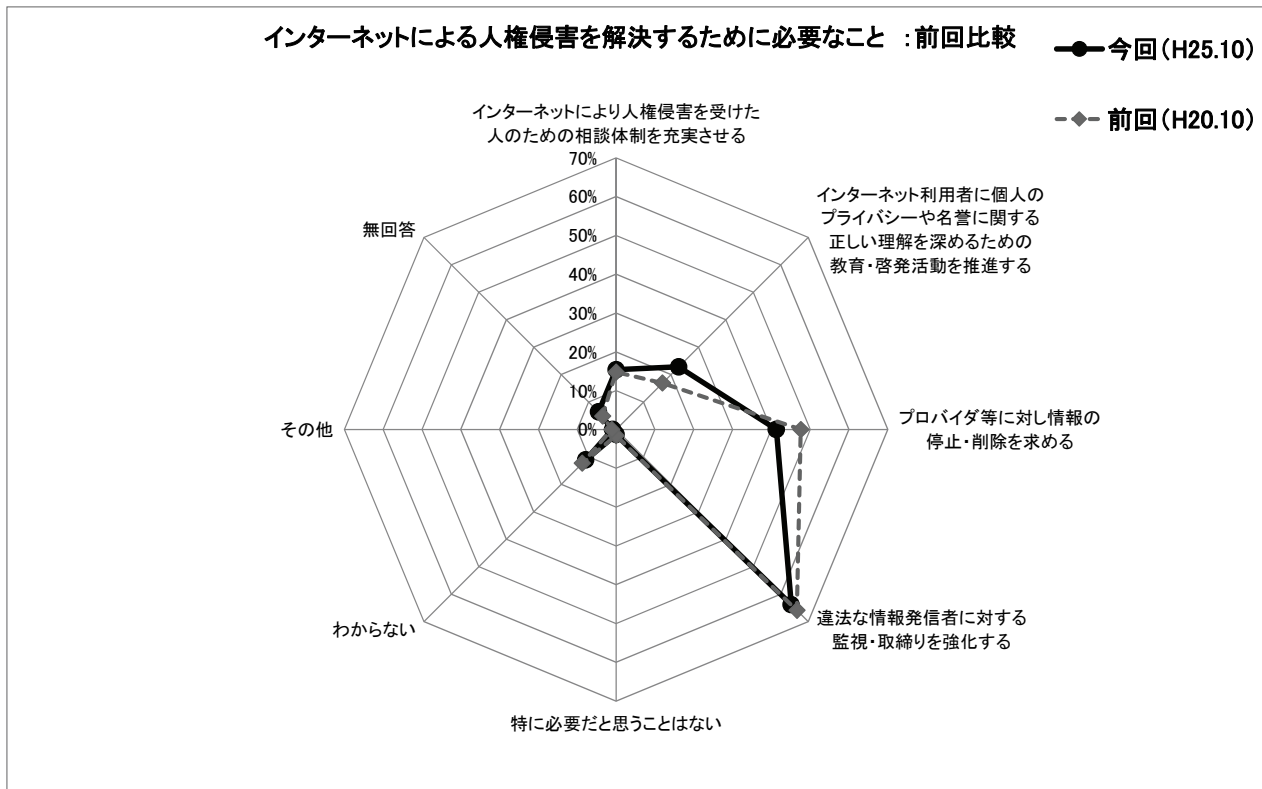
【全体】

◆全体では、「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が63.8%と最も多く、次いで「プロバイダ等に対し情報の停止・削除を求める」が41.3%、「インターネット利用者に個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が22.8%となっている。



【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が4項目となっている。

増加項目では、「インターネット利用者に個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が5.9%、「インターネットにより人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる」が0.6%増加している。

減少項目では、「プロバイダ等に対し情報の停止・削除を求める」が6.3%、「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する」が2.1%、「わからない」が1.2%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
インターネット利用者に個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	22.8%	16.9%	5.9%
インターネットにより人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる	15.4%	14.8%	0.6%
特に必要だと思うことはない	1.3%	1.6%	-0.3%
わからない	11.1%	12.3%	-1.2%
違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する	63.8%	65.9%	-2.1%
プロバイダ等に対し情報の停止・削除を求める	41.3%	47.6%	-6.3%
その他	0.9%	1.1%	-0.2%
無回答	6.4%	4.9%	1.5%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・インターネットの制限も必要
 - ・個人情報を流出させないシステムを作る
 - ・匿名使用のサイトを無くす政策を作る
- 等

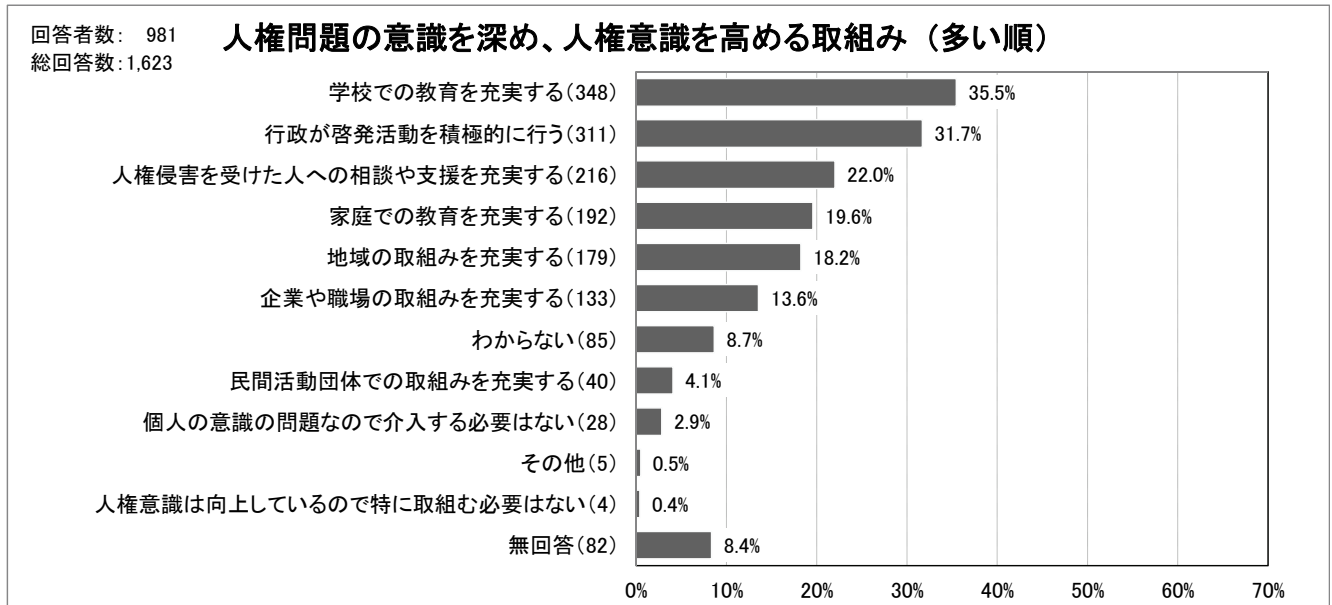
14 人権教育・人権啓発の方法について

14-1 人権問題の理解を深め、意識を高める取組み

問45. 人権問題についての理解を深め、人権意識を高めるために、今後どのような取組みを行えばよいと思いますか。(〇は2つまで)

【全体】

- ◆全体では、「学校での教育を充実する」が35.5%と最も多く、次いで「行政が啓発活動を積極的に行う」が31.7%、「人権侵害を受けた人への相談や支援を充実する」が22.0%の順となっている。



【性別】

- ◆性別で見ると、男性は「行政が啓発活動を積極的に行う」、女性は「学校での教育を充実する」が最も多くなっている。次いで男性は「学校での教育を充実する」、女性は「行政が啓発活動を積極的に行う」となっている。続く3番目に多い項目については、男性で「家庭での教育を充実する」、女性で「人権侵害を受けた人への相談や支援を充実する」の割合が多くなっている。

「行政が啓発活動を積極的に行う」は男性が2.3%多く、「学校での教育を充実する」は女性が7.0%多くなっている。

【年代別】

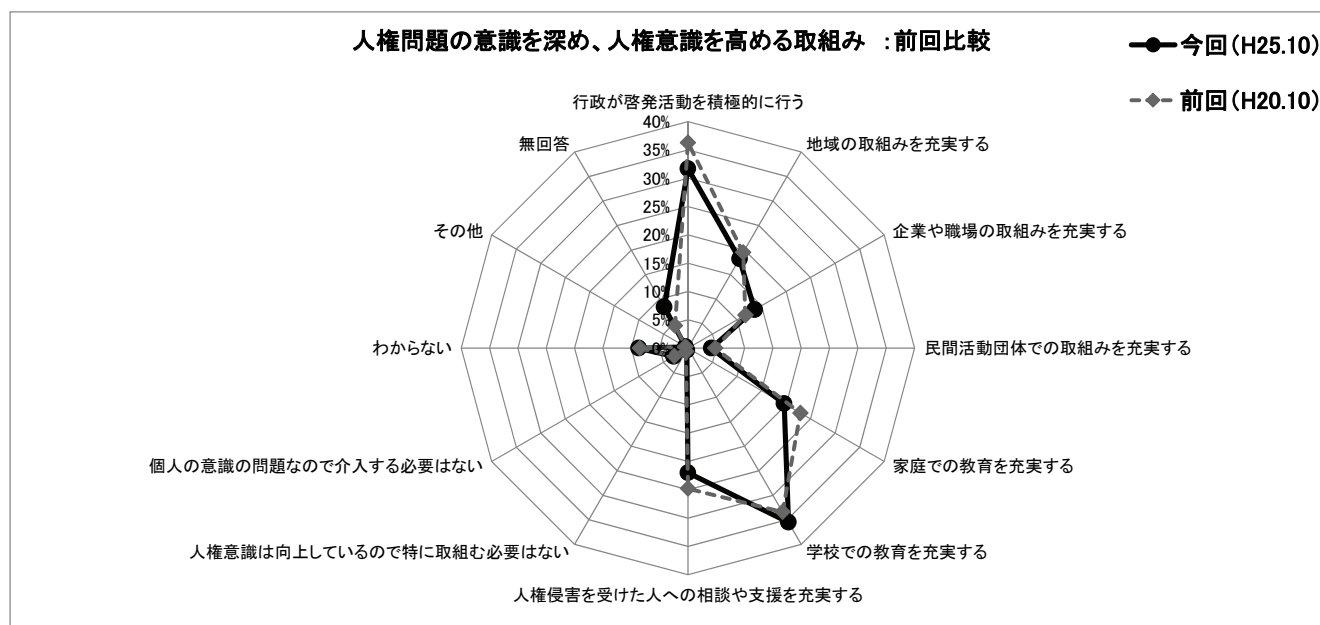
- ◆年代別で見ると、20歳代、30歳代、50歳代及び60歳代は「学校での教育を充実する」、40歳代及び70歳以上は「行政が啓発活動を積極的に行う」がそれぞれ第1位となっている。

項目	区分	行政が啓発活動を積極的に行う	地域の取組みを充実する	企業や職場の取組みを充実する	民間活動団体での取組みを充実する	家庭での教育を充実する	学校での教育を充実する	人権侵害を受けた人への相談や支援を充実する	人権意識は向上しているので特に取組む必要はない	個人の意識の問題なので介入する必要はない	わからない	その他	無回答	総回答
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数
全体 (n=981)	回答数	311	179	133	40	192	348	216	4	28	85	5	82	1,623
	回答率	31.7%	18.2%	13.6%	4.1%	19.6%	35.5%	22.0%	0.4%	2.9%	8.7%	0.5%	8.4%	165.4%
男性 (n=420)	回答数	138	80	50	21	85	134	80	0	18	38	1	42	687
	回答率	32.9%	19.0%	11.9%	5.0%	20.2%	31.9%	19.0%	0.0%	4.3%	9.0%	0.2%	10.0%	163.6%
女性 (n=542)	回答数	166	96	81	18	104	211	134	4	10	44	4	36	908
	回答率	30.6%	17.7%	14.9%	3.3%	19.2%	38.9%	24.7%	0.7%	1.8%	8.1%	0.7%	6.6%	167.5%
20歳代 (n=91)	回答数	23	17	18	7	16	47	17	1	4	4	1	2	157
	回答率	25.3%	18.7%	19.8%	7.7%	17.6%	51.6%	18.7%	1.1%	4.4%	4.4%	1.1%	2.2%	172.5%
30歳代 (n=137)	回答数	36	28	29	4	31	62	22	0	2	12	1	5	232
	回答率	26.3%	20.4%	21.2%	2.9%	22.6%	45.3%	16.1%	0.0%	1.5%	8.8%	0.7%	3.6%	169.3%
40歳代 (n=146)	回答数	50	32	14	3	29	48	37	1	4	15	1	7	241
	回答率	34.2%	21.9%	9.6%	2.1%	19.9%	32.9%	25.3%	0.7%	2.7%	10.3%	0.7%	4.8%	165.1%
50歳代 (n=168)	回答数	62	28	27	6	35	64	37	0	7	7	1	13	287
	回答率	36.9%	16.7%	16.1%	3.6%	20.8%	38.1%	22.0%	0.0%	4.2%	4.2%	0.6%	7.7%	170.8%
60歳代 (n=228)	回答数	78	38	29	10	45	80	54	2	5	18	0	20	379
	回答率	34.2%	16.7%	12.7%	4.4%	19.7%	35.1%	23.7%	0.9%	2.2%	7.9%	0.0%	8.8%	166.2%
70歳以上 (n=205)	回答数	59	35	15	10	35	46	49	0	6	29	1	33	318
	回答率	28.8%	17.1%	7.3%	4.9%	17.1%	22.4%	23.9%	0.0%	2.9%	14.1%	0.5%	16.1%	155.1%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が4項目、減少した項目が6項目となっている。

増加項目では、「学校での教育を充実する」が2.1%増加している。

減少項目では、「行政が啓発活動を積極的に行う」が4.6%、「家庭での教育を充実する」が3.3%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
学校での教育を充実する	35.5%	33.4%	2.1%
企業や職場の取組みを充実する	13.6%	11.7%	1.9%
わからない	8.7%	8.5%	0.2%
個人の意識の問題なので介入する必要はない	2.9%	2.8%	0.1%
人権意識は向上しているので特に取組む必要はない	0.4%	0.7%	-0.3%
民間活動団体での取組みを充実する	4.1%	4.8%	-0.7%
地域の取組みを充実する	18.2%	19.5%	-1.3%
人権侵害を受けた人への相談や支援を充実する	22.0%	24.8%	-2.8%
家庭での教育を充実する	19.6%	22.9%	-3.3%
行政が啓発活動を積極的に行う	31.7%	36.3%	-4.6%
その他	0.5%	0.5%	0.0%
無回答	8.4%	4.6%	3.8%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

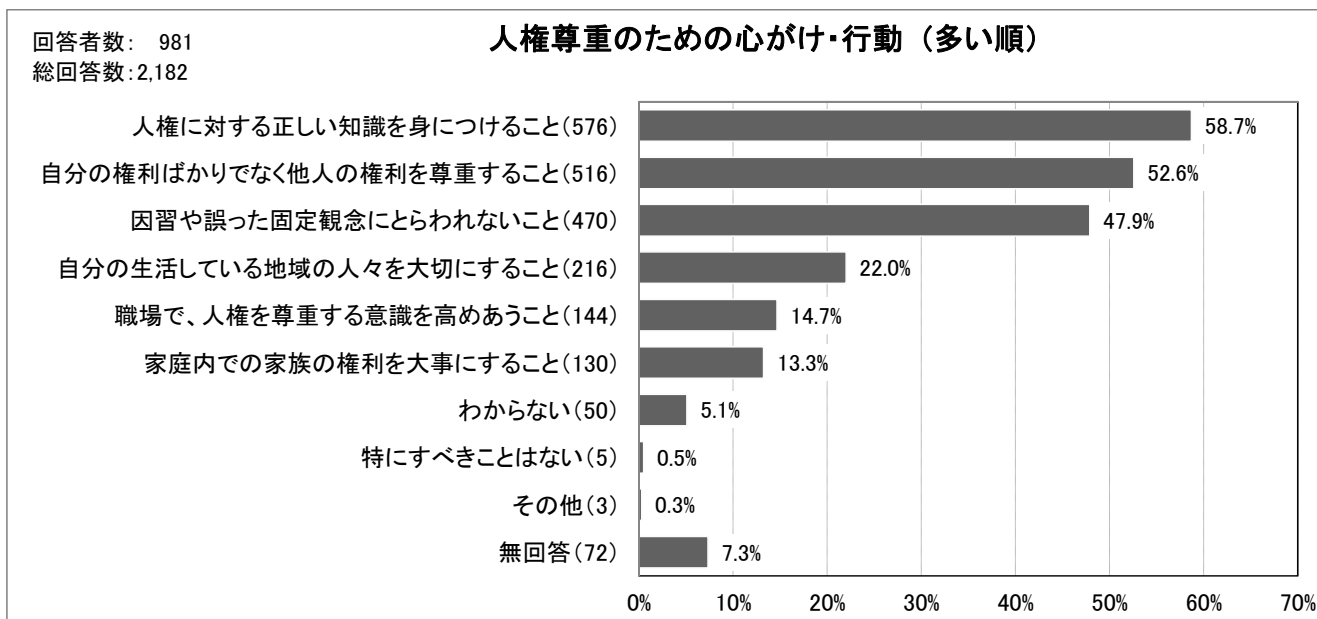
- ・報道関係者の過度な自由、過激・攻撃的な内容を見直す
- ・「人権問題は複数多岐にわたるので個々の事象について討論すべき問題が多い」と思う
- ・大人への教育が必要だと思うが、興味のない人への効果的な伝達方法が思い浮かばない
- ・行政・地域・教育現場での取組みを充実する 等

14-2 人権を尊重しあうための今後の市民の取組みについて

問46. あなたは、市民一人ひとりが、人権を尊重しあうために心がけたり行動すべきことはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

- ◆全体では、「人権に対する正しい知識を身につけること」が58.7%と最も多く、「自分の権利ばかりでなく他人の権利を尊重すること」が52.6%、「因習や誤った固定観念にとらわれないこと」が47.9%と続いている。



【性別】

- ◆性別による特性はほぼ見られず、男性、女性ともに「人権に対する正しい知識を身につけること」が最も多く、次いで「自分の権利ばかりでなく他人の権利を尊重すること」となっている。「自分の権利ばかりでなく他人の権利を尊重すること」では男性が1.9%、「因習や誤った固定観念にとらわれないこと」では女性が7.9%多くなっている。

【年代別】

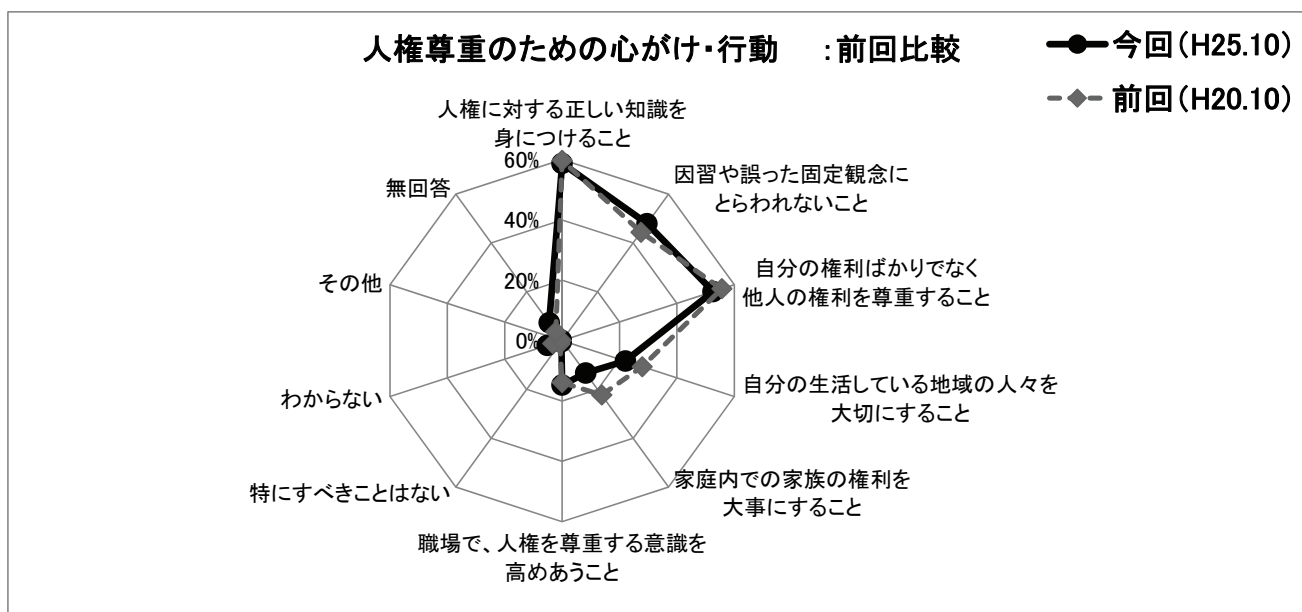
- ◆年代別で見ると、60歳代を除き「人権に対する正しい知識を身につけること」が最も多く、60歳代では「自分の権利ばかりでなく他人の権利を尊重すること」が最も多くなっている。

項目	区分	人権に対する正しい知識を身につけること	因習や誤った固定観念にとらわれないこと	他人の権利を尊重すること	自分の生活している地域の人々を大切にすること	家庭内での家族の権利を大事にすること	職場で、人権を尊重する意識を高めあうこと	特にすべきことはない	わからない	その他	無回答	総回答
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数
全体 (n=981)	回答数	576	470	516	216	130	144	5	50	3	72	2,182
	回答率	58.7%	47.9%	52.6%	22.0%	13.3%	14.7%	0.5%	5.1%	0.3%	7.3%	222.4%
男性 (n=420)	回答数	247	183	225	95	50	62	3	19	1	37	922
	回答率	58.8%	43.6%	53.6%	22.6%	11.9%	14.8%	0.7%	4.5%	0.2%	8.8%	219.5%
女性 (n=542)	回答数	319	279	280	117	78	81	1	30	2	31	1218
	回答率	58.9%	51.5%	51.7%	21.6%	14.4%	14.9%	0.2%	5.5%	0.4%	5.7%	224.7%
20歳代 (n=91)	回答数	60	50	55	17	15	17	0	2	0	2	218
	回答率	65.9%	54.9%	60.4%	18.7%	16.5%	18.7%	0.0%	2.2%	0.0%	2.2%	239.6%
30歳代 (n=137)	回答数	84	77	74	23	19	22	0	5	0	6	310
	回答率	61.3%	56.2%	54.0%	16.8%	13.9%	16.1%	0.0%	3.6%	0.0%	4.4%	226.3%
40歳代 (n=146)	回答数	88	78	59	26	18	19	0	11	1	7	307
	回答率	60.3%	53.4%	40.4%	17.8%	12.3%	13.0%	0.0%	7.5%	0.7%	4.8%	210.3%
50歳代 (n=168)	回答数	105	87	91	34	21	38	0	3	1	10	390
	回答率	62.5%	51.8%	54.2%	20.2%	12.5%	22.6%	0.0%	1.8%	0.6%	6.0%	232.1%
60歳代 (n=228)	回答数	132	107	133	53	20	29	2	11	0	18	505
	回答率	57.9%	46.9%	58.3%	23.2%	8.8%	12.7%	0.9%	4.8%	0.0%	7.9%	221.5%
70歳以上 (n=205)	回答数	105	68	101	63	36	19	3	18	0	27	440
	回答率	51.2%	33.2%	49.3%	30.7%	17.6%	9.3%	1.5%	8.8%	0.0%	13.2%	214.6%

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が3項目、減少した項目が5項目となっている。

増加項目では、「因習や誤った固定観念にとらわれないこと」が3.5%、「わからない」が1.8%増加している。

減少項目では、「家庭内での家族の権利を大事にすること」が9.0%、「自分の生活している地域の人々を大切にすること」が5.9%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
因習や誤った固定観念にとらわれないこと	47.9%	44.4%	3.5%
わからない	5.1%	3.3%	1.8%
職場で、人権を尊重する意識を高めあうこと	14.7%	13.9%	0.8%
特にすべきことはない	0.5%	1.3%	-0.8%
人権に対する正しい知識を身につけること	58.7%	59.7%	-1.0%
自分の権利ばかりでなく他人の権利を尊重すること	52.6%	55.6%	-3.0%
自分の生活している地域の人々を大切にすること	22.0%	27.9%	-5.9%
家庭内での家族の権利を大事にすること	13.3%	22.3%	-9.0%
その他	0.3%	0.3%	0.0%
無回答	7.3%	3.6%	3.7%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

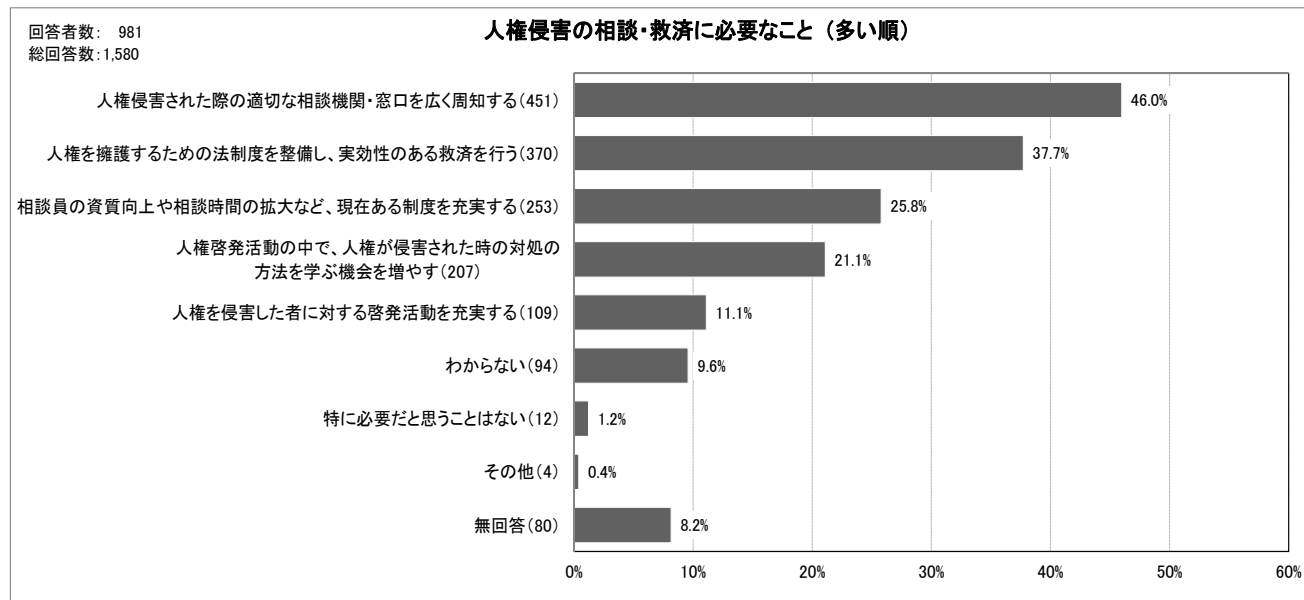
- ・他人に思いやりを、当たり前のことを当たり前でできる人間となるような教育を家庭でも学校でも行う
- ・人を大切にすることの意味を理解してもらうこと
- ・集団社会において他者の存在をなくして自分個人の幸せもないことを学校教育のしつけの段階から教え込む
- ・子どもに障がいがあるため「職場における差別待遇」を感じた 等

14-3 人権侵害に対する相談や救済について必要なこと

問47. 人権侵害に対する相談や救済について、どのようなことが特に必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

【全体】

◆全体では、「人権侵害された際の適切な相談機関・窓口を広く周知する」が46.0%と最も多く、次いで「人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う」が37.7%、「相談員の資質向上や相談時間の拡大など、現在ある制度を充実する」が25.8%となっている。



【性別】

◆性別で見ると、男性、女性ともに、「人権侵害された際の適切な相談機関・窓口を広く周知する」と回答した割合が最も多く、次いで「人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う」となっている。

「人権を侵害した者に対する啓発活動を充実する」では男性が2.8%、「相談員の資質向上や相談時間の拡大など、現在ある制度を充実する」では女性が4.8%多くなっている。

【年代別】

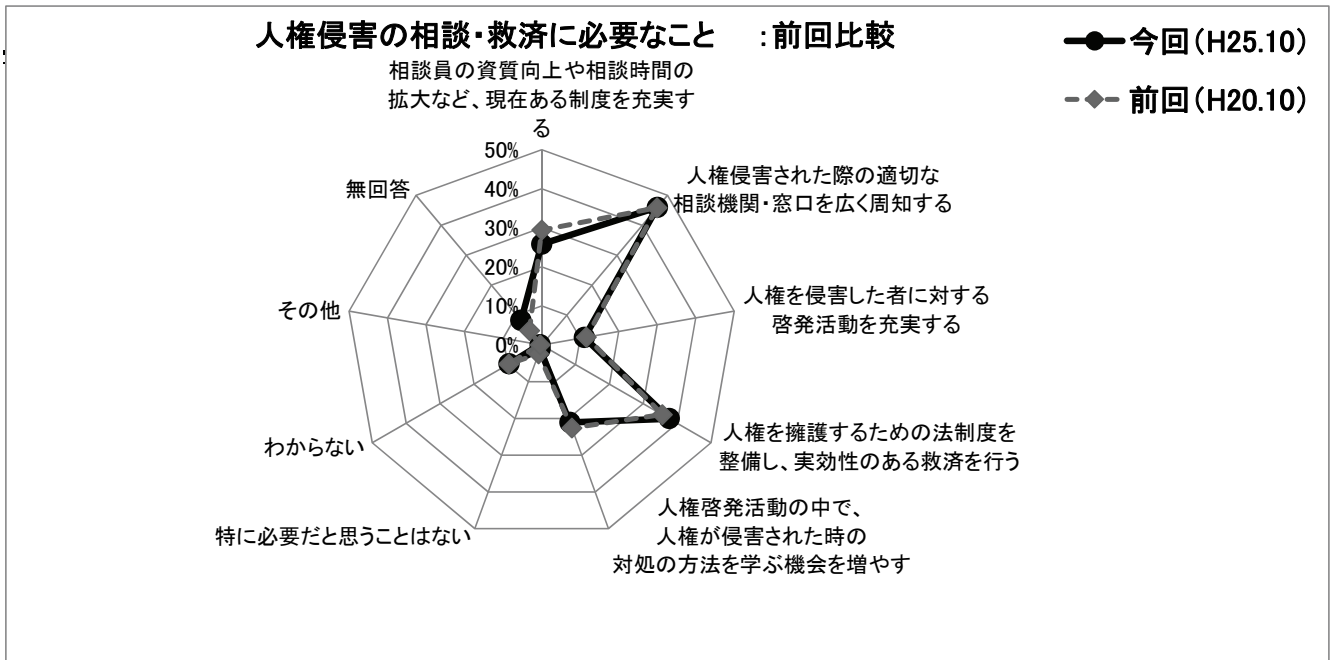
◆年代別で見ると、各年代ともに「人権侵害された際の適切な相談機関・窓口を広く周知する」が最も多く、次いで「人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う」となっている。

項目	区分	拡大など、資質向上や相談時間の充実する	相談機関・窓口を広く周知する	人権侵害された際の適切な対応	啓発活動を充実する	人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う	人権啓発活動の中で、対処の方法を学ぶ機会を増やす	特に必要だと思わない	わからない	その他	無回答	総回答
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数
全体 (n=981)	回答数	253	451	109	370	207	12	94	4	80	1,580	
	回答率	25.8%	46.0%	11.1%	37.7%	21.1%	1.2%	9.6%	0.4%	8.2%	161.1%	
男性 (n=420)	回答数	97	199	53	163	82	6	39	0	40	679	
	回答率	23.1%	47.4%	12.6%	38.8%	19.5%	1.4%	9.3%	0.0%	9.5%	161.7%	
女性 (n=542)	回答数	151	245	53	203	123	6	53	4	36	874	
	回答率	27.9%	45.2%	9.8%	37.5%	22.7%	1.1%	9.8%	0.7%	6.6%	161.3%	
20歳代 (n=91)	回答数	20	37	15	36	24	4	10	0	3	149	
	回答率	22.0%	40.7%	16.5%	39.6%	26.4%	4.4%	11.0%	0.0%	3.3%	163.7%	
30歳代 (n=137)	回答数	33	65	16	50	36	0	14	1	5	220	
	回答率	24.1%	47.4%	11.7%	36.5%	26.3%	0.0%	10.2%	0.7%	3.6%	160.6%	
40歳代 (n=146)	回答数	27	63	12	63	37	2	16	0	7	227	
	回答率	18.5%	43.2%	8.2%	43.2%	25.3%	1.4%	11.0%	0.0%	4.8%	155.5%	
50歳代 (n=168)	回答数	48	86	18	67	42	2	7	0	10	280	
	回答率	28.6%	51.2%	10.7%	39.9%	25.0%	1.2%	4.2%	0.0%	6.0%	166.7%	
60歳代 (n=228)	回答数	66	117	25	90	39	1	18	1	22	379	
	回答率	28.9%	51.3%	11.0%	39.5%	17.1%	0.4%	7.9%	0.4%	9.6%	166.2%	
70歳以上 (n=205)	回答数	58	83	20	62	28	3	29	2	31	316	
	回答率	28.3%	40.5%	9.8%	30.2%	13.7%	1.5%	14.1%	1.0%	15.1%	154.1%	

※割合の高い項目の上位3位までを網掛けで表示(無回答は除く)

【前回との比較】

◆前回との比較をチャート図でみると、個別項目での差はあるが、全体的には、大きな変化は見られない。



【前回との差】

◆前回との差をみると、増加した項目が2項目、減少した項目が5項目となっている。

増加項目では、「人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う」が2.1%増加している。

減少項目では、「相談員の資質向上や相談時間の拡大など、現在ある制度を充実する」が3.6%、「人権啓発活動の中で、人権が侵害された時の対処の方法を学ぶ機会を増やす」が1.5%減少している。

項目	今回 (H25.10)	前回 (H20.10)	差
人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う	37.7%	35.6%	2.1%
人権侵害された際の適切な相談機関・窓口を広く周知する	46.0%	45.8%	0.2%
わからない	9.6%	9.7%	-0.1%
人権を侵害した者に対する啓発活動を充実する	11.1%	11.6%	-0.5%
特に必要だと思わない	1.2%	2.4%	-1.2%
人権啓発活動の中で、人権が侵害された時の対処の方法を学ぶ機会を増やす	21.1%	22.6%	-1.5%
相談員の資質向上や相談時間の拡大など、現在ある制度を充実する	25.8%	29.4%	-3.6%
その他	0.4%	0.4%	0.0%
無回答	8.2%	4.8%	3.4%

【その他の回答】

その他の回答の主たるものは以下の通りである。

- ・人は人として尊ばれることを基本としてまず教育の場から培う（人権侵害が起きない社会）
- ・学校全体でそのことを考える、市や現場（幼・小・中・高・社会）にいない人が人に関わったところで本質の問題は解決しない、地域のみみんなで考える 等

第IV章 自由意見の要約

アンケート調査票の自由回答に記された意見を項目ごとに取りまとめた。尚、本調査の内容にそぐわない意見を除き、できる限り全ての意見を掲載している。主な意見内容は以下のとおりである。

女性について
<ul style="list-style-type: none"> 夫と死別した場合は、同情の目で見られるのに対して、夫と離婚した場合は、どこか軽蔑の目で見られる。他人のそんな差別をいつも感じてきましたが、所得税法の寡婦控除にも区別がある事を知り、ショックを受けました。③の区分にもと母子家庭の母が（離婚した）なぜ入らないのでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの虐待や女性への過度と思えるストーカー行為に対して児童相談所の対応の甘さや遅れ、ストーカー行為に対する警察の認識の甘さがこれだけ取り上げられても改善しないのは何故か？自分の子どもの自分の娘か当事者になったらどうなのかという当事者意識の欠如が主な原因と思われる。又一方で法律を整備して介入しやすくすることも早くすべき。（大事な命） 設問に対する答えが似たりよったりで○をつけるさい、悩んでしまう。
<ul style="list-style-type: none"> 事実婚の夫からのモラルハラスメントに苦しみ多治見市の女性相談制度に助けて頂きました。お礼に伺おうと思いつながら、まだ訪ねられずにいます。市内では*****の先生にも心を救って頂きました。法テラスは全くなりになってもらえませんでした。（予約でいっぱい）地域の力で助けていただきました。私も経験を役立てて力になれたらと思うこと度々です。問題なのは警察です。私は当時市外に住んでいたため、市外の住所地の警察で相談にのってもらっており、その担当者（女性の方）はとても安心できました。しかし住所が市内に戻り（夫から離れて）管轄が変わったということで、新しい担当者（男性）から電話がありました。ストーカーの恐ろしさを知っているのだろうか？と思うような事務的でそっけない話しぶりでした。その後もまた警察より電話があり「もうしばらく時間も経って特に何もありませんね。（だから大丈夫ですね）」というような言葉をかけられました。まだまだ世間でも知られていない特殊な事柄ですから警察の方も専門知識はほとんどないでしょう。しかし全国ではいくつか事件にもなったように、“（危険を察することすらできなくて）知らなくて大丈夫なのかな”と思いました。

子どもについて
<ul style="list-style-type: none"> 私立中学に通っていた時、いじめがあり今でもトラウマになっています。教師（担任）にやる気がまったくなく、対応もいかげんで、他の先生も担任の扱いに困っているようでした。なぜ、不適格教師となる先生が岐阜県やこの地方には少ないのか？数年で転任を繰り返しこのような人を学校でたらいまわしにしているのだと思いました。

高齢者について
<ul style="list-style-type: none"> 現在、一人暮らしですが、周りから色々と言われる事があるが、そっとしておいてほしい時もある。 高齢者の社会参加の推進

障がい者について
<ul style="list-style-type: none"> 私もあまり良くわかりませんが、幸いにも多治見市では、そんな事件はありませんでした。周りの人々の理解がとてもあったと思います。私自身も身体障がい者です。会社もすんなり受け入れていただき、夜学にも通わせていただきました。冬は左足が痛みしもやけで苦しみました。夜学を卒業できた時、本当に嬉しかったです。当時の夜学の先生、赴任先からとんでみえて、手をにぎり「おめでとう」と言って下さいました。当時、高校はせまき門でした。今でも、金の卵の私達を受け入れありとあらゆる分野（洋さい、和さい、スポーツ、その他など）私も団塊の世代。当時の企業の理念その他色々のこと。今でも感謝をしています。これから後、介護が必要な人が増えます。施設に入ることが幸せなのでしょうか？私自身も、自分の事は、自分でと思えますし、人はそれぞれに能力があると思っています。若い人のように結合（何人か寄って一緒に暮らす）そんな元気な人もいいのかな？年齢に関係なく私はそう思います。いくつになっても、誰かの役に立ちたいなと思っています。 人権に関して興味がないわけではないと思っていましたが、このアンケートをしてみて、あまり知識がない事を自覚しました。うちには重度の発達障がいがある子どもがいますが、これから偏見等により間違ったレッテルを貼られたり好奇の目で見られることはあると思います。そういう人と関わった時にどんな気分になるか、まだありがたい事にお会いした事はないのですが、心配にはなり

ます。今現在、思っている事は「逆差別」に思われないようにしようということです。普通の家庭でも困り事が多いと思うので、優遇されている所を見ると「ズルイ」と思われてしまうのでは…と
思ってしまう。要望があってもなかなか言い出す事ができません。ただ、こういう事をアピ
ールするとそれを冷ややかに受け止める人もいます。アピールすることなく、一般の意識の
方に正しい知識にふれる機会を作っていただけたらと思います。

- 現在、大学で作業療法を学んでいるため、私個人の関心はどうしても「障がい者の人権問題」に向
いてしまいます。社会にはまだまだ障がいや障がい者に対する偏った考えが多く存在していると思
っています。しかしそれは、障がいに対する知識が原因となっているのであって、根本的に冷たい
視線を送っているだけなのであると思います。私は将来、セラピストとなる学部を専攻していま
すが、地域の障がい福祉に対する働きにとっても関心があります。今後、社会の障がい者につ
いての理解を深めるためにも、広報や制度の充実のための働きかけをしていって欲しいと思
います。
- 障がいについての理解を深めるためにも、広報や制度の充実のための働きかけをしていってほ
しいと思います。

同和問題、アイヌの人々について

- 私は同和問題やアイヌの人々のことなど大人になってから知りました。人権を大切にする。他人の
権利を尊重する等々、教育の場でしっかり教えてほしいと思います。
- アイヌの人々の人権について、この地で行政が予算を取って税金を使う必要はない。この地では
もう「アイヌの人々」という差別はないのではないだろうか。しかし反面、「同和問題」特に、「えせ
同和行為」に対しては、行政はきびしくあたって欲しい。民間企業にまでその行為がおよぶのは絶
対に許せない。その行為が今もあるから「同和問題」は解決しない。一番影響を受けるのは「部落
の人」いつまでも差別は消えなくなる。もう一つ、今のこの国の国民の権利は過保護すぎるぐ
らい守られているように思う。それよりこの市で町で世界の国の人権を守る訴えを発信したらシ
リアの内戦、国民の命をいったい何だとおもっているんだ！！北朝鮮も同じ、イスラムの国々、
人の命をあまりにも軽く見ているのでは、人権と言うより「人命を守る」そんな運動を
我が町多治見でやって欲しい。募金運動でもいい、集会でもいい。デモの行進でもいい。行政
が中心になるのはまずいかもかもしれないが、他の団体に動きかけないと……。もちろん税金
は最小限に……
- 同和問題は昭和34、5年頃に最後に聞いたと思います。どうして今頃、この時期になるとこの
話題が出てくるのでしょうか？今の若い人は余り知らないと思います。それでも、まだ問題
があるのでしょうか？

外国人について

- 多治見市ではないが”不良外国人”などと書いたポスターはやめてもらいたい。
- 差別特別を「区別出来ていない。もしくはわざと混合させている」人権派と称する団体等が多
すぎると思います。人権問題と称して外国籍の人達が日本の参政権を要求してきていますが、
地方参政権であっても渡すべきではないし、それは外国人に対する差別どころか日本人に対
する逆差別にすらなると思います。日本人は生活保護の審査に通らず、餓死されてしま
った方達がいる一方、簡単に受けられる外国人がいるのはあきらかに逆差別です。自
分で生計を営む事の出来ない外国人をなぜ日本人が養う必要があるのでしょうか？失
業をしてしまった等、数か月の猶予が必要な場合をのぞき、働くつもりもなく何年何
世代にも渡って受給しているのは不正受給ではないのでしょうか。そういう人達は
一日も早く母国に帰ってもらうべきです。日本は日本人の国です。働く気もない外
国人を養うためにある訳じゃないです。犯罪率の高い外国人がいれば、かわりたく
ないと思うのはあたりまえです。それを「差別された！！」と言うのはあきらか
におかしいです。窃盗を繰り返すような人を雇いたくないのは当然です。不当な
要求は断固拒絶して頂きたいです。不逞外国人のために、日本が好きで日本で働
きたい、学びたいと思っている普通の外国人の方々が不利益を被るべきではな
いと思います。「差別」を名目にして外国人に日本人と同じ、もしくは同等以上
の権利を与える事のないようにお願いします。

インターネットについて

- はっきり言ってあまり人権について考えたことはありませんでした。質問に答えているうちに、私
も人権侵害を受けていたのだと思い、びっくりしました。今は、インターネットなどにより、誰
の手も借りることなく、人を中傷することが出来ます。そして、それを誰でも見る事が出来
ます。全

インターネットについて

くの嘘でも、本当の事のように世の中に伝わっていきます。とても恐ろしいことだと思います。大人も子どももそのことを理解し、人を思いやれるようになっていけば、人を傷つけず、人とのつながりや絆が出来てくるのだと思います。幼い頃から、そんな話をする機会が、学校や家庭に出来てくれればと思います。

- ・ LINEなどのアプリケーションを使用した子ども達同士のトラブルが急増しているような気がします。子どもの人権を守るためにも、まずは親世代の認識を改めさせるような啓発活動を行うべきではないかと考えます。親が簡単にスマートフォンやアイパッドなどの通信機器を買い与えてしまうため、まだまだ未熟な中高生が間違った使い方をしてしまっていると思います。大人の目の届かないところでのトラブルが以前よりも確実に増えています。家庭環境で子どもは変わります。まずは親から変えていくことが大切だと思います。

人権教育について

- ・ 人権に重きをおきすぎると人権をタテに主張される場合もある。何かにつけて人権って言われると、世の中がギスギスするような気もある。人権も大切だが、おもしろいも大切にしたい。家庭での言葉遣いや行いも気をつけねばならない。乱暴な言葉遣いや態度も各家庭のあり方に大きく左右される。品格のある言葉遣いや態度を身につけられたいものです。と書くと、それは家庭の問題だから。と片付けないで下さい。「家庭の問題だから。」はよく耳にする言葉です。そんなことも含めて、おもしろいのある町づくりはいかがでしょう。
- ・ 旧制の学校教育科目の中で修身の時間がありましたが、戦後なくなりましたが、自分の行いを正しくする教育の時間が大事だと思います。子どものいじめの問題も、親の教えが大事です。
- ・ 今まで、私や私の周りで人権侵害にあっている人はいなかった（気がする）ので、各問題をあまり深く考えたことはなかったのですが、今回のアンケートであらためていろいろな問題があるのだなあと認識しました。加害者側が心を改めるような教育活動ができれば一番ですが、それはなかなか難しいことだと思いますので、まずは被害者側のサポートや相談窓口を広く知ってもらい、利用を広めていくことが一番大事かなあと考えています。
- ・ 人権問題で市に要望することは、人権意識の向上に学校の先生、市役所の職員等の言動が市民に与える影響が大きいので、職場での点検を充分に行ってください。
- ・ 学校教育の見直しをして下さい。社会にでたという自覚が少ないと思います。
- ・ とても難しい問題なのでわかりやすく正しい知識を広め各個人が認識を深めていかななくてはいけないと感じます。子どもの頃からの親、教育者のかかわり方で基本的な考え方が身につくとと思うので、子どもの頃から少しずつ教えなくてはいけないと思います。そのためには大人がもっと知識を深めること、関心を示すことが大事。現代の親は問題あり。そこが正されなければ子ども世代もかわらないと思います。「相手がどう思うか？」これを考えようとする親が少ない。その親からは、そのような考えをもつ子どもは育たない。相手を思いやる心を育むことが人権問題を考えて行く土台に思います。教育者にも同様の事が言えます。未熟な親をサポートする行政対策、子どもを指導する教育者、そして親が相手を思いやれる心を子どもに教えていくことがいちばん根本だと思うので、そのような方向にすすむ様とりくんでいただけたらと思う日々です。すばらしい尊敬できる教育者を沢山増やしてください。
- ・ どれも同じだと思います。その人間一人ひとりを大切にする。命はとても大切なものだと認める。そう思っていれば差別しようとは思いません。皆一緒だと思います。それは根本、家庭教育だと思います。家の中でおじいちゃん、おばあちゃんを大切にするとか、みんな助け合わない生きていけないんだという事とか小さい時から両親に言われて育てば、そう思う子どもが育ちます。やっぱり学校が大切だと思うなら、そういう道徳の授業は必要。ゆとり教育をやりはじめてからが特にひどいので、そのためだと認めて、再開したらいいと思います。人権というなら、それを教育にもり込まないのは、おかしいと思います。
- ・ 今まで人権問題について関心を持った事がありませんでした。今回のアンケートだけでも自分の知識のなさを痛感してしまいました。今後、どんなささいな事でも、意識する事ができればと思います。
- ・ アンケートを記入しながらあらためて種々の人権について考え勉強させて頂きました。
- ・ 啓発活動の充実や相談機関の充実といっても侵害がおきてからでは手おくれで”いじめ”は今はいじめている事は犯罪ですといわれるようになりましたが、少し前まではいじめられている側がそれだけの原因があるようにいわれていた。世の中東日本大震災あたりからガラリとかわりました。ロ

人権教育について

ンドンオリンピックの柔道となでしこジャパンのチームの精神的体質のちがいが、結果にあらわれた事にもみるように”しごき”では効果があがらないことがよくわかることから本当に人が人としてどの人も大切にされる多治見市を望みます。不景気でも黒字の会社は社員がお客を大事にする社訓のあるところで手広く事業を拡げても社員を大事にしないところは問題がおきる…トップが成績重視で部下にきびしくすれば部下はおこられたくないからとミスをかいたり心にストレスがたまり社会自身にも結局マイナス要因であることから人を人として大切にすることはこれからの発展には一番大事な事と思う。悩んでいる人は相談にいく気力もでない事を行政や会社の人たちはもっと認識してほしいです。会社も社員でなりたっています。社長がえらいので社員が働いてくれるから会社が成り立つし多治見市もひとりひとりの市民（赤ちゃんからもうねたきりの人まで）あるから多治見市の顔があります。嫁、しゅうとの問題はあたりまえ（今では）→これから嫁がしゅうとに感謝すればしゅうとも嫁に感謝どちらが先に「ありがとう」がいえるか→人権問題の解決のキーワードは”ありがとう”のように思う。

- 全ての人に教育を。思い込み、かんちがいを無くす
- 人権問題に対し、そんなに深く考えた事はありませんが、生活の中で「？」と思うこともたくさんあります。それぞれの人が、幸せにくらせるように、小さい頃からの教育が必要だと思います。学校だけに頼る、家庭だけの教育に頼るというのではなく、社会全体で、子どもを育てていくことが大事です。子どもが、大人になって、社会を作っていくのですから……。ちゃんと、子どもを叱る事ができる大人が必要だと思っています。道徳教育→学校の授業の数を増やすとか……。あり方を考えてはどうでしょうか。

相談・支援体制について

- 多治見市がこの問題について机上の案でなく行動に移している事は全く知りません（私が知らないだけかも……ですが）私は幸いにもこの問題で大変な思いをした事はありませんが、救いの手を必要としていらっしゃる方は大勢いらっしゃると思います。そういう方達に救いの場所が有る事を伝えれば良いですね。もしそういう場所がまだないなら、早く作って皆さんに伝えて下さい。がんばって下さい。
- このアンケートに参加できて良かったです。私が一番思う事は高齢者、男女、障がいなどと分ける事が良くないと思っています。例えば、父と母どちらが好きという質問も相手側の心を傷つける事があるかと……。社会・環境・大人などの発言行動により子も違う目で言動し、一人の良い個性を傷つけます。今、必要なのは心と言葉の教育をやるべきかと思っています。色々な体験・交流などで、人は心や身体から何かを感じ・知る・理解できる・学ぶという事ができます。新しい発見・生きる楽しさを見つけれると……。私は多治見市独自の人権月間を決めイベント開催。多くの方が自宅の近くでも参加できるよう、行政、企業、地域が場の提供等をして頂き、色々な体験・交流ができる音楽、芸術祭、講演、ワークショップ、疑似体験、昔のあそび、自然体験など心に感じ残るイベント、企画を皆で多治見市全体につくれば、多治見市にも変化が出てくると思います。心を育てる事は、言葉、心が豊か＝幸せ＝生きる喜び＝住みやすい町つまり、平和な暮らしとなります。努力した分、必ず実となり、花が咲きます。継続、改革を……。あと、自然の破壊を最小限にとどめ、季節を感じる六感を大切にしたいです。又空き地、家の活用により悩んでいる方を救える場になれば嬉しいです。もう一つ、SOSBOX（メール）、窓口の機関などが子どもから大人まで目につく所にあると、いいな一と思っています。本当に人権問題がなくなる事を心より願っています。本当に今後を楽しみにしています。ありがとうございました。
- 人権を侵害されている人、人権を侵害している人以外の第三者が協力してとめてあげられる。とめてあげやすいようにしていけると良いと思う。私自身人権への知識が乏しいので、人権についてまずは知っていく事を大切にしたい。一人ではなかなか勇気がなく、とめられませんが、周りの人と協力して、虐待や暴力（DV）などを目にしたら力になれるようになりたいです。地域住民が力を合わせる事が大切だなあと感じています。
- 広報に相談窓口が掲載されており、市でこのような企画がされていることで、一人で悩み苦しみということはないのではないかと思います。
- 息子が、子ども会議のスタッフとして、2年間お世話になりました。くらし人権課の方と豊田市の活動を勉強しに行ったり、子どもの人権、エコ活動について話し合うことで、自分の意見を持って発言する事で責任感を以前より持てるようになりました。市長さんとお話させて頂く機会もあり、将来に役立つ経験をさせていただきました。色々ご指導ありがとうございました。

相談・支援体制について

- ・ 人権問題に相談に乗ってほしい人だけではないに対応する機会場所をもうければ良い。全体のその他の人々に新たに何かを取り組む必要はないではないか。さしあたってどんな問題が多治見市にあるのか又調査する必要がある。職員は経費節減し、無駄を省くアンケートでもうやれば良い。減税をめざし無駄を省く！人権問題に相談に乗れる場所機関の充実を目指しそこから何が必要か検討すべし！
- ・ 幼児の育児中における、母親（父親）の人権について。育児中とは孤立しやすいものです。私のように、他県から来た為、実家が近くにないなど・・・、すぐに頼れる場所や人がいない人も多くいます。多くの機関や、書物などにおいて、子どもと離れることで親のリフレッシュを図ることの重要性（良好な関係、虐待の防止の為など）が説かれています。多治見市では、そのハードルが高いように思います。利用料金の最も安い、公立保育園での一時保育は、「やむをえない事情」のみ受け入れるとうかがいしましたが、本当でしょうか・・・。それでは、親というのは「まだまだ頑張れるかも・・・料金を払ってまで頼らなくても親がもっと頑張れば・・・」という気持ちにすなりまます。もっと、気軽に。もっと頼りやすい機関が門扉を大きく開いてくれていると、母親は頑張りがすぎないと思います。育児をしやすくすることで、母親の、一人の人間としての人権を守って欲しいと思います。産後の一か月健診の際、いらっしゃる方が、母親に対し、心無い言葉を使う、言うというケースをよく聞きます。年配の方がいらっしゃる場合によくある事のように、経験や知識をふりかざすような訪問ではなく、温かいサポートとしていらして欲しいと思います。ご指導をお願い致します。傷付けられた母親が多くいらっしゃいます。
- ・ 私は、多治見市に人権問題に関する相談窓口や活動をあまり知りませんでした。もう少し情報を知ることができるようにしてほしいです。

アンケートについて

- ・ とても難しいアンケート内容でした。日頃、身近でない人権問題に関してはとても答えにくいです。想像力を働かせて応える問題ではないと思いますので、アンケートのとり方をもう少しわかりやすくしてほしいです。
- ・ 同和問題、同和地区、そもそも何のことかわからない。言葉の意味を説明した上でアンケートをしてもらいたい。
- ・ アンケートについて 非常に難しく返答に苦慮しました。日常生活の中であまり考えることがない内容ばかりです。
- ・ どうせアンケートをとるだけで市政に反映しないのに、催促のハガキまで出してポーズをとるのはやめてほしい。集計して発表するだけで仕事しているつもりにならないでください。
- ・ 難しい問題だと思います。アンケートの質問作り回答作りもご苦労されたと思いますが、全回答するのも大変でした。長すぎるのでは。
- ・ しっかり解ってなくて迷いながら答えた様な感じで、自分に難しい質問でした。今後勉強する事かなと思いました。遅くなり申し訳ございませんでした。
- ・ 同和問題の件、わかりません。インターネットもやっておりません。
- ・ 70才以上の人には解答しにくい。分からないから。ごめんなさいネ。御苦労様。

その他

- 正直深く考えた事はありません。自分や周りにそういった被害を受けた等そういう話も聞いた事が無いので身近な問題と感じません。ただ大事な事ではあるとは思いますが。
- 人権問題とはちがうかもしれませんが…。私は今、住む家の事で悩んでいます。市営住宅や県営住宅に入りたいと思っています。相談にのっていただきたいと思っています。
- 人権問題とむずかしい言葉ですが、お互いを理解し合い一人ひとり、個人の幸せを願えばそんなにむずかしい問題ではない。その人の幸せを育てて行きましょう。
- 権利とは人間同士の約束事に過ぎず、これを普遍的な特権の様に主張することには反対である。多治見市には人権によらず市民のためになる行政活動を望む。
- 人権を尊重できない人は人間のレベルが低いと思っています。注意すればするほど、悪循環になるので救済には繋がらないのが現状です。北欧に行った時、日本との違いに感銘を受けました。期待は出来ませんが頑張ってください。
- 人権について特別に考えた事はなかった。
- 人と人のつながりを大切にするあたたかい多治見市を希望します。

資料 調査票

多治見市「人権に関する市民意識調査」ご協力のお願い

日頃は、市政につきまして多大なご協力とご理解をいただき、誠にありがとうございます。

多治見市ではこのたび「人権に関する市民意識調査」を実施することになりました。この調査は、市民の皆さまから人権尊重に対するご意見をいただき、市民一人ひとりの人権が尊重されるまちの実現をめざして来年度策定する「多治見市人権施策推進指針」と、今後の人権施策の検討資料とさせていただくために実施するものです。

ご回答をお願いしております方は、多治見市にお住まいの20歳以上の男女2,000人で、無作為に選ばせていただきました。

調査は無記名でお願いするものです。得られた結果は統計的に処理したうえで分析しますので、個人のお名前が出たり、他の目的に使用することは決してありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ぜひご回答くださいますようご協力お願い申し上げます。

平成25年10月 1日
多治見市長 古川 雅典

ご回答にあたってのお願い

- ①質問には、必ず封筒の宛名のご本人がお答えください。
- ②ご記入は、黒のボールペン、濃い鉛筆、万年筆などをお願いします。
- ③お答えは、あてはまる回答の番号を○で囲んでください。
- ④各質問の中には、「2つまで」「いくつでも」などと○印の数を指定させていただいている場合がありますので、それにしたがってお答えください。それ以外は1つ選んでください。
- ⑤住所・氏名を書いていただく必要はありません。

※調査票をご記入いただきましたら、恐縮ですが同封の返信用封筒で10月18日（金曜日）までにご投函ください。

この調査票について不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

【問い合わせ先】

多治見市役所環境文化部くらし人権課
担当：丹羽・森本
TEL：22-1111 内線1152
E-mail：kurashi-jinken@city.tajimi.lg.jp

多治見市人権に関する市民意識調査票

あなた自身について

問1. あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2. あなたの年齢は次の中のどれですか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代 |
| 4. 50歳代 | 5. 60歳代 | 6. 70歳以上 |

問3. あなたの家族構成はどれですか。(〇は1つ)

- | |
|-------------------------|
| 1. ひとり暮らし |
| 2. 一世代世帯(夫婦のみ) |
| 3. 二世帯世帯(親とその子ども) |
| 4. 三世帯世帯(祖父・祖母と親とその子ども) |
| 5. その他() |

問4. あなたの職業は何ですか。(〇は1つ)

- | | |
|--|--------------------|
| 1. 自営業・経営者(農林水産業・商工・サービス業・自由業等個人事業主と家族従業員、会社経営者など) | 3. パート・アルバイト(内職含む) |
| 2. 勤め人(役員、会社員、公務員など) | 5. 学生 |
| 4. 専業主婦(夫) | 7. その他() |
| 6. 無職 | |

人権全般について

問5. 以下のそれぞれの人権問題で、あなたが関心をもっている問題は何ですか。(〇は3つまで)

- | | |
|----------------------|---------------------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 2. 子どもの人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 4. 障がい者の人権問題 |
| 5. 同和問題 | 6. アイヌの人々の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 8. 感染症患者等(エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病元患者)の人権問題 |
| 9. 刑を終えて出所した人の人権問題 | 10. 犯罪被害者等の人権問題 |
| 11. インターネット等による人権問題 | 12. 性的指向の異なる人の人権問題 |
| 13. ホームレス状態にある人の人権問題 | 14. 北朝鮮によって拉致された被害者の人権問題 |
| 15. 性同一性障がい者の人権問題 | 16. 人身取引(性的搾取、強制労働を目的とするものなど) |
| 17. 東日本大震災に起因する人権問題 | 18. その他() |

問6. あなたは、これまでに以下の人権侵害を受けたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 事実と異なる噂や他人からの悪口、陰口	2. 名誉・信用のき損、侮辱
3. 暴力、脅迫、強要 (DVを含む)	4. プライバシーの侵害
5. 職場における差別待遇	6. いじめ、虐待
7. セクシュアル・ハラスメント	8. ストーカー行為
9. 人権侵害を感じたことがない	10. その他 ()

問7. また、あなたは差別をされたと思ったことはありますか。ある場合、それはこういった内容のものでしたか。(○は3つまで)

1. 年齢	2. 学歴・出身校	3. 職業	4. 収入・財産
5. 家柄	6. 母子・父子家庭、両親無し		7. 心身障がい・疾病
8. 性別	9. 容姿	10. 部落差別	
11. 人種・民族・国籍	12. 思想・信条	13. 宗教	
14. 差別をされたことはない	15. その他 ()		

問8. もしも人権侵害を受けた場合、どのような対応をしますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 黙って我慢をする	2. 相手に抗議をする
3. 家族に相談をする	4. 友人に相談をする
5. 所属する団体やサークルに相談をする	6. 民生委員等に相談をする
7. 弁護士に相談をする	8. 法務局や人権擁護委員に相談をする
9. 県や市役所など公的機関に相談する	10. 警察に相談をする
11. その他 ()	

女性の人権について

問9. 女性の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(○は1つ)

1. かなりある	2. まあまあある
3. ふつう	4. あまりない
5. まったくない	

問10. あなたは、多治見市が「男女共同参画推進条例」を制定していることを知っていますか。(○は1つ)

1. 内容を知っている	2. 内容はある程度知っている
3. 名称を聞いたことがあるが、内容はあまり知らない	
4. 名称も知らない	

問1 1. 女性の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

(○は2つまで)

1. 「男は仕事、女は家庭」など性別による固定的な役割分担意識があること
2. 職場において、採用や昇進・昇格などで男女の待遇に差があること
3. 地域社会において、慣習やしきたりに女性の参加制限があること
4. 家事・育児や介護などを男女が共同して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと
5. メディアにおいて、伝えたい内容に関係なく女性の水着姿やヌードなどを使用していること
6. ストーカー行為や痴漢行為を受けること
7. セクシュアル・ハラスメントや、夫またはパートナーからの暴力を受けること
8. 売春・買春・援助交際があること
9. 特に問題だと思わない
10. わからない
11. その他 ()

問1 2. 女性の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 男女平等意識を確立するための啓発活動を推進する
2. 職場において、採用や昇進・昇格などの男女の待遇の差をなくす
3. 家庭・地域において、慣習、しきたりや性別による固定的な役割分担意識を男女平等の観点から見直す
4. 家庭生活と職場の両立が容易になるような就労環境の整備を図る
5. 学校教育や生涯学習の場で、男女平等を推進するための教育・学習活動を充実させる
6. 女性への暴力などの犯罪防止と取締りを強化する
7. 女性の人権に関する相談体制を充実させる
8. 特に必要だと思わない
9. わからない
10. その他 ()

高齢者の人権について

問17. 高齢者の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. かなりある | 2. まあまあある |
| 3. ふつう | 4. あまりない |
| 5. まったくない | |

問18. 高齢者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

(〇は2つまで)

- | |
|----------------------------|
| 1. 経済的に自立が困難なこと |
| 2. 働ける能力を発揮する機会が少ないこと |
| 3. 悪徳商法の被害が多いこと(振り込め詐欺を含む) |
| 4. 病院や養護施設での扱いが悪いこと |
| 5. 高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること |
| 6. 高齢者に対する虐待が増えていること |
| 7. 高齢者の意見や行動を尊重しないこと |
| 8. 特に問題だと思うことはない |
| 9. わからない |
| 10. その他() |

問19. 高齢者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- | |
|---|
| 1. 年金や住宅、福祉、医療サービスなどを充実し、高齢者が自立して生活できる環境を整備する |
| 2. 高齢者が経験を生かして働ける機会を確保する |
| 3. 高齢者をねらった犯罪の防止に努め、高齢者の生活や権利を守る制度を充実させる |
| 4. 高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する |
| 5. 高齢者の人権に関する相談体制を充実させる |
| 6. 高齢者和其他の世代との交流を促進する |
| 7. 高齢者が知識や経験を生かして活躍できるよう、生涯学習やボランティア活動の機会を増やす |
| 8. 特に必要だと思うことはない |
| 9. わからない |
| 10. その他() |

障がい者の人権について

問20. 障がい者の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. かなりある | 2. まあまあある |
| 3. ふつう | 4. あまりない |
| 5. まったくない | |

問21. 障がい者の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

(〇は2つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 道路の段差や駅や建物の階段など外出に支障があること |
| 2. 就労の機会が少ないこと |
| 3. 障がい者の生活を支援する福祉サービスが十分でないこと |
| 4. スポーツ活動や文化活動などに気軽に参加できないこと |
| 5. 障がい者の暮らしに適した住宅が身近な地域に少ないこと |
| 6. 差別的な発言や行動を受けること |
| 7. 近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと |
| 8. 特に問題だと思わない |
| 9. わからない |
| 10. その他 () |

問22. 障がい者の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 障がい者が安心して外出できるよう建物の設備や公共交通機関を改善する |
| 2. 障がい者の就労機会を確保する |
| 3. 障がい者が必要とする福祉サービスの拡充や入所施設を整備する |
| 4. 障がい者がスポーツ活動や文化活動に参加しやすい環境を整備する |
| 5. 障がい者の人権を守るための啓発活動を推進する |
| 6. 障がいがある人とない人との交流を促進する |
| 7. 障がい者の人権に関する相談体制を充実させる |
| 8. 特に必要だと思わない |
| 9. わからない |
| 10. その他 () |

同和問題について

問23. 同和問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. かなりある | 2. まあまあある |
| 3. ふう | 4. あまりない |
| 5. まったくない | |

問24. 同和問題に関して、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

- | |
|--|
| 1. 差別的な言動(インターネットを悪用した差別的な書込みを含む) |
| 2. 就職・職場での差別・不利な扱い |
| 3. 結婚問題での周囲の反対 |
| 4. 身元調査を実施すること |
| 5. 地域の付き合いでの差別・不利な扱い |
| 6. 同和地区への居住の敬遠 |
| 7. 同和問題についての理解や認識が十分でないこと |
| 8. えせ同和行為(同和問題を口実にして会社や官公庁などに不当な要求をする行為) |
| 9. 特に問題だと思わない |
| 10. わからない |
| 11. その他() |

問25. あなたのお子さんが(いらっしゃらない場合は、いると仮定して考えてください)、同和地区出身の人と結婚するとしたら、あなたはどのようにしますか。(〇は1つ)

- | |
|---------------------------|
| 1. 同和地区の人であるかないかは関係なく祝福する |
| 2. こだわりはあるが、子どもの意思を尊重する |
| 3. 家族・親戚などの反対があれば認めない |
| 4. 絶対に結婚を認めない |
| 5. わからない |
| 6. その他() |

問26. 同和問題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- | |
|---|
| 1. 同和地区の生活環境をよくする |
| 2. 同和地区の人々の収入の安定向上を図る |
| 3. 同和地区の人々の教育水準を高め、生活力を向上する |
| 4. 同和問題に関わる人権の相談体制を充実させる |
| 5. 同和問題に関する意識を高め、積極的に地域の交流を図る |
| 6. 学校教育、生涯学習を通じて、人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う |
| 7. 同和地区のことや差別のことなど口にださないで、そっとしておけば自然になくなる |
| 8. 特に必要だと思わない |
| 9. わからない |
| 10. その他() |

アイヌの人々の人権について

問27. アイヌの人々の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. かなりある | 2. まあまあある |
| 3. ふう | 4. あまりない |
| 5. まったくない | |

問28. アイヌの人々の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

- | |
|--|
| 1. 差別的な言動（インターネットを悪用した差別的な書込みを含む） |
| 2. 就職・職場での差別・不利な扱い |
| 3. 結婚問題での周囲の反対 |
| 4. 住宅、生活環境など生活水準が低い |
| 5. 独自の文化や保存、伝承が図られていない |
| 6. アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと |
| 7. 特に問題だと思わない |
| 8. わからない |
| 9. その他（ ） |

問29. アイヌの人々の人権を守るために、特にどのようなことが必要だと思えますか。(〇は2つまで)

- | |
|--|
| 1. アイヌの人々のための人権に関する相談体制を充実させる |
| 2. アイヌの人々の独自の文化や伝統について認識を深めるための教育・啓発活動を推進する |
| 3. アイヌの人々の就職の機会を確保する |
| 4. アイヌの人々の収入の安定向上を図る |
| 5. 特に必要だと思わない |
| 6. わからない |
| 7. その他（ ） |

刑を終えて出所した人の人権について

問36. 刑を終えて出所した人の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。

(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. かなりある | 2. まあまあある |
| 3. ふつう | 4. あまりない |
| 5. まったくない | |

問37. 日頃から親しくつきあっている職場の人や、近所の人が刑を終えて出所した人であるとわかったとき、どうしますか。(○は1つ)

- | |
|------------------------------|
| 1. これまでと同じように親しくつきあっていく |
| 2. つきあいは変わらないが、いろいろ気をつけてつきあう |
| 3. 表面上はつきあうが、できるだけつきあいを避けていく |
| 4. つきあいをやめてしまう |
| 5. わからない |
| 6. その他 () |

問38. 刑を終えて出所した人の人権を守るために、特にどのようなことが必要だと思いませんか。

(○は2つまで)

- | |
|---|
| 1. 刑を終えて出所した人に対する理解や認識を深めるための教育・啓発活動を推進する |
| 2. 刑を終えて出所した人が社会復帰しやすい環境づくりを確保する |
| 3. 刑を終えて出所した人の就職の機会を確保する |
| 4. 刑を終えて出所した人のための相談体制を充実させる |
| 5. 犯罪の種類や刑の重さによって違うので、なんとも言えない |
| 6. 特に必要だと思わない |
| 7. わからない |
| 8. その他 () |

犯罪被害者とその家族の人権について

問39. 犯罪被害者とその家族の人権問題について、関心の度合いはどの程度ありますか。

(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. かなりある | 2. まあまあある |
| 3. ふつう | 4. あまりない |
| 5. まったくない | |

問40. 犯罪被害者とその家族の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(○は2つまで)

- | |
|--|
| 1. 犯罪被害によって精神的なショックを受けること |
| 2. 犯罪被害によって経済的な負担を受けること |
| 3. 報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること |
| 4. 事件のことを周囲にうわさされること |
| 5. 警察に相談しても期待どおりの結果が得られにくいこと |
| 6. 刑事裁判で必ずしも被害者の声が十分に反映されるわけではないこと |
| 7. 特に問題だと思うことはない |
| 8. わからない |
| 9. その他 () |

問41. 犯罪被害者とその家族の人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。

(○は2つまで)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 精神的被害に対応するためのカウンセリングを行う |
| 2. 犯罪被害者とその家族のために経済的支援を行う |
| 3. 犯罪被害者とその家族の人権に配慮した報道や取材を行う |
| 4. 犯罪被害者とその家族のための人権を守るための教育・啓発活動を推進する |
| 5. 犯罪被害者とその家族のための相談体制を充実させる |
| 6. 捜査や刑事裁判において犯罪被害者とその家族に配慮した施策を講じる |
| 7. 特に必要だと思うことはない |
| 8. わからない |
| 9. その他 () |

インターネットによる人権侵害について

問42. インターネットによる人権侵害について、関心の度合いはどの程度ありますか。

(○は1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. かなりある | 2. まあまあある |
| 3. ふつう | 4. あまりない |
| 5. まったくない | |

問43. インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(○は2つまで)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などを掲載すること |
| 2. 出会い系サイトなど犯罪を誘発する場が存在すること |
| 3. ネットポルノなど有害なホームページが存在すること |
| 4. 悪質商法によるインターネット取引が存在すること |
| 5. 加害少年の実名や顔写真等が掲載されること |
| 6. 個人情報などが流出していること |
| 7. 特に問題だと思わない |
| 8. わからない |
| 9. その他 () |

問44. インターネットによる人権侵害を解決するために、特にどのようなことが必要だと思いませんか。(○は2つまで)

- | |
|--|
| 1. インターネットにより人権侵害を受けた人のための相談体制を充実させる |
| 2. インターネット利用者に個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する |
| 3. プロバイダ等に対し情報の停止・削除を求める |
| 4. 違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化する |
| 5. 特に必要だと思わない |
| 6. わからない |
| 7. その他 () |

人権教育・人権啓発の方法について

問45. 人権問題についての理解を深め、人権意識を高めるために、今後どのような取組みを行えばよいと思いますか。(〇は2つまで)

1. 行政が啓発活動を積極的に行う
2. 地域の取組みを充実する
3. 企業や職場の取組みを充実する
4. 民間活動団体での取組みを充実する
5. 家庭での教育を充実する
6. 学校での教育を充実する
7. 人権侵害を受けた人への相談や支援を充実する
8. 人権意識は向上しているので特に取組む必要はない
9. 個人の意識の問題なので介入する必要はない
10. わからない
11. その他 ()

問46. あなたは、市民一人ひとりが、人権を尊重しあうために心がけたり行動すべきことはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 人権に対する正しい知識を身につけること
2. 因習や誤った固定観念にとらわれないこと
3. 自分の権利ばかりでなく他人の権利を尊重すること
4. 自分の生活している地域の人々を大切にすること
5. 家庭内での家族の権利を大事にすること
6. 職場で、人権を尊重する意識を高めあうこと
7. 特にすべきことはない
8. わからない
9. その他 ()

問47. 人権侵害に対する相談や救済について、どのようなことが特に必要だと思いますか。(〇は2つまで)

1. 相談員の資質向上や相談時間の拡大など、現在ある制度を充実する
2. 人権侵害された際の適切な相談機関・窓口を広く周知する
3. 人権を侵害した者に対する啓発活動を充実する
4. 人権を擁護するための法制度を整備し、実効性のある救済を行う
5. 人権啓発活動の中で、人権が侵害された時の対処の方法を学ぶ機会を増やす
6. 特に必要だと思うことはない
7. わからない
8. その他 ()

問48. 人権問題に関することで、多治見市へのご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力、ありがとうございました。

※当アンケートを同封の返信用封筒に入れ、10月18日(金曜日)までに投函してください。
尚、切手を貼る必要はございません。

【お問い合わせ先】

多治見市役所環境文化部くらし人権課
担当：丹羽、森本
TEL：22-1111 内線 1152
E-mail.kurashi-jinken@city.tajimi.lg.jp

多治見市人権に関する市民意識調査
報 告 書

平成26年1月

多治見市役所 環境文化部くらし人権課

〒507-8703 多治見市日ノ出町2丁目15番地
T E L : 0572-22-1111 (内線 1152)
F A X : 0572-25-7233

